

**30<sup>th</sup>**  
**Anniversary**

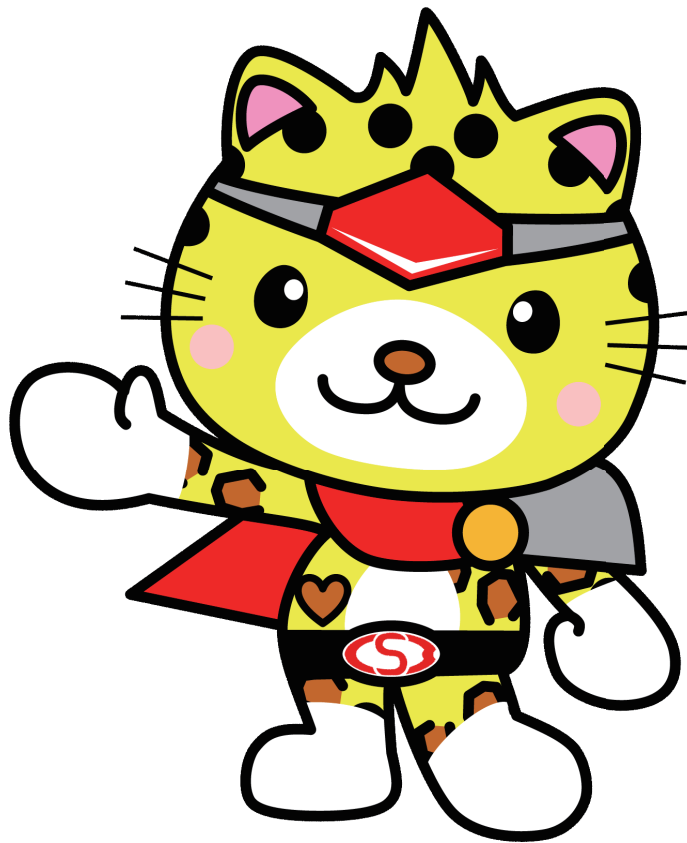


certified social workers

一般社団法人  
**兵庫県社会福祉士会**  
**30周年記念誌**



SINCE 1993.7



#### 【兵庫県社会福祉士会・兵之助の説明】

---

2017年3月誕生

兵庫なので、ヒョウ（兵）をモチーフにし、  
右手を広げて5（庫）を表しています。

#### 【名前の意味】

---

兵庫のあらゆる人々をお助けするために現れた、  
皆様の助っ人という意味を込めています。



# 日本社会福祉士会設立宣言

新しい時代は、新しい人を必要とする。

今日わが国は、新しい価値基準を求めて流動化している国際社会の中で、国民がかつて経験したことのない不確実な時代と社会に突入し、次のあるべき社会の姿を模索している。

時代展望の不透明性、自然破壊、飢餓と飽食のアンバランス、戦争・暴力といった地球規模の問題から、市民社会における排他的利己主義の浸透、「無関心」による非人間化の進行、機械文明への過度の依存、個人生活における精神性・倫理性の低下、人間関係の希薄化、といった諸問題を、国際社会もわが国も抱えている。

加えてわが国では、超高齢社会を目前に控え、出生率の低下と労働力不足、家庭及び地域の養護力・介護力の弱体化や、又市民性と権利意識の未成熟などの諸問題を抱え、さらに多様化した生活様式と価値観の中で「真の豊かさ」を見失っているという状況がある。

こうした状況にあつて、社会と家族及び個人を、地域と生活の両面から支えていこうとする社会福祉の課題は大きく重い。それは、平和と人権と人格の確立を心から願い、全ての人々に温かいまなざしをむける人間尊重の思想を根本に置き、労働能力のみで人間を見ないという「有用性からの解放」の視点に立って、全ての人々の変化と発達の可能性を信じ、全人間的な視点から社会福祉実践を行うことを目標とする我々社会福祉専門職の課題でもある。

我々社会福祉専門職は、全ての人々のより人間らしい「生活の質」(QOL)をめざした生存権と生活権の保障を基礎とし、住宅・労働・教育・保険・医療などの分野と連携しつつ、人々の社会生活上の基本的ニーズの充足を試み、社会的、インテグレーション(統合)と、あらゆるところでのノーマライゼーションの推進・達成を図り、そして「人間尊重」を第一義とする平和で人間らしい生活を営むことができる福祉社会の実現のために、援助を必要とする人々を支えようと努力する。

こうした時代の状況と課題の中で、国家資格「社会福祉士」が、社会の要請に応じて、1987年5月26日、「社会福祉士及び介護福祉士法」(法律第30号)によって法制化され、5年が経過した。

そしてその合格者数は、1960名に達して、我が国最大の社会福祉専門職(ソーシャルワーカー)の団体となることが予測されている。その社会福祉士は、前述したような世界と我が国の種々の課題への対応、並びに社会福祉の増進と向上に貢献することを、自らの責務として自覚する。

社会福祉士は、社会と制度の改革を基盤に、人と環境の相互作用の中に生じる社会的、障害を中心的課題として、社会資源の活用と改革を行いつつ、次のような援助を行いたいと願う。

我々社会福祉士は、援助を必要としている人々の共感的理解と需要を「傾聴愛」をもって行き、それらの人々の変化と可能性に対する信頼を持ち、当事者の「対処能力」の強化を支援し、その自立を側面的に援助し、全ての人々の自己実現への努力を援助する。

「社会福祉士」は、我が国の社会福祉にとって不可欠な存在として育ちつつある。

この資格の重要な意義は、「援助を必要とする人々の生活と人権を擁護すること、そのために社会的発言力を強化すること」にある。またわれわれは、専門ソーシャルワーカーのサービスを高度で公平なものと保証するたにも、公的資格を有効なものとして生かさなければならぬ。

従って、この資格を持つソーシャルワーカーの組織である日本社会福祉士会の目的は、「ひとびとの要求に答えることのできる社会福祉専門職団体としての専門性と実力の向上」にある。又全てのソーシャルワーカーが安定して実践を行うことができるためにも、その社会的地位の向上を図り、保険・医療・教育等の関連分野の専門職と連携しつつ、社会福祉専門職の中核として社会福祉士が団結することが、急務となつてきている。

我々「社会福祉士」は、次のように願う。

我々は闘う、全ての人々のより良き生活のために。

我々は憎む、非人間的な社会を。

我々は愛する、全てのかげがえのない人々を。

我々は援助する、謙虚な心と精一杯の努力をもって。

そのために我々は、明るい、さわやかな、実力を持った、柔軟で民主的な専門職集団を結成したいと心より願う。

ここに我々「社会福祉士」は、自ら負わされた課題と役割の重大さを深く認識し、先に述べた願いを果たす決意をもって、「日本社会福祉士会」の設立を宣言する。

1993年1月15日 日本社会福祉士会

# 兵庫県社会福祉士会 30周年記念誌

## C O N T E N T S

日本社会福祉士会設立宣言	
巻頭言 発行に寄せて	
祝 辞	4
会への想い	25
委員会紹介	30
ブロック紹介	47
記念講演 (2021年3月21日 第23回総会・記念講演から)	54
座談会 30周年記念座談会	58
特別寄稿	65
30年のあゆみ 年表	70
スライド	83
歴代役員一覧	86
アルバム 写真で振り返る	88
編集後記	94





# 「これからの10年、20年先の未来に向けて」

30<sup>th</sup>  
Anniversary

## 30周年記念誌の発行に寄せて

一般社団法人 兵庫県社会福祉士会 会長  
岡本 和久



兵庫県社会福祉士会（以下「本会」という）は、1993年1月に設立された日本社会福祉士会の兵庫県支部として、1993年7月に設立され、今年30周年を迎えました。

これまでの間、本会の活動にご理解、ご協力をいただきました県民の皆様、行政をはじめ、関係者、関係機関、職能団体そして会員の皆様にごことより感謝申し上げます。

本会の発足は、現在の相談役、岡田誠氏を中心に、10数名の有志が集まり発足しました。1995年1月の阪神・淡路大震災では多大なる被害を受けましたが、本会も震災からの復旧・復興へ尽力し、専門委員会の設置や地区ブロックの組織化を図り、現在では17委員会と7地区ブロックを中心に活動の幅を広げていきました。また2009年4月には一般社団法人化、2011年3月の東日本大震災では、宮城県・岩手県へ50名を超える会員を派遣するなど、災害救援活動を積極的に行ってきました。そして、兵庫県から「防災と福祉の連携促進事業」や「ヤングケアラー・若者ケアラー相談窓口」、神戸市から「高齢者・障害者虐待専門職チーム派遣事業」など、20以上の公的事業を受託するなど、全国でも大規模な組織へと発展し、現在の会員数は1,800名近くとなりました。

本会はこれまでの30年間、平成から令和へと日本の福祉の転換期を迎え、在宅福祉の推進や措置から契約へと社会福祉基礎構造改革とともに、介護保険や成年後見、障害者支援、高齢者・障害者虐待防止、生活困窮者自立支援、更生支援、スクールソーシャルワークなどの自立支援や権利擁護の担い手として、高齢者・障がい者・児童等のすべての人々が個人として主体的に生きることにより添うとともに、常に県民・市民に信頼される職能団体を目指してきました。

そのような中、2020年からの新型コロナウイルス感染拡大が社会へ深刻な影響を与えるとともに、2022年2月にはロシアによるウクライナへの軍事侵攻が行われ、エネルギー危機や食料の高騰など、世界的な物価高を引き起こし、社会的な弱者や医療や介護、高齢、障がい、児童分野などで必要な方々の支援をいかに継続していくかが、改めて問われています。

いま私たち社会福祉士は、人と人をつなぎ、人と地域を結びつけ、支援を必要とされるあらゆる人々の福祉向上を支援する専門職として、また、様々な福祉課題の解決はもちろん、制度の狭間に埋もれ潜在化した福祉課題を、顕在化していくセーフティーネットの役割が期待されるとともに、ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点に基づく専門性の向上を図り、地域共生社会の実現とSDGs（持続可能な開発目標）に基づく支援活動を地域社会へと展開することが必要とされています。

これらを実現していくためには、社会福祉士同士がつながり、より一層の連携を深めるとともに、私たち自身が自己研鑽に励み、社会福祉士の地位の向上を目指します。そして、これまでの先輩が作り上げてきた大切なものを引き継ぎ、これからの10年、20年先の未来に向けて皆様と一緒に歩んでいきたいと思っております。

この記念誌が、本会の活動のこれまでの軌跡となり、また多くの関係者や関係機関から応援いただく機会になることを願っております。



# 祝 辞

兵庫県知事 齋藤 元彦



兵庫県社会福祉士会の設立30周年を心からお喜び申し上げます。

貴会30年の歩みは、わが国が成熟社会を迎え、本格的な人口減少・超高齢社会に向かっていく時期と重なります。福祉をとりまく課題が多様化するなか、皆様には、社会福祉士としての専門知識や経験を活かし、多大なご尽力をいただいております。

設立から間もない平成7年、阪神・淡路大震災によってふるさとに未曾有の被害がもたらされたときには、避難所や仮設住宅などで献身的な被災者支援活動を展開していただきました。

令和2年3月には、県内で新型コロナウイルス感染症が初確認され、以来3年に及ぶコロナ禍が、福祉の現場にも深刻な影響を及ぼしました。皆様にはこの間、強い使命感のもと、最前線で福祉サービスを支えていただきました。

歴代会長、会員の皆様のご活動に、改めて感謝申し上げます。

さて、コロナ禍に加え、ウクライナ情勢に端を発する物価高騰、資材不足などが、私たちの暮らしに影を落としています。とりわけ、社会的に弱い立場にある方たちほど、こうした時代の変化の影響を受けやすいのではないのでしょうか。変化の波に飲まれ、置き去りにされる方を生まないように、セーフティネットをしっかりと広げていかなければなりません。とくに、制度の狭間に陥り、十分な支援を受けられずにいる方々に目を向け、きめ細やかな支援を届けていくことが大切です。

そのひとつが、ケアラー・ヤングケアラーです。兵庫県では、令和3年9月にケアラー支援に向けた検討を本格化させ、貴会のご支援・ご協力のもと、令和4年6月には「ヤングケアラー・若者ケアラー相談窓口」を開設しました。10月からはヤングケアラーに向けた配食支援モデル事業をスタートし、令和5年2月には、官民による持続的な支援の枠組みとして「ひょうごフードサポートネット」を構築することができました。

皆様には、地域包括ケアシステムの推進や、医療的ケア児への支援体制の構築、避難行動要支援者のための個別避難計画の作成促進などにおきましても、ひとかたならぬお力添えをいただいております。大変心強く感じております。

貧困の根絶、健康と福祉の向上、ジェンダー平等といったSDGsの目標を達成するには、行政だけでなく、多くの団体・企業とのパートナーシップが重要です。このようななか、福祉サービスのエキスパートである社会福祉士の皆様には、一層大きな役割が期待されています。

誰ひとりとして取り残されることのない、希望と温かさに満ちた兵庫の実現に向け、これからも手を携えてまいりましょう。

最後に、次なる10年、20年に向けて、貴会の益々のご発展と、皆様のご活躍を心から祈念いたします。

# 祝 辞

神戸市長 久元 喜造



兵庫県社会福祉士会が設立 30 周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。貴会の皆様におかれましては、日頃より神戸市の福祉行政に多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

貴会の設立から 30 年間、昨今のように社会情勢の変化が激しい状況下で、その活動を維持し続けることは容易ではなかったと存じます。30 年の長きにわたり、社会福祉・地域福祉のためにご尽力を続けられているのは、会員の皆様一人ひとりの熱心な活動によるものと深く敬意を表します。

現在、貴会から、神戸市市民福祉調査委員会や神戸市地域包括支援センター運営協議会など多くの委員会に参画いただくとともに、生活困窮者への支援事業、成年後見事業、災害時要援護者支援の取り組み、高齢者・障害者支援、子ども家庭支援など、多岐の事業にわたり貴重なご意見を頂戴するなど、様々なご協力をいただいています。また、「高齢者・障害者虐待専門職チーム派遣事業」などの実施にも取り組んでいただいています。高齢者や障害者の虐待事案では、行政だけの対応が困難な場合が多々ございますが、経験豊富な社会福祉士を派遣いただき、専門的な観点でご助言をいただくなど、事案解決のために力強いご支援をいただいております。

神戸市では、「神戸 2025 ビジョン」を策定し、“安心・健康でゆとりあるくらしの実現”を目標に掲げています。近年、人口減少や高齢化による地域社会の変化、新型コロナウイルス感染拡大の影響による生活困窮者の増加、課題を抱えるこども・若者ケアラーなど、社会情勢が複雑化・多様化する中、誰もが安心・安全に暮らせる環境づくりの実現を目指し、今後も様々な施策に取り組んでまいります。

現在のような困難な状況にあっても、貴会の活動に寄せられる期待は一層高まり、会員の皆様の役割は益々重要になるものと存じます。今後も神戸市の福祉行政の推進につきまして、貴会の皆様のなご一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、兵庫県社会福祉士会の益々のご発展と会員の皆様のご活躍を祈念いたしまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。



# 祝 辞

(福) 兵庫県社会福祉協議会 会長 入江 武信



一般社団法人兵庫県社会福祉士会が、設立30周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

この30年で社会福祉情勢は目まぐるしく変化しました。介護保険制度をはじめ「本人(利用者)がどう暮らしたいか」を重視した地域での自立生活支援・ケアマネジメントの実施、権利擁護支援や虐待防止の推進及び地域包括支援センター等の相談支援の拠点拡充が進み、福祉は以前より県民に身近なものとなりました。

県民の相談支援に携わる社会福祉士の皆様は、最も身近で頼もしい存在であり、福祉の幅広い分野の第一線でご尽力いただき、感謝申し上げるとともに深く敬意を表します。

兵庫県社会福祉士会におかれましては、「生活困窮者支援委員会」など情勢に応じた数々の委員会活動、権利擁護センター「ばあとなあ兵庫」や福祉相談センター「ここねっと兵庫」による独自の相談支援事業のほか、社会福祉士の生涯研修の実施により、社会福祉士の資質の向上のみならず、兵庫県におけるソーシャルワーク実践の質の向上に取り組んでおられます。

また、阪神・淡路大震災での避難所や仮設住宅等での支援経験をふまえ、東日本大震災など県内外の被災地での支援活動や、防災の観点を含めた災害時支援活動者の育成にも継続的に取り組まれ、心強い限りです。

少子高齢化、人と人とのつながりの希薄化が進み、社会的孤立を背景とした多様で複合的な生活課題が、コロナ禍でさらに拡大しています。コロナ禍での相談支援や各種研修事業等の実施では大変なご苦勞があったと思いますが、その中でも「兵庫県ヤングケアラー・若者ケアラー相談窓口」を開設するなど、常に新たな課題に取り組まれる皆様は、まさに県内の福祉専門職の模範です。

地域共生社会の実現を目指して、包括的な支援体制を構築し、制度の狭間の課題に取り組むには、社会のあらゆる人が参加し、共生のまちづくりを進めることが欠かせません。社会福祉士の皆様には、そのキーパーソンとして、ご活躍を期待しております。

本会においても、市町社協や社会福祉法人、多様な主体と協働し、県民の困りごとを受け止め、支える全県的な相談支援の仕組みづくりを進めるとともに、福祉人材の確保、育成及び定着に向けて取り組んでまいります。今後とも、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

兵庫県社会福祉士会の今後のますますのご発展と、会員の皆様のご活躍を祈念いたしまして、設立30周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

# 祝 辞

(福) 神戸市社会福祉協議会 理事長 玉田 敏郎



兵庫県社会福祉士会が設立30周年という記念すべき年を迎えるにあたり、お祝いを申し上げます。社会福祉士として児童・障害・高齢福祉、また地域福祉の推進にご尽力頂いております皆さま方の活動にあらためて敬意を表しますとともに、本会の事業へも多大なるご協力をいただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

貴会の設立から30年の間に、社会を取り巻く状況は大きく変化しました。昭和から平成にかけて社会福祉に関する法律が改正され、社会福祉事業が拡充する中、阪神・淡路大震災が起きました。そこから復興に至るまで、貴会では全国のネットワークやその専門性を活かし、様々な場面でご活躍・ご尽力をいただきました。貴会の会員は、福祉の分野で働く方だけでなく、企業やNPO、地域活動の担い手として活躍される方等、まさに分野横断のメンバーが揃っていらっしゃいます。本会事業の推進においては、いつも力強いご支援をいただいております。

現在、貴会から成年後見判定部会や権利擁護事業部会の委員をはじめ、成年後見支援センターで実施している専門相談に相談員を派遣いただいております。また、本会が従来から取り組む地域福祉活動の推進に加え、在宅福祉センターや障害者地域生活支援拠点の運営では、業務における社会福祉士の専門性は必須となり、社会福祉士の資格を保有する職員も多くなりました。

本会では、職員の専門性を向上させるため、入職後の社会福祉士の資格取得を支援しています。入職後に業務の傍ら勉強し、資格を取得した職員が多数います。本会の職員が、社会福祉士を共通項に職務を超えた人脈を育み、また研修等で研鑽を積むことは、ひいては本会の大きな財産です。

コロナ禍においては、市・区社協において生活福祉資金の新型コロナウイルス特例貸付の業務が多忙を極めました。生活基盤がぜい弱なひとり親世帯や非正規雇用の世帯の困窮が表面化し、生活困窮者支援は喫緊の取り組み課題となっています。財源や人材が限られる中で、分野横断的に、また重層的に関係機関と事業を推進することが求められています。

これからの地域福祉の推進や生活困窮者支援の取り組みには、貴会の一層のお力添えが必要です。

ぜひ、今後も事業の推進にお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、貴会の活動がますます発展されますことお祈りいたしまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

# 祝 辞

公益社団法人 日本社会福祉士会 会長 西島 善久



一般社団法人兵庫県社会福祉士会設立 30 周年おめでとうございます。

貴会は、1993 年 7 月 24 日に会員数 55 名で設立され、「明るい、さわやかな、実力を持った、柔軟で民主的な専門職集団の結成を」という願いは、今も変わっていないことと思います。

2003 年 6 月には、「地域における福祉実践の新しい展開～地域生活支援を担う社会福祉士の役割～」をテーマに、第 11 回日本社会福祉士会全国大会を開催され、全国から 1,000 人を超える社会福祉士が参集しました。1995 年 1 月 17 日に発生した阪神・淡路大震災により 6,400 人を超える命が奪われる甚大な被害を受けましたが、「震災を契機に社会福祉士の役割を考える」というテーマで、震災直後からの仮設・復興住宅での被災者救援活動を報告されており、この実践が現在の災害支援活動に繋がっています。

また、2009 年 4 月 1 日には、一般社団法人兵庫県社会福祉士会として新たな船出を迎えられ、前後して、全国の都道府県社会福祉士会も社団法人化を迎え、2012 年 4 月に、日本社会福祉士会は連合体組織へと移行し、2014 年 4 月には、公益社団法人の認可を受けました。

貴会におかれましては、現在、会員数が 1,750 人を超える組織に発展され、地道な活動を通して、「社会福祉士」及び「社会福祉士会」の認知度を向上させ、兵庫県や神戸市等から、「防災と福祉の連携による個別避難計画作成促進事業」、「ヤングケアラー・若者ケアラー相談窓口」など、ソーシャルワークの専門性を生かした 20 を超える事業を受託されています。専門性に基づいたソーシャルワーク実践を通して、社会福祉の増進及び国民生活の向上に寄与されていることに敬意と感謝を申し上げます。そして、今後も社会福祉士としての原点を見つめ、常に社会の要請に応える職能団体として発展し続けていかれることを心よりご期待申し上げます。

この 30 年様々な局面に向き合い、乗り越えながら、社会福祉士会は着実に進んでまいりました。

日本社会福祉士会も将来ビジョンに向けた中期計画を策定し、「ソーシャルワークの推進」、「活動基盤の強化」、「専門性の向上」を掲げ、その実現に向けて取り組んでいます。権利擁護センターばあとなあ、生涯研修制度、認定社会福祉士制度の着実な進展を通して、社会福祉士の資格をより高いものとして位置づけるよう、提言してまいります。

まだまだ社会福祉士が十分に活躍できる環境とは言えませんが、30 年という節目をターニングポイントとして、掲げた目標の達成に向け、日本社会福祉士会と兵庫県社会福祉士会をはじめとした 47 の法人が連合体として団結して取り組むことが重要です。そして、47 の法人一つひとつが発展してはじめて日本が発展するという思いを 30 周年の記念に重ねたいと思います。



# 祝 辞

兵庫県弁護士会 会長 中上 幹雄



兵庫県社会福祉士会の設立 30 周年、誠におめでとうございます。

設立 30 周年を迎え、会員数が 1,750 名を超える組織になられたとのこと、その発展ぶりに敬意を表します。

社会福祉士は、「人間の尊厳」「人権」「社会正義」などの原理に則り、福祉の相談援助に関する高度な専門知識・技術をもって活動し地域に貢献する専門職として、人権擁護と社会正義の実現を使命とする私たち弁護士と同じ方向を向いている士業であると思います。

貢献分野も、高齢者・障害者支援、犯罪者や非行少年の更生支援、生活困窮者支援、子ども家庭支援、災害支援など、当会の活動とオーバーラップする部分が多く、そのほとんどで社会福祉士会の方々に連携協力していただいていますこと、厚く御礼申し上げます。具体的には、高齢者・障害者の虐待対応専門職チームとして、また触法障害者の入り口支援での連携、さらには各市町の権利擁護センター、成年後見センターの各種委員として弁護士と連携協力して頂いております。弁護士は法律の専門家ではあっても、福祉における支援の専門家ではありません。両者がその専門知識を生かして連携協力して支援することにより、よりよい結果が生まれます。

今後も差別解消に関する障害者 ADR を立ち上げる際の専門家委員の推薦にご協力頂くなど、まだまだ連携協力していかなければならない分野が増えこそすれ減ることはないでしょう。

これからの貴会のさらなるご発展と、社会福祉士会・弁護士会の両会が広く市民の支援のために貢献できることを祈念して祝辞とさせていただきます。

# 祝 辞

公益社団法人 兵庫県看護協会 会長 成田 康子



兵庫県社会福祉士会、設立 30 周年おめでとうございます。

貴会は、社団法人日本社会福祉士会の兵庫県支部として 1993 年 7 月に発足され、2009 年には一般社団法人として様々な活動に取り組んで来られました。

社会福祉士は、人と福祉サービスをつなぐ専門家として、地域共生社会に不可欠な存在です。すべての人が人間としての尊厳を有し、人々がつながりを実感できる社会に向けて、専門的な知識と相談技術をもとに、地域住民を支える役割を果たされています。すべての人の生き方や望みをかなえ、その人なりの幸福を追求・支援するためには医療職・介護職・福祉職との連携・調整がとても重要です。

阪神淡路大震災の復興や、新型コロナウイルス感染症の感染拡大など、社会福祉士の災害弱者への生活支援は、地域住民のみならず私たち医療者にとっても心強い存在です。

今後は、更に進展する 8050 問題や貧困、LGBT など高度で複雑な支援が必要となる人々が増えます。利用者の思いや希望と医療・公的支援やサービスをつなぎ、利用者の QOL の向上を兵庫県看護協会は、社会福祉士会の皆さまとともに目指していきたいと思えます。

社会福祉士の皆さまお一人お一人が、地域共生社会の実現には無くてはならない存在として活躍され、兵庫県社会福祉士会の今後の益々のご発展をお祈り申し上げます。

# 祝 辞

兵庫県司法書士会 会長 鈴木 浩巳



一般社団法人兵庫県社会福祉士会が設立30周年を迎えられることを心よりお祝い申し上げます。

貴会は、社会福祉の援助を必要とする兵庫県民の生活と権利を擁護し、地域福祉サービスの推進と発展を図ることにより、兵庫県民の社会福祉の向上に寄与することを目的とされています。社会福祉士の皆さまは、ソーシャルワークの専門家として、行政の相談窓口、高齢者・障がい者・児童の福祉施設、医療機関、社会福祉協議会、地域包括支援センター、独立型社会福祉事業所など広く社会で活躍され、虐待対応についても、多くの実践を積んでおられます。

一方、司法書士は、2000年4月の成年後見制度の施行に伴い、後見業務に携わるようになったことにより、社会福祉士の皆さまとの関りが大きくなりました。具体的には、被後見人等の入所施設、病院、行政窓口などで多くの社会福祉士の皆さまのサポートを受け、また、共に専門職後見人等として活動を行っております。

現在、第2期成年後見制度利用促進基本計画に基づき、権利擁護支援の地域連携ネットワークの一層の充実などの成年後見制度利用促進の取組みが進められております。司法書士も権利擁護の担い手として、地域共生社会の実現に向けて、社会福祉士の皆さまと共に取り組んで参りますので、今後とも宜しく願いいたします。



# 祝 辞

一般社団法人 兵庫県介護福祉士会 会長 丸田 守



このたび兵庫県社会福祉士会が設立 30 周年の節目を迎えられましたことを、心からお祝いを申し上げます。

少子高齢化の進行と、社会経済の低迷などにより、社会を取り巻く環境は著しく変化し、福祉のニーズの多様化に伴い、高齢者及び障害者だけでなくヤングケアラー等の課題にも、積極的に取り組み活躍している貴会の活動に心から敬意を表します。

1987 年に社会福祉士法及び介護福祉士法が成立し、共に誕生した国家資格として地域福祉について共に考え、協力していけたらと思っています。

今後も職能団体として、会員皆様の自己研鑽と資質の向上への取り組み、更には複雑で多様化する地域福祉の課題に対しての活動にも期待しています。

さいごに、兵庫県社会福祉士会の益々のご発展と、会員皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

# 祝 辞

一般社団法人 兵庫県精神保健福祉士協会 会長 北岡 祐子



兵庫県社会福祉士会設立30周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。設立から現在に至るまで、兵庫県における社会福祉活動を担い幅広くご活躍されている皆様に深い敬意を表します。

兵庫県社会福祉士会におかれましては、多岐にわたる社会貢献に加え、当協会を含む県下のソーシャルワーカー5団体のまとめ役として、連携と協働による事業を多く推進してくださいました。2015年から共同開催している市民への啓発活動「ソーシャルワーカーデー」、災害対策や権利擁護、ヤングケアラー等の合同研修会、電話相談など会員同士の交流や資質向上にご協力を賜り、厚く感謝申し上げます。また精神障害のある方への人権侵害問題についても連名で権利擁護活動に取り組んでいただき大変心強く感じております。

昨年わが国では障害者権利条約の対日審査が実施され、障害者総合支援法や精神保健福祉法等の改正など、福祉施策の変革期でもあります。当協会といたしましても、変化に対応しながら県民が望む医療・保健福祉サービスの向上とよりよい地域社会づくりのため、ともに尽力してまいります。引き続き当協会の活動にお力添えをお願いできましたら幸いに存じます。

結びに兵庫県社会福祉士会の更なる御発展と、会員皆様の益々の御活躍を心よりお祈り申し上げます。

# 祝 辞

兵庫県医療ソーシャルワーカー協会 会長 谷 義幸



このたび、兵庫県社会福祉士会が設立30周年をお迎えされますこと、心よりお祝い申し上げます。設立以来、社会福祉士の職能団体として、研修事業や調査研究をはじめ、多彩な委員会活動、県内各ブロックでの活動など、さまざまな取り組みを通して社会福祉士の社会的地位の向上および実践の発展にご尽力されてこられたことに、心より敬意を表します。これもひとえに、貴会の皆様の日々のご努力によるものだと思います。

とりわけ、近年は、ソーシャルワーカーデーや合同研修会、社会的課題に対する共同活動など、貴会との協力・協働の機会が定着し、当会としても大変心強く感じています。

今後、ますます暮らしにくさが深刻化し、ソーシャルワーカーの支援を必要とする人々が増えるなか、私たちが力をあわせともに社会に働きかけていくことが、いっそう求められていると思います。職能団体として、また、実践現場において、同じソーシャルワーカーとしての志を大切に、互いの連携がより一段と深まることを切に願い、当会としても微力ながら取り組んでいきたいと考えます。

末筆ながら、兵庫県社会福祉士会の一層のご発展と皆様方のご活躍をお祈りし、お祝いの言葉とさせていただきます。

# 祝 辞

一般社団法人 兵庫県介護支援専門員協会 会長 山内 知樹



この度、一般社団法人兵庫県社会福祉士会が設立30周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

また、兵庫県社会福祉士会の設立から今日に至るまで、ご尽力されました歴代の会長様をはじめとする役員の皆様、会員の皆様のご活躍に深く敬意を表します。

また、私たち兵庫県介護支援専門員協会としては、同じソーシャルワーカーの職能団体として、ソーシャルワーカーデーのイベントなど様々な活動を協働し、共に県民の社会生活を支えるお手伝いをさせていただきました。今まで多くの活動の中で多大なお力添えいただいたこと、改めてここに感謝を申し上げます。

人口減少、少子高齢化が進み、社会福祉を取り巻く環境が大きく変化する中、社会福祉士の皆様は、高齢、障がい、児童、医療、教育、更生保護など非常に幅広い領域で県民の社会福祉課題に力を尽くしてこられ、最近では介護に関する社会問題でもある、ヤングケアラーの相談窓口の設置やケアラーの問題に積極的に取り組んでおられます。ケアラー問題は、私たち介護支援専門員協会としても取り組まなければならない課題でもあり、今後ともお力添えいただきながら、共に活動させていただけることを願っております。

我が国が抱える社会課題の解決に資する専門職として、社会福祉士の皆様が今後ますますご活躍されていくとともに、兵庫県社会福祉士会の一層のご発展と、皆様方のご健勝を祈念しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



# 祝 辞

兵庫県行政書士会 会長 大口 晋



一般社団法人兵庫県社会福祉士会が設立30周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。貴会におかれましては、1993年（平成5年）設立以来、社会福祉の相談援助の専門職団体として地域の課題解決や共生社会に向けた様々な取り組みを進められ、社会福祉の増進に寄与されてこられました。これも、岡本和久会長をはじめとする歴代の会長、役員、会員の皆さまの長年にわたるご尽力のたまものであると深く敬意を表します。

さて、30年を思い起こせば、皇太子徳仁親王殿下（天皇陛下）のご結婚があり、バブルの崩壊後の日本新党細川代表による連立内閣が発足し、女性初の衆議院議長の就任などの日本の転換期に貴会は誕生されました。

その後、阪神・淡路大震災を経て、介護保険法、成年後見制度、障害者総合支援法など様々な制度導入の中、少子高齢、多様性等の非常に幅広くそして深く社会への課題に立ち向かわれ続けておられます。

私ども行政書士は、官公署に提出する書類その他遺産分割協議書や契約書などの権利義務又は事実証明に関する書類の作成、そしてその書類に関する相談を業務にしています。他の法律に制限されるものは除かれますが、幅広い業務範囲であり、近年は社会福祉分野の業務活動を深めています。

そういったことで貴会からソーシャルワーカーデーへお誘いをいただき、相談ブースを出展し、参画したことをきっかけとして、2020年（令和2年）には両会において連携と協力に関する包括協定を締結させていただきました。

コロナ禍においての締結となった関係上、活発な交流までには及んでおらず恐縮ですが、お約束させていただいた内容は、高齢者、障がい者、子ども、外国人、被災者等多様な方々への支援や権利擁護、地域共生社会の推進ならびにSDGsの取り組みなど現在と未来の課題に対する社会福祉の増進にかかわるものばかりです。このお約束を推し進めることが、その成果となることと期待させていただいている次第です。

これからも、社会福祉士の皆さまは、多様化と複雑化するニーズに対する社会への重層的支援体制整備事業の重要な役割を担われ、幸せな地域共生社会の実現に貢献されることと存じます。

一般社団法人兵庫県社会福祉士会の益々のご発展と会員の皆さまのより一層のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

# 祝 辞

公益社団法人 大阪社会福祉士会 会長 前川阿紀子



一般社団法人兵庫県社会福祉士会が設立30周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げますとともに、これまでの活躍がつづられた記念誌の発刊につきましても心よりお慶び申し上げます。

今日まで貴会が発展を遂げてこられましたことは、歴代の会長をはじめ役員の皆様や会員の皆様のご尽力の賜であり、深く敬意を表する次第でございます。また、設立当初より、社会福祉士の自己研鑽と資質の向上をに取り組みられ、さらに自らの意思や希望を伝えることが困難である高齢者や障がい者の方々に寄り添い、権利擁護の担い手として邁進されてこられました。

公益社団法人大阪社会福祉士会も、昨年(2022年)設立30周年を迎えました。社会福祉士の職能団体として、志を同じくする会員の力を結集し、一丸となって地域住民が安心して生活できる社会とともに構築していきましょう。

今後ますます貴会の役目は重要性を増してくるものと思われまます。設立30周年という大きな節目を契機に、さらに連携の絆を深められ、大きく飛躍されることを期待します。

結びに、一般社団法人兵庫県社会福祉士会のさらなるご発展と、会員の皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、記念誌発刊のお祝いの言葉といたします。

# 祝 辞

一般社団法人 京都社会福祉士会 会長 長澤 哲也



このたび、一般社団法人兵庫県社会福祉士会が設立30周年を迎えられましたことに、同じ近畿ブロックの仲間として心からお祝い申し上げます。

兵庫県社会福祉士会は、近畿ブロックの中において、常に先駆的な活動をされている会であり、職能団体のあるべき姿を体現されている頼もしい存在であります。また、設立後間もない時に阪神・淡路大震災が起き、大きな困難を乗り越えられてきたことが、今の災害時ソーシャルワークの発展につないでいかれているのだと感じます。

この30年間は、日本にとって失われた時と表現されることもあり、国民にとって様々な困難が増大した時代でもあったかと思えます。そしてそれはソーシャルワークがますます求められるようになった時代でもありました。その間、個々の社会福祉士は懸命に人々の困難に向き合ってきました。ソーシャルワーク専門職団体としての社会福祉士会は、そうした社会福祉士を支え連帯していく上で大きな役割を果たしてきたと思えます。しかし、これからは、時代そのものをより良いものにしていく変革の力としての役割も大きくなってくると考えます。まずは近畿ブロックとして力を合わせてこれからの時代をともに歩んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、兵庫県社会福祉士会がますますご発展されますことを祈念いたしまして祝辞とさせていただきます。

# 祝 辞

公益社団法人 滋賀県社会福祉士会 会長 奥村 昭



一般社団法人兵庫県社会福祉士会の設立30周年に際し、心からお祝い申し上げます。

1993年1月15日、小雪が舞う東京都八王子市の八王子セミナーハウスに全国から274の社会福祉士が結集し、委任状、書面評決を合わせ351名の参加で日本社会福祉士会が設立されました。ブロック別の懇談会では、兵庫をはじめとした近畿の仲間とともに、「夢」を熱く語り合ったことを今でも鮮明に覚えています。

兵庫県社会福祉士会は、日本社会福祉士会の兵庫支部として1993年7月に設立され、社会福祉士の仲間づくりや資質向上のための研修会等の活動を着実に進めてこられました。

しかし、設立間もない1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災は多くの人命を奪い、日常の暮らしを破壊しました。そのような中、貴会では、宝塚市等での救援活動や神戸市西区での被災者支援活動に懸命に取り組まれました。そのご経験は近畿ブロックをはじめ全国で共有され、頻発する災害に対する被災地支援活動とともに「災害支援活動者養成研修」の開催等、災害支援活動の仕組みづくりと人材育成をリードし続けておられます。

これまでの貴会の歩みに心より敬意を表するとともに、今後、地域共生社会の実現に向けて、社会福祉士、社会福祉士会の役割が期待される中、貴会の益々の発展と会員の皆様のご健康とご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



# 祝 辞

一般社団法人 和歌山県社会福祉士会 会長 玉置 薫



兵庫県社会福祉士会が設立30周年を迎えられたことを心よりお喜び申し上げます。

これまでの皆様の日々の活動へのご尽力に敬意と感謝申し上げます。

貴会は、近畿ブロック内だけでなく、全国の社会福祉士会のリーダー的存在としてご活躍くださっています。社会福祉士会の基盤ともいべき基礎研修では早くからWEBでの取り組みを実施、また数多くの認証研修をも開催されています。

県士会として、会員への支援に努力するのは当然となるでしょうが、会員外の方々への支援や福祉を必要とする人々へといった広く一般の市民への支援にも取り組まれています。それは、例えばありますが、災害支援研修といったものに表れていると思います。

私個人といたしましても、現会長や元会長、理事や会員の皆様、兵庫県士会の皆様には、常に温かく優しく導いていただくことが多く感謝しています。阪神大震災の時に、私共の元会長が和歌山から船を仕立てて救援物資をお持ちした際、大変感謝をしていただきました。そして、そのことを、何か事がある毎にお気持ちを表してください。和歌山が災害に見舞われた際も真っ先にお声がけいただきました。一県士会同士という繋がりだけでなく、大きな繋がりを持つ兵庫県社会福祉士会に感謝とお祝いを込めて、「いつもありがとうございます」「おめでとうございます」の言葉をお送りしたいと考えます。

次の30年、複雑な社会の中で、より必要となります貴会のご発展と関係者の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

# 祝 辞

一般社団法人 奈良県社会福祉士会 会長 西田 利昭



貴法人が設立30周年を迎えられたことを心からお慶び申しあげるとともに、記念誌への寄稿という貴重な機会を賜ったことに心より御礼を申し上げます。貴法人設立に奮闘され、堅実な歩みの礎を作られてこられた歴代の会長、役員の皆様に敬意を表します。なお、現会長の岡本様は、設立同時から理事並びに会長も歴任し、2022年度再び会長となりました。設立当時会員55人から現在約1,800人近い会員組織会を牽引しておられる姿に敬服いたします。このように貴会は、福祉を必要とする方々に対してウエルビーングを高める取り組みを、変化・変動する状況の中にあって着実に実践してこられました。この評価は、兵庫県、神戸市等から「防災と福祉の連携による個別避難計画促進事業」、「ヤングケアラー・若者ケアラー相談窓口」など専門性を生かした受託事業に繋がっていると存じます。

なお、当会としましても近畿ブロック内社会福祉士会として近畿ブロック研究、研修大会をはじめとして、いろいろな分野の活動で協力・連携を大切にさせていただきたく存じますので、今後とも末長くお付き合いを賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、貴会の一層のご発展とご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

# 祝 辞

関西学院大学 名誉教授 牧里 每治



設立30周年、まことにおめでとうございます。心より貴会の発展をお慶び申し上げます。

30年といえば、人生における30歳です。孔子の論語を思い出しますが、而立ということですね。而立とは30にして立つ、精神的に自律して、独自の立場を確立するということでしょうか。貴会の30年間の着実な積み重ねが今日の実績と評価を生み出したものと推察いたします。継続は力なりですね。

これからも社会福祉士の存在は、ますます重要で社会に必要な専門職となっていくでしょう。生活に疲れ果てた人びとや生活困窮に陥っている人たちにはなくてはならない存在だと確信しています。少子高齢社会が急速に進むなか、単身化や個人化も合わせて強まっていくと予想されるので、生活困難者や支援を必要とする人びとに寄り添って伴走的支援をする職業人が求められていくからです。現に社会的に孤立する人や孤独に悩む人びとは年々増えてきています。国も生活困窮者を包括的に支援するシステムづくりを急いでいます。重層的支援体制を各地方自治体ごとに整備することを政策的に進めていますが、包括支援システムが有効に機能するには、この体制を起動させる社会福祉士の働きがなければ不可能です。まさに生活困窮者に寄り添い、伴走する、支援する社会福祉士が基軸とならなければ、多機関連携も多職種協働も絵にかいた餅になるでしょう。

伴走型支援とは、究極のところ生活困窮者の自己実現といわれるものを目指して支援することなのでしょうが、実際には自己決定という意味決定支援に寄り添うことだと考えています。現実的には難しいことですが、日々の生活上の自己選択を伴走しながら支援するのが社会福祉士の本質的使命だとすれば、家族や親族の絆が弱っていく時代には家族に代わる、家族とともに変わっていく21世紀に求められる援助専門職ではないかと思えます。

お祝いの言葉に添えて、短歌を一首捧げます。あらためて、おめでとうございます。

困り果て 途方に暮れる 身寄りなさ 寄り添う人に 社会福祉士

# 祝 辞

神戸女子大学 健康福祉学部社会福祉学科 教授 佐々木 勝一



平成へと変わる少し前に、社会福祉士・介護福祉士が国家資格として設けられることが現場に広がりました。当時、知的障害者施設の退職を決意していた私には、「何をいまさら・・・」という気持ちで最初は関心も湧きませんでした。理由は、日々接する利用者との関係性のどこに専門性があり、それを国家資格としてどのように認定するのか理解できなかったからです。ところが、その後、救護施設に拾われて、私の考えは全く変わりました。その大きな要因は、社会福祉は不十分な制度・支援・技術の中で進められているということに気づいたからです。特に、生活保護制度は、現在も同様ですが、社会福祉制度の根幹であり、憲法の裏付けもありながら、その時の社会的風潮などで揺らぎます。その揺らぎが起きることに私たちは、社会福祉本来の目的意識で理解できずにいることとなります。特に、ここ数年のコロナ禍では顕著でした。

話を戻しますが、救護施設職員になった私は生活保護について色々と現状、課題、システムについて貪欲に知りました。毎日、その対象の方たちが目の前におられ、話を伺いました。そして、社会福祉士資格を取ろうと決めました。第5回の国家試験で合格をさせていただき、その後、生活保護制度からより広い概念である人権と施設ということにも関心を深めて、職場の理解と協力もいただき、大学院にも行くことが出来ました。大学時代、勉強なんて大嫌いだったのに、関心を持てば探求しようとする気持ちが湧くことを知りました。

あれから、30数年が経過して社会情勢も随分変化しました。社会福祉も専門分化が進みましたが、本質は何も変わっていないと思います。つい先日、ある事業責任者が、利用する障害者相互の結婚には妊娠・出産を認めないというニュースが流れました。80年以上前の優生思想という言葉が浮かびます。流された責任者の「私たちは障害者のケアは行う。しかし、その子どもたちのケアは誰が行うのか？」という声が辛かったです。自分たちのことを認めて、それからはみ出す事については……。いろんな事を仰られる方がおられることは分かっています。しかし、今後の私たちの社会は、今まで経験したことのない人口構成であり、新たな価値観で作られる多様性を含む社会ルールであることは間違いありません。そんな時代に、一方的な価値観で人の生死までを社会福祉に関わる人が声にすることは聞きたくありませんでした。

若い社会福祉士の方たちは、もっと積極的に多様な方たちと接して、素晴らしい支援方法と技術を修得されて、素敵な社会を構築することを祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。



# 祝 辞

関西学院大学 人間福祉学部 教授 川島 恵美



この度は、兵庫県社会福祉士会設立30周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

養成校教員である一会員として一言述べさせていただきます。私が社会福祉士資格を取得したのは2002年でしたので、兵庫県社会福祉士会とのかかわりはその歴史のうち3分の2ほどになるでしょうか。まず自身の生涯研修の受講でお世話になりました。2009年からは実習指導者講習、2016年からは基礎研修IIの講師も担当させていただき、その中で、現場で活躍されている皆さんからいただく多くの刺激を、学生の教育の場で活かすという循環が可能になっています。この30年の間に、社会福祉士養成カリキュラムの大きな改定が2回行われました。特に2007年の見直しでは、演習・実習科目に新たな基準が設定され、資格付与型教育から専門職養成型教育への転換が図られました。また今般の改正では2箇所以上240時間以上の実習が必須となり、地域における包括的支援体制構築などのマクロ実践の強化が謳われています。こうした養成教育において欠かせないのは現場の社会福祉士の方々との協働です。今後も社会状況の変化に応じることができるソーシャルワーク専門職としての社会福祉士養成はさらに強化されていくと考えられます。これからも兵庫県社会福祉士会が、様々な委員会、地区ブロック活動等を通じたネットワークを活かすことができるより機能的な職能団体として更なる発展を遂げられることを期待しています。

# 会への想い



副会長  
伊東 圭一

兵庫県社会福祉士会が30周年、私が福祉の世界に入ったのが1995年(平成7年)で28年目、私の職歴よりも以前に、諸先輩方のご尽力で、今があることに、感謝いたします。

社会福祉士の資格とは何か? 社会的意義は? または 社会福祉士の資格は仕事で有利? 得になるのか? など 私自身が資格を取得した当初は、たくさんの疑問があったことを思い出します。

社会福祉士を取得後、すぐに入会しましたが、活動は基礎研修を一回受講したのみでした。

そして、転機は地域包括支援センターで社会福祉士としての配属、右も左もわからず迷走する中、地域包括支援センター支援委員会に参加し、諸先輩の会員とともに活動する中で、多くの学びを得ることができました。そして、本会が中心となり多職種団体との連携など、その調整力や行動力には感動を覚えたものです。

近年では、社会福祉士の社会的認知度が増してきたのか、行政からの委託事業や、事業所からの研修派遣依頼が増加し、それに伴います専門職団体として社会的役割や責任が大きくなっています。また昨今のコロナ渦では、様々な環境の変化による新たな生活様式への適応課題が顕在化するなか、福祉の専門職として真価が問われていると思います。

30年の節目を契機に、新たなステージへ、会員のみなさまとともに進むことができれば幸いです。



副会長  
榎本 昌起

昨今の社会情勢の中、社会福祉士の役割は、児童・障害・高齢・その他の各分野で求められることが大きくなっていると感じるのではないのでしょうか。

私が携わっている成年後見業務の中では、身上保護という社会福祉士の専門性を活かした支援が、ご本人は勿論のこと、家庭裁判所や行政、各関係機関から求められ、期待されることが増えており、身の引き締まる思いです。

私自身は、支援が必要な様々な方と出会う中で、それぞれの考え方に触れ、それぞれの人生を共に歩むことで、日々社会福祉士としての学びとなっています。

兵庫県社会福祉士会には、様々な魅力や可能性があります。充実した研修プログラムや、広範囲な分野にわたり各種委員会があります。そのような研修や委員会に参加することで、社会福祉士の専門性を深めることができるだけでなく、多種多様な職場で従事する方や他の専門職との連携する機会もあり、職業人としての世界観が広がります。

兵庫県社会福祉士会の活動をご理解下さる関係各位の変わらぬご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

# 会への想い



監事  
塩尻 点

会の発展にご尽力、ご支援いただいた諸先輩はじめ多くの関係者の皆様のご努力に敬意を表するとともに、心から感謝申し上げます。

私自身を顧みますと、国家試験に合格後は、社会福祉士会に入会すべきと考えていた私も、入会後は、生涯研修制度参加する程度の「なんちゃって会員」でした。兵庫県社会福祉士会との本格的な出会いは、平成19年の西はりまブロック設立でした。

素敵なお仲間と巡り合うことができる最も身近な窓口であり、活動拠点であることを肌で感じました。「うちの会と自然に言える福祉士会(。・ω・。)ノ♡」を実感しております。

諸先輩の努力により、兵庫県社会福祉士会は、一般社団法人となり組織の規模も大きくなりました。それぞれの場で社会福祉士のみなさんが胸を張って活躍できる環境づくり、サポーターとしての役割を認識して公共性のある事業展開、研修制度の充実等今後の躍進に更に取り組んでいきたいものです。

組織とは、課題を解決していく集団です。更なる飛躍のためには、「システムチック」と「ええんちゃう」が必要なかもしれませんね。

これからも「福祉士会(。・ω・。)ノ♡」



元 副会長  
井土 睦雄

本会が30周年を迎え、万感の思いがこみ上げてきます。

当初から社会福祉士は「業務独占」ではなく「名称独占」を求められ、今日に至っております。そのことは、資格の有無に関係なく、幅広く乳幼児から成年、高齢者等すべての人々と共に、社会福祉活動を進展させる意図がありました。そして、地域全体のニーズを探索しつつなごため、業務を展開するソーシャルワークの役割が求められました。このことは、この日本にソーシャルワークが定着しなかったからこそ求められてきたと言えるかも知れません。

ソーシャルワークを実現するためには、職域を越えて市民・住民と共に地域に足を運び、豊かな支援人材と業務保証を担保しなければなりませんし、並大抵ではありません。

しかし、阪神淡路大震災が一挙に住民の命と生活、人生を破壊したとき、「社会福祉士のなすべきこととは何か」を突きつけられ、改めて住民の生活問題と願いに寄り添うソーシャルワークの在り方を根底から問い直されたことを忘れることはできません。その中から、市民・住民の尊厳と人権、そして社会正義に根を下ろした自立支援をテーマに、社会資源の発見力や調整力、そして開発力、行動力が問われ、試され続けられてきたように思います。

振り返りますと、必ずやそうした視座の中にこそ社会福祉士の社会的使命が存在するのではないかと改めて実感しております。

# 会への思い



元 理事  
芝 拓哉

1990年の夏頃のことだったと記憶しています。自宅に1通の封書が届きました。

「社会福祉士会の設立に向けてのミーティングを行うのでお集まりいただきたい」といった内容でした。私はその年の第2回の国家試験に合格していましたが心当たりがないわけではありませんでしたが、簡単な説明と集合の日時と場所が書かれた果し状のような手紙に少し不安を感じました。

当日は少し遅れて恐る恐る指定された新大阪ガーデンパレスの会議室に行くと10数名の方が集まっておられました。司会をしておられる方が「京阪神在住の第1回と第2回の国家試験合格者全員に案内を出したところ、今日はこれだけお集まりいただけた」とおっしゃっておられました。

あらためて調べてみると、第1回合格者が全国で180人第2回が同じく378人です。また当時は合格者の住所と氏名が公開されていました。

そして司会をしておられたのは兵庫県社会福祉士会初代会長の岡田誠氏でした。私はこのミーティングへの出席が縁となり故岩木久敏氏と2人で設立時の事務局を受け持たせていただくこととなりました。社会福祉士会が職能団体として益々発展することを祈念して本会設立前夜のエピソードを紹介させていただきました。



元 事務局員  
中屋ゆかり

人に寄り添う福祉の仕事がしたくて社会福祉士会の扉をたたきました。三宮にある小さいビルの一室に事務所がありました。そこから社会福祉士会の仕事が始まりました。会員の皆さんに向けた会報の発送、理事会や総会の準備、入会の手続き等の仕事を先輩に教わりながら一つずつ覚えていきました。

当時、会の活動をされていた皆さんは、ご自身の仕事を終えられてから遅くまで事務所で作業をされていました。私はその姿がとても印象に残っています。この人たちに支えられて福祉士会が存在していると実感していました。

会の仕事を通じてたくさんの人との出会いがあり、知識を学び一緒に過ごした日々は私の宝物になっています。

今後は、自分が出来ることを探しながら、若い世代の人たちと一緒に活動ができる時間を増やしていけたらと思っています。



# 会への想い



元 理事  
西池 匡

県土の1/4を占める広大な地域エリアをもつ但馬ブロック代表として、一言ご挨拶させていただきます。

30年という時間は、個人の身体老化はさておき、様々なことがらの変化をもたらしました。当時スマホも、介護保険もなく、少子高齢化は懸念されていたものの、人口減少がもたらす深刻な問題は、但馬の過疎問題くらいにしか考えられていなかったように思います。その中で、私たち社会福祉士会はその時々々の社会課題を共有し、地域ごとの特殊性を考慮しながら、大きく発展してきました。しかし、今また更なる急激な社会変化にさらされているように感じています。

但馬地域の人口減少はいよいよ深刻で、そこに暮らすあらゆる世代の人々に、これまで当たり前で過ごしてきた社会生活様式の変化を迫っています。交通、教育、経済、そして医療、介護、福祉。あらゆる生活の場面が人材不足の課題に直面しています。

但馬ブロックでは、これまでの30年で築いた深い郷土愛に支えられた福祉文化風土を基盤として、これからの30年がうみだす、新しいテクノロジーを利用しながら構築されていくネットワークで、人口密度が極端に低下しても、大自然の豊かな環境の中で、安心して安全に暮らせる地域社会を目指し、多くの方々と手をたずさえて活動していきたいと思います。



元 理事  
福田 崇徳

私は平成11年度の試験で合格し、晴れて社会福祉士の仲間入りができました。ということは、もう24年…?大変長い期間お世話になっています。父・和臣“も”生前中はいろいろとご心配やご迷惑をお掛けしたかと思います。親子共々、お礼とお詫び申し上げます。

会への最初の関わりは今も続く「ひよこメーリングリスト」の立ち上げだったかと思います。実は会に入る前からのお付き合いです。当初は各参加者が「ハンドルネーム」をつけて「おいしいラーメン屋さん」の情報交換などしていました。本当に懐かしい思い出です。

高校卒業の直前に阪神淡路大震災があり、専門学校は変わり果てた街と変わりゆく街と共にした3年間でした。実習先は神戸市役所でした。その時の主幹?(だったかな…)が岡田相談役でした。仮設住宅の訪問も経験しました。今思えば大変貴重な経験だったと思います。

24年の中で、本会の理事をはじめ、西はりまブロックのブロック長や災害支援委員会の委員長など、微力ながら会運営に携わってきました。その際は多大なご支援ご協力を賜り、本当にありがとうございました。

コロナ禍でコミュニケーションが思うようにいかない日々でしたが、この記念誌が発行された頃には少し明るい環境になっていることでしょうか。皆さんとまた笑顔でお会いできることを楽しみにしています。

# 会への想い



元 理事  
福本 和資

社会福祉士会の活動は、平成9年に職場の先輩から広報誌を作ってほしいと誘われて、広報委員会に入ったのが始まりです。当時の増山委員長を中心とした5人ほどメンバーで、広報誌「ひよこ通信」の定期発行を始めました。ネットもメールも普及する前で、主な情報発信手段は年4回のひよこ通信でした。私の主な役割は、集まった原稿を校正し仕上げることで、1997年夏号から2013年春号までの16年間、59冊を発行しました。その間、広報委員会のメンバーも何度か若い人に交代して、2013年の夏号から、現在の「こうのとりの通信」という広報誌に変わり、現在の内容に至っています。

ネットの普及により情報発信と情報収集の方法も変わり、広報誌の内容も変わってきました。広報委員会が若い人に交代して、新しい発想を取入れて頑張ってきた結果、時代の変化に対応できたと思います。また、福祉制度やサービスの変化の流れが速い中で、社会福祉士会の事業も近年着実に拡大し、会員の活動を支えるだけでなく、社会貢献という大きな目標に向かっており、社会の期待や責任が今後益々大きくなるように感じます。このような様々な変化に対応するには、新しい会員や若い会員の人たちの新たな力を結集して、会の活動を活性化していくことが必要だと思います。



元 理事  
増山 陽子

1993年1月、東京の八王子市で日本社会福祉士会の設立記会が開かれました。もう少し早い時期にあった資格化がこの時期になったのは、専門職としての独立性を保つためだったそうです。そして30年を経た今、社会福祉士の存在は広く知られるようになりました。

八王子の夜に集った兵庫県の仲間は初対面ながらも近しく交流し、兵庫県社会福祉士会設立への心を一つにし、その後発足に向けて手弁当で動き始めました。そして試行錯誤しながらも創設期を乗り越え何とか会の体をなしてきた頃、「阪神淡路大震災」が起こったのです。私自身も被災し避難所生活を体験しましたが、その避難所に「社会福祉士会の…」と放送が流れた時、私は会員であることを意識し、その繋がりを嬉しく感じました。大きな被害を被った震災ですが、社会福祉士にとって被災地支援の端緒となったのも確かです。神戸市西区の仮設住宅への戸別訪問は、その後続く災害支援の先駆けとなり、現在の形にも繋がっているのではないかと考えています。

年月を重ね八王子に集った仲間にはお別れした方がおられます。避難所に見舞いに来てくださった永岡さん、三田から毎回迎えに来て下さり一緒に仮設住宅に訪問した岩木さん、その他にも…。どの方も会の発展に尽力下さいました。こうして30年を迎えることができるのもこの方々のおかげです。改めて感謝したいと思います。

# 委員会紹介

## 研修委員会

- 設立時期  
1993 (H5) 年 7 月
- 委員長 綴木くみこ
- 副委員長 近藤 健太  
井原わかな
- 委員数 17 名



### 委員会成り立ち（経緯）と目的

兵庫県社会福祉士会が発足して30年。研修委員会もまた、同じ歴史を刻んできました。研修委員会の役割は、社会福祉士の学びの場を提供していくことです。これまで、先人が築き上げた、福祉の理論や経験だけではなく、今後の福祉に繋がる新しい試みやタイムリーな話題などを、積極的に取り上げ、多角的な研修を開催してきました。また、近畿圏はもとより、北海道の「べてるの家」や熊本の「慈恵病院」など、全国各地の施設見学も行ってきました。さらに、2012年度から導入された基礎研修制度については、研修委員会として研修の企画・運営を担ってきました。



### 委員会活動の概要

研修委員会は月1回土曜日の夜にオンラインで開催しています。福祉専門ゼミナール（愛称：こうのとりのゼミ）や専門職のセルフケアケア研修として、マインドフルネス講座の開催とともに、会員交流事業として年2回（納涼会・忘年会）企画・運営を行ってきました。

また、新型コロナウイルス禍で、研修委員会の活動も縮小される危機に直面しましたが、いち早くオンライン研修を取り入れることで、基礎研修を継続するとともに、全国からも多くの方に参加頂ける研修会に成長しました。災い転じて福となすことが出来たのは、我々社会福祉士の持つ「繋ぐ力」が発揮された結果ではないでしょうか。

これからも、兵庫県社会福祉士会の発展と足並みを揃え、さらなる躍進を誓い、研修委員全員のベクトルを合わせて活動して参ります。どうぞご期待ください。



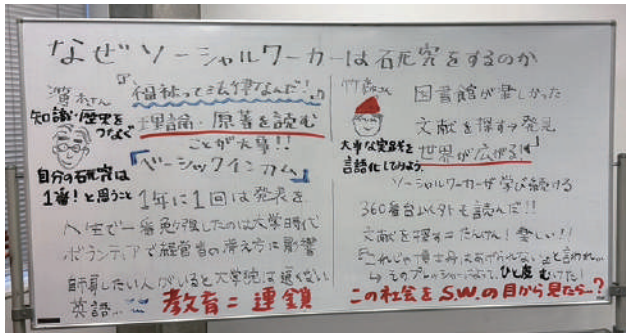
# 調査研究委員会

- 設立時期  
1993 (H5) 年 7 月
- 委員長 竹森 美穂
- 副委員長 永田 三輪
- 委員数 14 名



## 委員会成り立ち（経緯）と目的

調査研究委員会では会員の実践研究・実践報告をサポートしています。具体的には毎年開催される実践研究報告会・実践発表会の企画実施をしています。これによって、会員の専門性の向上と、社会福祉実践全体の質の向上に寄与できると考えています。



## 委員会活動の概要

- 活動日 : 概ね月1回（現在はZoomを活用し、平日夜間の開催が多い）
- 年間の活動計画 : 実践研究報告会の実施に向けた企画 その他調査研究に関わること
- 活動の特徴 : 現在はZoomを使用し平日夜間の委員会開催を主としていますが、今後必要に応じて集合形式での委員会実施も検討していきます。
- PR（コメント） : 「研究は難しい、自分には無理…」そんなことはありません。何より大切なのは、日々の実践で遭遇する小さな「なぜ?」と「もやもや感」です。委員会では、そういった「なぜ?」や「もやもや感」を大切に、実践研究報告会などの機会を通じて、会員が実践研究の手法を少しずつ身につけていくことの手助けをしています。



# 国家試験対策委員会

- 設立時期  
2004 (H16) 年 4 月
- 委員長  
毛利 庸靖
- 副委員長  
永田 三輪  
宮崎賢太郎  
原田 定道
- 委員数  
25 名



## 委員会成り立ち（経緯）と目的

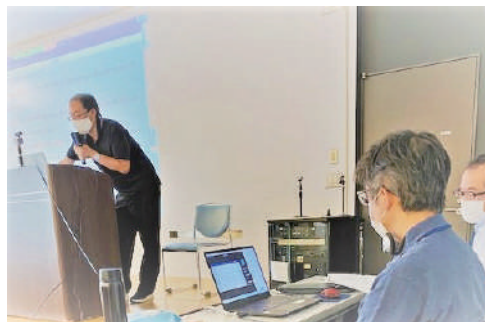
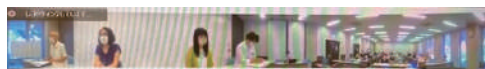
当初は兵庫県精神保健福祉士協会と専門学校との三者で講座を共催していましたが、職能団体として独立して国家試験対策を行うために、2004年に初代・荻本委員長のもと委員会が発足しました。

精神保健福祉士協会との共催で毎年講座を開講したり、自主ゼミ、大学養成校への講師派遣など、現在の活動に通じる基盤ができました。

2009年からは薄木委員長のもと、出張直前講座や模試解説、講師育成、近畿ブロック連絡会、試験解答速報など新たな活動を取り入れました。

2019年より現委員長が引継ぎ、コロナ禍でのオンライン講座により受験生支援は毎年実施し、2022年度より事務局・スタッフの多大な協力のもとハイブリットでの講座開催に至りました。

毎年4月には合格祝賀会を催し、本会役員とスタッフで合格者と喜びを分かち合い、その後受講生が本会会員となり、入会促進に寄与しております。（上は合格体験談、下はハイブリット講義）



## 委員会活動の概要

- 活動日  
：月1回定例委員会（主に日曜日）
- 年間の活動計画  
：受験対策講座（8～10月・全5日間）、直前対策講座（1月・2日間）の開催  
全国統一模擬試験の開催  
社会福祉士養成校・各ブロック主催の自主ゼミへの講師・チューター派遣  
受講生への講座終了後～試験日までのフォローアップ（質問、相談、激励など）  
試験解答速報作成（試験当日）、合格祝賀会
- 活動の特徴  
：各分野でご活躍の「現役の社会福祉士」が講師を担い、開講時から合格発表日まで運営スタッフ、講師陣が一体となって、試験合格まで上記支援を行っています。  
社会福祉士国家試験日の夜には、解答速報を作成し、ホームページに掲載します。
- PR（コメント）  
：前年度試験合格した人は即戦力。貴方のスキル・得意分野を生かしてみませんか。



# 広報委員会

- 設立時期  
1993 (H5) 年7月
- 委員長  
中山 貴之
- 副委員長  
胡中 智礼
- 委員数  
19名



## 委員会成り立ち（経緯）と目的

広く一般に社会福祉士を周知するとともに、社会福祉士の本会への帰属意識を高める活動を積極的に行うことを目的としています。機関誌(設立当初は「ひよこ通信」のちの「こうのとりの通信」)、広報誌「Pocket」の編集・発行、メーリングリスト・ホームページ・Facebookページの運営管理を主に担っています。



## 委員会活動の概要

- 活動日  
：こうのとりの通信締め切り後の直近の土曜日＋必要に応じて不定期開催
- 年間の活動計画  
：年4回のこうのとりの通信の発行・年2回のPocketの発行
- 活動の特徴  
：和気藹々とした雰囲気で行っています。
- PR(コメント)  
：高いとは言えない社会福祉士の認知度向上のために奮闘しております。



# 相談委員会

- 設立時期  
1993 (H5) 年 7 月
- 委員長 大庭 絵里
- 副委員長 上野 公子  
高橋 佳子
- 委員数 8 名



## 委員会成り立ち（経緯）と目的

目的：社会福祉士という相談業務の専門職として、一般の皆様のご生活の悩み事を聴き、気軽に相談できる存在として知ってもらおう。

郵便貯金相談事業から相談委員会は始まりました。主な活動として「福祉なんでも相談」の実施継続している。

「まちかど相談（県事業）」（2013～2019）県内各ブロックのイベントなどに相談ブースを出し、社会福祉士という専門職を知ってもらおう。県事業以外にも、地域ふれあい祭りにも相談ブースを出している。「何でも話そう座談会」（2021～）



## 委員会活動の概要

○活動日：

毎月第2土曜 13:00～16:00 兵庫県福祉センター内にて電話・来所での相談受付

隔月第2土曜日 13:30～定例会 14:00～勉強会・ミニ座談会

○年間の活動計画：

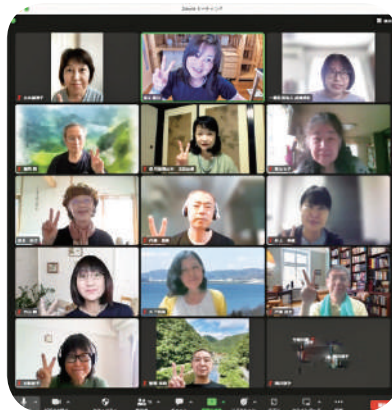
・毎月の「福祉何でも相談」 ・年度後半に「何でも話そう座談会」

○活動の特徴：専門分野に特化しない。広く相談に対応できる。最近は会員同士で分野を超えたざっくばらんな相談ができること。

○PR（コメント）活動の参加に特に要件はなく、どなたでも気軽に参加できます！

# ソーシャルワーク研究委員会

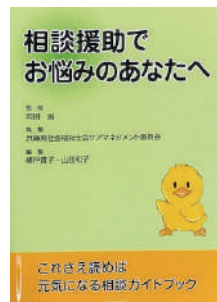
- 設立時期  
2015 (H27) 年 4 月
- 委員長 真利 敦子
- 副委員長 乾 なち子
- 委員数 23 名



学習会で使用した資料の一部

## 委員会成り立ち（経緯）と目的

当初は「ケアマネジメント委員会」という名前で発足。当初の活動目的は、介護保険のケアマネジャーの方々に向けて、ソーシャルワークの研修を行う事だった。当時は、理論に関するわかりやすい本があまりなかったため、委員会で「あなたを育てる対人援助の本」と「相談援助でお悩みのあなたへ」の2冊の書籍を制作。ケアマネジャー向けの研修は、その後、兵庫県介護支援専門員協会の方へ無事に引き継がれ、当委員会での役目は終えた。その後は社会福祉士の技術向上のためにソーシャルワークの理論やアプローチを学ぶための自主学習会を開始。委員会名称を活動内容に合わせた「ソーシャルワーク研究委員会」に変えて今に至る。今も、多様な分野・立場で実践されている人たちが集まり、自分たちの実践の質・専門性を向上させようと取り組んでいる。



## 委員会活動の概要

- 活動日 : 奇数月の第2日曜日 10:00 ~ 12:00 オンラインにて開催
- 年間の活動計画 : 委員会・学習会を年6回開催
- 活動の特徴 : 「ソーシャルワークの理論を実践から読み解き、理解を深める」をテーマにしたディスカッション形式の自主学習会を開催。実践事例や参考図書等を元に意見交換を行っている。テーマだけでなく学び方も含めてみんなで考えながら、様々な方法で理論やアプローチの理解を深めることを模索している。
- PR (コメント) : 難しいテーマですが、社会福祉士にとってはとても大切な技術。みんなで和気あいあいと話しをしながら、楽しく学ぶことを心がけています。



# 高齢者障害者虐待対応委員会

- 設立時期  
2007 (H19) 年7月
- 委員長 田島 啓子
- 副委員長 市場 大輔
- 委員数 33名



## 委員会成り立ち（経緯）と目的

日本弁護士会連合との連携による高齢者・障害者虐待専門職チームとしての活動及び兵庫県下全域において高齢者・障害者虐待防止に資する活動を行う。上記活動を担える人材育成を行う。



## 委員会活動の概要

- 活動日 : 隔月ごとの定例委員会、および必要に応じて臨時委員会を開催  
随時、運営委員会を開催
- 年間の活動計画 : 年間を通して市町から虐待予防に関する研修派遣依頼があれば随時対応  
県委託事業「虐待対応力向上研修」（高齢・障害）の実施  
県下市町からの専門職チーム派遣要請への対応
- 活動の特徴 : 活動に参加できることが委員会入会要件  
(入会には一定の要件を満たす事が必要)
- PR (コメント) : 入会要件がありますが、意欲のある方はお問合せください

# ぱあとなあ兵庫

○設立時期 2004 (H16) 年 4 月	神戸エリア	◎山本勝之 植田京子 乾なち子 宇根晴美 井上恭子 橋本美幸 鈴木孝子 小泉啓子
○委員長 米田 直人	尼崎エリア	◎篠原肇 伊藤彰 國本康夫 原田定道 魚井久美子 松崎華子 中村美香
○副委員長 榎本 昌起 西川圭一郎 森保 純子	伊丹エリア	◎菊井隆嗣 向井洋江 木高壽子 赤木明希 古川美紀 荻野篤
○委員数 44 名	明石・加古川エリア	◎高木裕佳 樹下和幸 山里護 宇都宮ゆか 岡村恵子 下田修司 藪本大輔
○会員数 518 名	姫路エリア	◎宮崎正行 高橋理恵 小林かおる 川島卓也
	社エリア	◎藤原八穂 富田久代
	豊岡エリア	◎鎌尾千晶
	柏原エリア	◎矢野幼子 三木健史 大槻真也
	洲本エリア	◎吉田麻希
	※◎はエリア長	



## 委員会成り立ち（経緯）と目的

2000年に成年後見制度と介護保険制度がスタートした。日本社会福祉士会は、社会福祉士が新しい成年後見制度の担い手になるために1998年にぱあとなあを設置し、都道府県社会福祉士会にぱあとなあを設置する取組が進められた。兵庫県においても家庭裁判所からの社会福祉士への後見人等の候補者推薦依頼に対応できる様に体制整備が進められた。

## 委員会活動の概要

- (1) 成年後見人等の養成「成年後見人材育成研修」「名簿登録研修」「実務研修」の実施
- (2) 名簿登録者への支援
  - ・ぱあとなあエリア別登録者研修会の充実（エリア毎に最低3ヶ月に1回実施）
  - ・ぱあとなあ名簿登録者の「継続研修」の実施。
  - ・全体会の開催（年1回）
  - ・成年後見活動報告書チェックと受任状況の把握
  - ・未成年後見受任の為に体制整備。
- (3) 家庭裁判所への候補者推薦とぱあとなあ兵庫の運営
  - ・ぱあとなあ名簿登録
  - ・家裁への候補者推薦、連絡、調整、登録者名簿の提出
  - ・運営委員会の開催（毎週第四土曜日の午前）
- (4) 関係機関、団体との協力活動
  - ・神戸家庭裁判所との定期連絡会の継続
  - ・各市町の成年後見支援センター専門相談等への委員派遣
  - ・家庭裁判所、弁護士会、司法書士会等関係機関との連携
  - ・福祉施設、事業所、一般の方からの電話相談、申立ての相談、講師派遣
  - ・都道府県ぱあとなあ連絡会参加・近畿ブロックぱあとなあ担当者会参加



2019年度ぱあとなあ兵庫全体会



懇親会 後見活動の情報交換ができ、盛り上がりです

# 地域包括支援センター支援委員会

- 設立時期  
2007 (H19) 年 4 月
- 委員長 山内 賢治
- 副委員長 小椋 愛
- 委員数 22 名



## 委員会成り立ち（経緯）と目的

2006年4月に創設された地域包括支援センターに配属され包括的支援業務を担う社会福祉士を支援する目的で活動をスタートさせる。介護保険法の改正に伴い、地域包括支援センターの機能と役割についても、都度、見直しが行われてきたため、調査・研修等を通じての支援を目的としている。

また、新任職員への支援や離職防止に向けた活動（交流の場づくり）等も委員会の目的としている。



## 委員会活動の概要

- 活動日 : 定例委員会 4月、7月、10月、1月  
第2日曜日（変更の場合あり）13:00～
- 年間の活動計画 : 定例委員会の他、初任者研修、県受託の「相談対応力向上研修（令和4年度まで困難事例対応力向上研修として実施）」を開催。  
市町の運営協議会や事業会議への参画
- 活動の特徴 : 県下の地域包括支援センターで活躍するかつて勤務していたメンバーによる意見交換をベースに包括の課題を洗い出し、その解決に向けた具体的な取組の1つとして研修の企画運営を実施している。
- PR（コメント） : 地域を超えて、世代を超えて、意見交換ができる環境を整えてきた。  
メンバー皆で話し合いを繰り返しながら、委員会活動の方針を決定している。





# こども家庭支援委員会

- 設立時期  
2008 (H20) 年 4 月
- 委員長  
原田 定道
- 副委員長  
井上眞規子  
杉田 和代  
福井 良江  
鈴木 馨子
- 委員数  
25 名



## 委員会成り立ち（経緯）と目的

こども家庭支援分野の委員会の必要性を感じた田邊哲雄氏が初代委員長となり、こども家庭支援委員会を立ち上げました。こども家庭福祉の専門的支援がますます必要とされている今、その専門職の成長に貢献できる研修等の事業と場づくりが提供できる委員会を目指しています。



## 委員会活動の概要

- 活動日 : 委員会は毎月1回土曜日または日曜日の午前中にオンラインで実施。
- 年間の活動計画 : 毎月の委員会開催、スクールソーシャルワーク関連の4回連続講座、スクールソーシャルワーカー養成研修（認証研修）、委員会内勉強会、その他
- 活動の特徴 : 認証研修を含むスクールソーシャルワーカーに関する研修を毎年開催しております。様々な児童・家庭支援分野で活躍するメンバーが集まり、研修を通じて学びを提供するだけでなく、委員会活動を通して情報交換をしたり相談しあったり教えあうことで仲間に支えられています。これからもこどもの最善の利益を守るために様々な活動を展開していきたいと思えます。
- PR（コメント） : こどもたちの今と未来を幸せにするために何かしたいという気持ちがこの委員会メンバーの共通の想いです。ぜひ私たち仲間と一緒にこども家庭支援委員会で活動しましょう。お待ちしております！



# 実習教育支援委員会

- 設立時期  
2008 (H20) 年 4 月
- 委員長 岸 剛健
- 副委員長 高橋 昌子  
岡本 和久
- 委員数 18 名



## 委員会成り立ち（経緯）と目的

現場の教育にかかわる教員や実習指導者で委員会を立ち上げ、実習指導者講習会の運営の他、大学等の講義やゼミに派遣をさせていただいて、実習指導のお手伝いをさせていただき、優秀実習施設の表彰もさせていただいています。



## 委員会活動の概要

- 活動日 : 不定期に委員会開催
- 年間の活動計画 : 実習指導者講習会 実習教育支援者研修 養成校連絡会
- 活動の特徴 : 当委員会は、社会福祉士取得を目指している学生たちに、「相談援助実習」からの学びをより実践的に深めるサポートをしています。また、実習受け入れ施設・機関の実習指導者である社会福祉士への講習なども定期開催しています。
- PR (コメント) : 委員会のメンバーには大学教授も在籍していますので自分自身のステップアップにもつながります。

# 独立型社会福祉士支援委員会

- 設立時期  
2011 (H23) 年 4 月
- 委員長 樹下 和幸
- 副委員長 原田 定道  
垣内 信子
- 委員数 15 名



## 委員会成り立ち（経緯）と目的

独立型社会福祉士準備委員会として数名の有志で立ち上げ、2011年に委員会として発足しました。

独立型社会福祉士として起業される本会員を応援し、支援する事を目的としています。

独立後も多種多様な実践家との情報・意見交換の場として、個々の活動の振り返りや新たな事業展開、ネットワーク構築の場として活用してもらえる場を提供しています。ベテランから若手まで、活躍分野もエリアも様々ですが、実践家が自分の可能性と気持ちを最大限活かし活躍できることを常に応援しています。

メルマガ配信で独立型社会福祉士の魅力を発信しています。

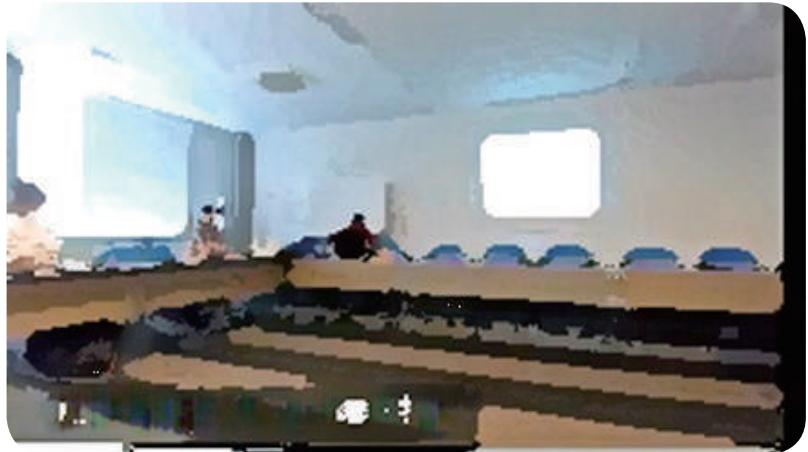


## 委員会活動の概要

- 活動日 : 年6回程度 (平日夜・定例委員会)
- 年間の活動計画 : 実践報告会・倫理学習会 (年1回) メルマガ配信「夢ふうせん」 年2回
- 活動の特徴 : 独立したい社会福祉士の支援とともに、独立してからも社会福祉士として実践活動を話し合ったり、交流したりすることでスキルアップを図っています。
- PR (コメント) : 「独立」はしても「孤立」しないつながり  
—2020年度よりオンラインで実践報告会を開催し、全国各地から実践家が参加されています—

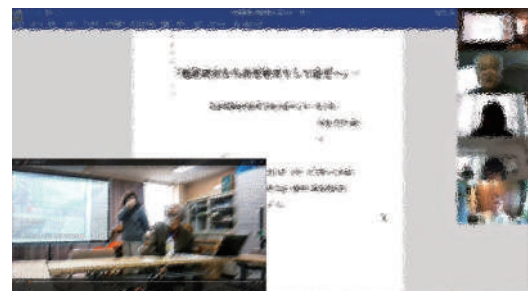
# 障がい福祉委員会

- 設立時期  
2009 (H21) 年 10 月
- 委員長 大塚真由美
- 副委員長 菊井 隆嗣
- 委員数 20 名



## 委員会成り立ち（経緯）と目的

障がい児・者福祉の従事者・家族のみならず、医療・高齢・行政などの多様な分野で活躍する委員によって、障がい福祉施策の動向や現場実践の現状・課題などについての情報交換・意見交換に力を入れていくとともに、委員会主催の学習会などによって、より実践的な知識・技術の習得に向けた学びを進めていく。



## 委員会活動の概要

- 活動日 : 原則として偶数月の第2日曜日の午前に定例委員会を開催
- 年間の活動計画 : 定例委員会・発達障がい等の研修実施
- 活動の特徴 : 障がいのある方の地域生活支援・就労支援等について学ぼう
- PR (コメント) : 委員会メンバー同士の学び合い、そして委員会メンバー以外の方々への情報発信など、障がい福祉に関する啓発・アドボカシーにも力を入れています。



# 更生支援委員会

- 設立時期  
2009 (H21) 年 10 月
- 委員長 佐藤 寛士
- 副委員長 馬場 佳代  
森保 純子  
岡村 恵子  
マドフォ 恵
- 委員数 26 名



フォレンジックソーシャルワーク研修の様子

## 委員会成り立ち（経緯）と目的

更生支援委員会が設置されたのは、2009年10月です。当時は地域生活定着支援事業（現 地域生活定着促進事業）が開始された年と同じ時期に先駆的に立ち上がった委員会です。設立時は弁護士資格をもつ社会福祉士や更生保護に興味、関心がある委員を中心に音頭をとり、活動が開始されました。これまでの歴代委員長は泉房穂氏、岡本和久氏、原田和明氏となります。委員のメンバーは、司法関係機関に勤務する社会福祉士や矯正施設に勤務している方など、司法関係機関のみならず独立型の社会福祉士、高齢者分野、地域福祉分野などの様々な分野から構成されています。特段、更生保護に特化している訳ではなく「制度の狭間に落ち込んだ対象者の生活」という視点を充足させるために、今のような支援を行うべきかを考え、日々研鑽を積んでいます。

## 委員会活動の概要

認知症の高齢者や知的障がい、精神障がいなど、様々な生活上の困難を有している対象者の生活支援を中心に、福祉的な手法や更生保護制度の活用により、地域生活が円滑に進むことを目的として更生支援に取り組む委員会です。奇数月第三金曜日の夜間に委員会を開催しています。毎年、フォレンジックソーシャルワーク研修を企画運営し、更生支援の普及や啓発活動を通じて会員の学習機会の提供を行っています。

今後の展開や発展については、弁護士会と協働する活動を通じて被疑者・被告人段階の対象者支援の実現。矯正施設から出所、退院する対象者支援に関わり、一人ひとりの対象者の幸せを地域生活の中につくり、誰もが安心して暮らすことができる地域社会の実現に向けて福祉と司法をつなぐ架け橋として活動していきたいと思っています。



# 地域移行支援委員会

- 設立時期  
2014 (H26) 年 4 月
- 委員長 清原 幸代
- 副委員長 沖田 修司  
土井 貞美
- 委員数 29 名



## 委員会成り立ち（経緯）と目的

2008年度より、神戸市から「神戸市退院支援アドバイザー事業」を受託し、退院支援アドバイザーを配置するとともに、2009年度は退院支援向けのパンフレットの策定を行った。また、退院支援アドバイザーを支援する「退院支援チーム」を設置し、退院支援アドバイザーに対する必要な助言等を行ってきた。神戸市からの委託事業は2010年度に終了したが、以降も退院支援員等に対する支援や学習活動を継続し、2014年度より「地域移行支援委員会」へと再編された。

高齢者や障がい者等の長期入院患者等の地域移行を支援するため、地域生活支援や権利擁護、地域移行、退院支援、地域ネットワークづくりなど、退院支援員や地域移行推進者等の活動を支援している。

## 委員会活動の概要

- 活動日 : 奇数月・第4木曜日 19:00～21:00 定例会（兵庫県福祉センター内またはオンライン）
- 年間の活動計画 : 定例会（年6回）・学習会（年1回）地域移行支援にかかるテーマ
- 活動の特徴 : 退院支援員や地域移行推進員のほか、医療機関、障がい者支援、就労支援、独立型社会福祉士、行政機関など、幅広い分野に属する支援者や精神保健福祉士協会等の職能団体とも協働し、長期入院患者等が地域移行を進めていくための情報交換や支援ノウハウ等の共有を行っている。また、2020年3月に神戸市で起きた精神科医療機関における虐待問題について、職能団体等との学習会や協議の場へ参画し、精神科医療現場の問題解決に向けて取り組んでいる。
- PR（コメント） 地域移行支援や精神科医療現場の問題に関心がある方のご参加をお待ちしています。

# 生活困窮者支援委員会

- 設立時期  
2015 (H27) 年 4 月
- 委員長 谷口 智昭
- 副委員長 藤井 真人  
森 真美
- 委員数 10 名



兵庫県社会福祉士会広報誌「POKET」第18号（2018年3月発行）の写真の再掲

## 委員会成り立ち（経緯）と目的

当委員会はその前身であるホームレス委員会の活動を継承しつつ、2015年4月に生活困窮者自立支援法が施行されたのを機に発足しました。この制度により、複合的な課題を抱えた生活困窮者に寄り添いながら包括的な支援が各地で行われてきました。2018年には法改正により、基本理念が新設され、「生活困窮者の尊厳の保持」を図りつつ、困窮の背景にある「地域社会からの孤立」も含めた個々の状況に応じた支援を包括的かつ早期に行うことや、困窮者支援を通じた地域づくりの視点が明確化されました。

当委員会は、これらの制度動向を踏まえて、2か月に1回の定例会での意見交換を行うとともに、社会的孤立をテーマにした研修会を実施し、会員、非会員を問わず関心のある方の参加を呼びかけ開催してきました。



## 委員会活動の概要

生活困窮者自立支援法が目指す制度のはざまにある方への個別かつ伴奏型支援、社会的孤立を生じる地域社会における福祉推進を一体的に取り組む実践は、今、国が進める包括的支援体制づくりのベースになるものです。委員会では、社会的孤立の課題をソーシャルワーク実践の課題としてとりあげてきました。

委員会活動では、ほかにも「滞日外国人支援」という課題についても、単発の研修会や認証研修「滞日外国人ソーシャルワーク研修会」を通じて取り組んできました。

コロナ禍で日本とは異なる援護や文化的背景がある外国人の抱える生活課題や対応については、十分な分析が行われていません。滞日外国人の課題は私たちの身近にあり、関心のある方を掘り起こし、多分野の方、他府県の会員などとのネットワークづくりが必要です。

もう一つの活動は弁護士会やNPO冬を支える会と協働で行う年2回の「武庫川河川敷のホームレス巡回相談」です。十数年前に始まった当初は河川敷にブルーシートがびっしりと張られていましたが、現在では、大変少なくなりました。河川改修等により環境の変化があります。現代の貧困問題は形を変えているのかもしれない。

# 災害支援委員会

- 設立時期  
2017 (H29) 年 1 月
- 委員長 西野佳名子
- 副委員長 槌谷 顕祐  
吉田 暢子
- 委員数 22 名



## 委員会成り立ち（経緯）と目的

阪神・淡路大震災（1995年1月）では、兵庫県は死者6300名以上の甚大な被害が生じた。このため、日本社会福祉士会から全国初の災害支援のためのSW派遣が行われ、宝塚市及び神戸市長田区において、被災者救援活動が行われた。本会は、他の専門職団体と「ほほえみ会」を結成、神戸市西区の大規模仮設住宅において訪問や相談活動など被災者支援を行った。また、東日本大震災（2011年3月）では、本会は宮城県南三陸町および岩手県陸前高田市における被災者支援活動のため、のべ50名以上会員を派遣した。2016年12月に災害支援委員会を設置。西日本豪雨（2018年7月）では、岡山県士会からの要請に基づき、被災者実態調査のための支援活動を担った。

災害時において社会福祉士が被災者等に対し、救援活動や災害支援活動を実施するため、災害支援者養成研修等を通じて人材の養成・確保を行うとともに、災害時にはすみやかに支援者を派遣。



## 委員会活動の概要

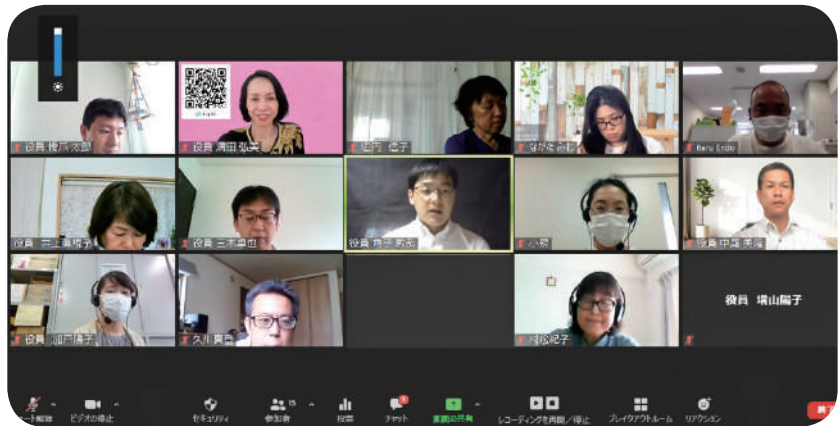
- 活動日 : 偶数月・第1火曜日 19:00～21:00 定例会（オンライン）
- 年間の活動計画 : 定例会（年6回）・学習会（年1～2回）災害時支援・BCP等にかかるテーマ
- 活動の特徴 : 災害時に備え、災害支援者養成研修や学習会を通じて、災害支援を担うSWの登録・育成に努めるとともに、災害支援マニュアルやBCP等の作成など、平時における支援環境の整備を行っている。このため、全国の社会福祉士会や近畿ブロック社会福祉士会との定期的な情報交換や他の職能団体と協働するとともに、兵庫県版DWATへの参画を検討している。
- PR（コメント） : 災害時支援や要援護者等への防災に関心がある方のご参加をお待ちしています。



# ブロック紹介

## 神戸ブロック

- 設立時期 2006 (H18) 年 5 月
- ブロック長 中尾 美隆
- ブロック選出理事 溝田 弘美
- 役員数 12 名



### ブロック成り立ち（経緯）と目的

#### 活動指針

1. ブロックの組織化・活性化の推進に資する活動
2. 市民に対する社会福祉士会の広報活動
3. 会員相互の交流を目的とした活動
4. 県社会福祉士会への協力、関係機関・団体との連携、各委員会・他ブロックとの交流



### ブロック活動の概要

- 活動日 : 役員会は月 1 回
- 年間の活動計画 : 研修会年 2 回、勉強会年 2 回、納涼会やクリスマス会などの交流会
- 活動の特徴 : あらゆるテーマで、学びを深める活動に取り組んでいます
- 一言 (コメント) : 会員相互のネットワークの構築を図るとともに神戸に暮らす人々の多様性に着目した活動を進めていくことを理念とし、会員同士の交流で、ネットワークを広げましょう!





# 阪神ブロック

- 設立時期  
2005 (H17) 年 11 月
- ブロック長 中原 克子
- 副ブロック長 近藤 健太  
段 真奈美  
岡本 和久
- ブロック選出理事 中原 克子
- 役員数 22 名



## ブロック成り立ち（経緯）と目的

阪神ブロックは、神戸ブロックについて大きなブロックで、500名以上の会員が在籍しています。ブロック内にはさらに4つの地区部会（尼崎、芦屋・西宮、伊丹・宝塚・三田、川西・猪名川）があり、学習会や地域イベントなど地域の実情に応じた活動をしています。また、総会や新年会、地区活動には、会員以外の方にもご参加いただき、交流や出会いを通じて、お互いに顔の見える関係づくりを進めています。さらに、地域包括、生活困窮者、災害支援、国家試験など、兵庫県社会福祉士会の各種委員会活動にも積極的に参加するとともに、JR西日本から委託されている福知山脱線事故の被害者相談窓口への協力も行っています。

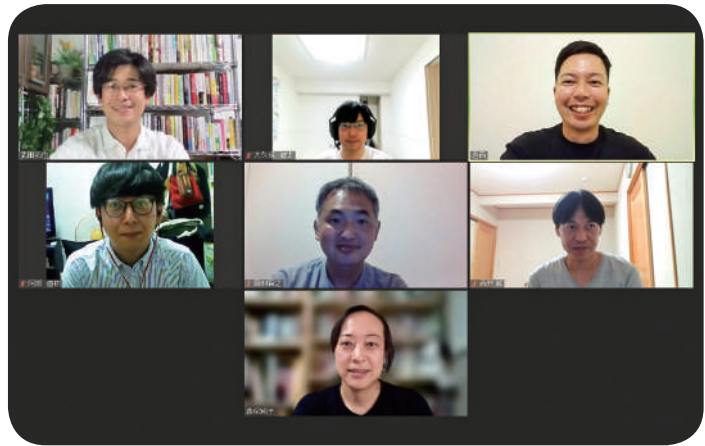


## ブロック活動の概要

- 活動の概要 : 2か月に1回役員会を開催するとともに、学習会や自主ゼミ、オンライン新年会、2021年度からは様々なテーマを話題に定期的（月1回程度）にナイト・カフェ（夜の集い場）などを推進しています。 コロナ禍前は地域イベントに模擬店（たこせんべい・駄菓子など）を出店し、あわせてまちかど相談会を実施していました。今後も新型コロナウイルスによる感染影響をみながら、オンラインを積極的に活用しつつ、時には里山ハイキングなどの会員交流や地域部会の活動などを継続しています。
- 年間の活動計画 : 総会（5月）、学習会（10月）、自主ゼミ（10～1月）、新年会（1月）、ナイト・カフェ（月1回程度）など
- PR（コメント） 地域でのつながりを大切にしています。阪神地区以外の方のご参加も大歓迎です！

# 東播ブロック

- 設立時期  
2001 (H13) 年 3月
- ブロック長 武田 拓也
- 副ブロック長 福本 和資  
田村 智之
- ブロック選出理事 岩西 太一
- 役員数 12名



## ブロック成り立ち（経緯）と目的

分野や世代・キャリアを超えたネットワークの拡大を図っていくことができるように、社会福祉士として専門分野の視点だけでなく、ソーシャルワークを基盤とした幅広いジェネリックな視点を養い、この東播地域で活動しやすいように色々な人々とのつながりを広げて、信頼関係を深めていくことを活動の目標にしています。

「集い場」は、地域で活動する福祉専門職等のつながりを持ち、輪を広げ、お互いに信頼関係を築いていけるように、気軽に集まり、何でも意見を言える場をつくりたいという思いで取り組んでいます。



2018年8月3日  
「集い場」福祉職が集う会  
加古川ヤマトヤシキ屋上ピアガーデン

## ブロック活動の概要

- 活動日 : ブロック役員会の実施。2ヵ月に1回、平日夜間のオンライン会議。
- 年間の活動計画 : 「集い場」の実施。会員等の交流の場として令和4年度は2ヵ月に1回Zoomによる開催。  
「自主企画研修」の実施。  
令和4年度は令和4年3月13日(日)。Zoomによる開催。講演と交流会。  
テーマ:東播磨で頑張るSWを応援してくれる「ひと」や「活動」を紹介する集い  
内容:「高齢者のお住まいを通じた見守りサービス」  
佐(たすく)工務店 岩佐 薫 代表  
「ソーシャルワーカーが元気になる話」  
かかりつけカウンセラー & 司法書士 きたか 真子(なおこ)氏
- 活動の特徴 : 東播地区ブロックらしさは、社会福祉に留まらない、幅広い多様性を活動のテーマにしているところです。知識は捉え方で技術につながる、人脈は実践を援けると信じています。
- 一言(コメント) : 各ブロック開催の「集い場」の始まりは東播地区ブロックで、2011年度から実施しています。近年はコロナの影響でZoomによる開催でしたが、以前のように集合して交流する中で、直接距離感を感じながら情報交換や相互理解をしていきたいと思っています。

# 西はりまブロック

- 設立時期  
2007 (H19) 年 10 月
- ブロック長 岸 剛健
- 副ブロック長 福田 崇徳  
白矢真由美
- ブロック選出理事 岸 剛健
- 役員数 16 名



## ブロック成り立ち（経緯）と目的

基本方針は、「みんなで創り上げる活動」です。

事業予定は

- ①西はりま地区ブロック研修会の開催（2022年9月頃）
- ②地区別研修会・勉強会・自主ゼミの開催
- ③交流会（オンライン交流会）・懇親会の開催（プレミアムフライデー他）
- ④社会福祉士によるまちかど無料相談会の開催
- ⑤子ども食堂などへの社会福祉士派遣です。

そして、兵庫県社会福祉士会への活動協力も積極的におこなっています。



## ブロック活動の概要

- 活動の概要 : 地域の特性を生かした魅力あるブロック活動を目指して、福祉啓発活動や会員相互の連携、組織率の向上を進めていきます。
- 年間の活動計画 : 西はりまブロック交流会の開催（Zoomにて毎月開催）・西はりまブロック研修会の開催（年に2～3回程度）・無料相談会の開催（随時）
- PR（コメント） : 地区にこだわらず、どなたでも参加しやすい活動を企画していきますのでお気軽にご参加下さい。



# 丹波ブロック

- 設立時期  
2004 (H16) 年6月
- ブロック長 中川 優一
- 副ブロック長 内藤 篤志
- ブロック選出理事 内藤 篤志
- 役員数 13名



## ブロック成り立ち（経緯）と目的

### 【丹波の特色】

丹波地区は、丹波市、丹波篠山市を対象地域としており、約10万人の人口です。畑や田んぼ、自然があふれ、田舎の風土となっています。丹波黒枝豆が有名で、収穫時期には多くの方が篠山に訪れます。デカンショ祭り(夏)や車いすマラソン等も開催される地域です。地域のつながりが強く、ネットワークが形成されやすい面もあります。

高齢・障害・病院・行政・老健・独立型等、様々な機関に所属している社会福祉士と情報交換・交流ができます。

## ブロック活動の概要

### 【取り組み内容】

#### ○研修

##### 「初任者研修」

新しく社会福祉士会に入会した方向けの研修会で、令和3年度では「社会福祉士の仕事っぷり」という題名で先輩社会福祉士による実践発表を行いました。

##### 「ブロック研修」

令和3年度は、「ヤングケアラーの実情と支援について」という題目で、講師の方にオンライン講演をして頂きました(他ブロックからの参加有り)。

そのほか、令和2年度以前に、「高齢者・障がい者のライフプランニング」、「ソリューション・フォーカスト・アプローチ(解決志向アプローチ)研修」、「震災研修(場所:人と防災未来センター)」、「(弁護士講師による)ハラスメント対策研修」「長島愛生園への視察研修(岡山県)」、「マインドフルネス研修(座禅体験、お寺に泊まる)」等、様々な分野で、研修を開催してきました。

#### ○交流会(コロナ禍以前)

##### 「バーベキュー」

初任者向け研修の後に、交流を深めるためにバーベキューを開催しました。

##### 「ブロック研修やブロック総会後の食事会」

コロナ禍以前は、食事会も開催し、対面で交流を深める機会を設けていました。

コロナ禍後は、Zoomを活用して、オンライン交流会を開催し、ネットワークが広がる機会を設けています。



視察研修(長島愛生園)



ライフプランニング研修



# 但馬ブロック

- 設立時期  
1999 (H11) 年4月
- ブロック長 西池 匡
- 副ブロック長 中野 穰  
足立 里江
- ブロック選出理事 下中 智晃
- 役員数 6名



## ブロック成り立ち（経緯）と目的

### ○当ブロックの特色

但馬ブロックは人口過疎地域に属しているため、会員数も50名をなかなか超えません。ブロック内で研修をしようにも、多種多様な領域の専門的な研修を企画することが難しいです。そういう地域性もあって、その他の福祉関係の資格保持者も多いこともあり、介護福祉士会、介護支援専門員協会や精神保健福祉士協会との合同研修を以前より行ってきました。アフターコロナの課題として、どの団体も活動の停滞化が深刻であることが、意見交換によってわかりましたので、第一歩として以前のような交流の場づくりや合同研修会の開催を行っています。

但馬地域は中山間・山間地域が多数を占め、まだ高度経済成長期であった時代から人口減少が問題視されてきたエリアでした。全国の都市部でこれから起こりうる人口減少に伴うコミュニティの崩壊は、すでに各地で経験しています。これをネガティブな要素としてとらえるのではなく、ケースやコミュニティづくりの知見を他専門職団体と連携と取りながら共有し、福祉専門職の視点で魅力的な地域づくりを行っていきます。

## ブロック活動の概要

- ブロック会員の情報交換
- ブロック会員の自己研鑽・資質向上の支援
- 専門職団体として地域活動への貢献
- 他職種団体との交流・共催事業の開催

### ○年間の活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
主な活動	総会 役員会	交流会	役員会			役員会	合同研修		交流会	役員会		単独研修

※その他、随時オンラインで情報交換の実施

### ○PR（コメント）

急速に普及したICTを活用することで、但馬のマイナス要素（会員が少ない・集まりにくい）が克服されました。アフターコロナに向けて、プラス要素を高めるための活動に邁進します。  
 ≪圏外の方へ≫但馬には魅力的なスポット、グルメ等があり、但馬で研修を受けながらグルメやアクティビティを満喫するのもよし。ぜひ、但馬にお越しいただき、よければ移住してください。

# 淡路ブロック

- 設立時期 2009 (H21) 年 3 月
- ブロック長 古家 英敬
- 副ブロック長 坂井 宏文
- ブロック選出理事 古家 英敬
- 役員数 9 名



## ブロック成り立ち（経緯）と目的

- ・まちかど無料相談（洲本市社会福祉協議会主催のふれあい祭り）
- ・研修会開催（身寄りのない方への対応、コロナ禍での社会福祉協議会としての対応・課題・展望など）
- ・LINEグループ開設における情報提供や情報共有としての場づくり
- ・Zoom交流会を通じて、顔を見ながらのコミュニケーション場を提供
- ・ブロック「社福べっちゃんい一覧」の作成と更新、管理（会員の連絡先をまとめたMAP）
- ・精神保健福祉士会との交流や共同研修会の開催



## ブロック活動の概要

- 活動の概要 : 仲間づくりを具現化しながら社会福祉士同士の繋がりを構築していく
- 年間の活動計画 : 役員会（約2カ月に1回）、総会（年1回）、研修会（年1～2回）
- PR（コメント） : 会員のLINEグループを開設し、さらにZoom交流会を開催しながら、コロナ禍でもコミュニケーションができる場を提供できるようにした。

## 「ソーシャルワーカーとして つないでいくこと ～社会福祉士会の歩みから～」

相談役 岡田 誠



### 【はじめに】

第23回総会の記念講演(2021.3.21)において、表題についてお話ししました。ここでは、その中から主な出来事を通して、私と社会福祉士会の歩みを振り返りたいと思います。

#### 1. 日本ソーシャルワーカー協会の再建

私と社会福祉士会との関わりは、「日本ソーシャルワーカー協会(以下、SW協会)の再建総会(1983.11於:東京)に出席したことから始まります。1986年に日本で国際社会福祉会議などが開催されることや、当時の現場では専門職種とのチームの仕事の中でソーシャルワークの専門性の確認や仲間づくりを求めており、その受け皿としての再建でもありました。SW協会は「倫理綱領の制定と専門職制度の確立」という明確な目標を掲げ、各都道府県単位では本部支部の関係でない独立したソーシャルワーカー協会を設立しました。私も「兵庫県ソーシャルワーカー協会」を事務局長として立ち上げました。順調に活動していましたが、第1回合格者として次第にSW協会の中で社会福祉士に関わる活動にシフトし、また主要メンバーも社会福祉士となり、阪神淡路大震災もあって活動が途絶え、誰にも引き継げず自然解散してしまいました。今も大変申し訳なく思っていま

す。

2. 社会福祉士部会の結成から日本社会福祉士会の誕生へ

1987年5月に「社会福祉士及び介護福祉士法」が制定されました。当時、SW協会などがソーシャルワーカーの国家資格を切望していました。高齢者社会を迎えて、介護福祉士の国家資格の議論の中から合わせ技で社会福祉士ができたとも聞いています。つまり「介護福祉士が高齢者の具体的な世話をし、社会福祉士が本人や家族からの相談に乗る」というような解釈がされていたように思います。

1989年3月に第1回社会福祉士国家試験がありました。当時、合格者の名前が公表されており、私にもSW協会から祝電が届きました。第1回合格者が180名と少なく、今後の見通しが不明確で、有資格者だけの団体結成は困難と判断し、ソーシャルワーカーの倫理綱領を持つSW協会に結集しようということとなり、社会福祉士部会(1990.4.28)を設立しました。しかし、年を追うごとに合格者が大幅に増え、部会の組織率(社会福祉士登録者に占める部会員の割合)が4年間で15%となり部会活動が困難となり、一方、全国各地では県単位で社会福祉士同士が集まって早急に



# 記念講演

全国組織の結成を求めています。MSW協会が既に法人化しており、SW協会の法人化の早期取得が難しく、厚生省が部会の頭越しに直接法人格組織の結成に乗り出すといった情報もあり、横浜での第3回全国集会において、会員、非会員を問わず、法人格を有する専門職団体『日本社会福祉士協会』（仮称）の創設を決議しました。

そして、SW協会は1992年度定期総会（1992.4）で「あり方検討委員会」報告書を採択し、「①SW協会の『倫理綱領』を日本のソーシャルワーカー共通の倫理綱領にする、②SW協会会員の社会福祉士がソーシャルワーカーとしての自覚と誇りをもって『社会福祉士協会』の設立に推進すること、③長期的視野に立って将来を展望するとき、『社会福祉士協会』のメンバーも包括して大同団結した新しいソーシャルワーカー協会ができることを期待する」としました。SW協会は、福祉実践の価値や方向性の違いから決別するのではなく、一番大切にしていた「倫理綱領」をそのまま使ってもらい、今後とも社会福祉実践に共に力を合わせて推進していく同志の誕生を祝い、快く送り出したのでした。

SW協会が「社会福祉士会」の母体であること、現在、4団体の共通の「ソーシャルワーカーの倫理綱領」となっているのは、ここに原点があることを覚えておいてください。

### 3. 日本社会福祉士会の設立

1993年1月15、16日に「日本社会福祉士会設立総会」（東京都八王子市 大学セミナーハウス）が開催されました。当日は雨でした。兵庫県からは8名（井土陸雄さん、芝拓哉さん、増山陽子さん、岩木久敏さん、横山猛さん、高間満さん、永岡典

子さんと私）が参加しました。セミナーハウスでは初対面の岩木さんと相部屋でした。全国から555名が集まり、いよいよ始まるのだ!という気持ちがあふれていました。懇親会の余興で、初代会長の吉村鞆生さんが身体にトイレットペーパーを巻き、月光仮面に扮装をされたこともいい思い出です。その後、私は理事の一人でしたので、東京・四ツ谷の事務局で頻繁に会議があり、終われば駅前の居酒屋で飲んで新幹線に飛び乗って帰りました。まだまだ顔の見える会でした。

### 4. 兵庫県支部（兵庫社会福祉士会）の設立

「設立総会」は1993年7月24日に神戸市たちばな職員研修センターで開催しました。30数名の参加、予算50万円でスタートしました。全国30番目位で遅いほうでした。当時、神戸市社協運営の長田在宅福祉センターが私の職場でした。地域に開放した施設で夜間は断酒会やりハビリ教室などに使用していました。土日は設立準備会の会場として使うことができ大変助かりました。最初の日本社会福祉士会「実践事例集」の編集委員会も近畿ブロックのメンバーで行いました。当初の活動として、合格者の住所と名前が公表されていたので、入会の勧誘、会員名簿の作成に力を入れました。「受験対策講座」、セミナーの開催、岡本和久さんが「事務局通信」の名称変更を考えた「ひよこ通信」の発行など、全てが新しい取り組みであり、みんなで意欲的に取り組んだことを覚えています。

### 5. 事務局の変遷について

設立時、事務局次長岩木さんの自宅を連絡先において、私書箱を宝塚市内に置きました。その後、県社協に務める岩木さんの尽力で1階のボラン



# 記念講演

ティアセンターに「団体の紹介」を名目に机一つに介護福祉士会と共同の連絡電話を設置していただきました。しかし、出務できる会員がなく介護福祉士会にお任せ状態でした。1999年の6月から県福祉センター4階人材センター内に介護福祉士会3日間、社会福祉士会2日間という併用で電話番号を兼ねて事務局員1名を配置しました。しかし、実際の連絡先は、私か、新しい事務局次長になった吉田誠一さんでした。今思うと、介護福祉士会には感謝しかありません。

2003年度途中の臨時総会で、事務所（作業所兼倉庫）の借り上げについて補正予算90万円を承認しました。介護福祉士会と共同で借りる方針でしたが、介護福祉士会の法人化の話もあり御破算になりました。そして、2005年5月に春日野道のマンションの一室を借り、事務局員1名が常駐しました。会議もできて、やっと事務局らしくなりました。

2006年2月の臨時総会で法人化に向けて支部会費を徴収することを決め、事務局体制の強化のため三宮のビルの一室を借り上げ、事務局員2名体制となりました。年々、事業が拡大して委員会活動も多岐にわたり、毎日のように遅くまで会議をしていました。そして、2011年に県福祉センターの建替時に、兵庫県から各福祉団体に入居するかどうか打診があり、現在地に移りました。社会福祉士に対する社会的認知や期待が進むに伴い事業が増えて組織も大きくなり、必然的に事務局体制を整えることが求められました。当初の県社協の机一つの対応から考えると、苦勞しましたが、感慨深いものがあります。

## 6. 阪神淡路大震災

1995年1月17日の早朝、地震が起こりました。数日後から、私は神戸市社協の本部で「ユーパック」の仕分けや、全国からのボランティアの調整の責任者として忙しく、全く会員の動向は掴めずにはいました。ほかの会員もそれぞれの持ち場で救援活動に奔走しており、本会としての活動はできませんでした。

宝塚市での日本社会福祉士会の活動が一番思い出深く、社会福祉士の認知度を高め、その後の社会福祉士の災害救援活動の方向性を示唆したと思います。

いち早く芝さんが動いて、宝塚市が市内高齢者の安否確認、仮設住宅の生活支援、調査活動に従事してもらおうということになり、日本社会福祉士会に対して高齢者名簿を情報提供してよいかと法務省に問い合わせ、国と市が許可した日本社会福祉士会として初めて大きな組織的な活動となりました。そこでは福祉行政に精通された松藤聖一さん（福祉推進課長）を始めとした良い出会いがありました。また、高齢福祉課内に「宝塚現地事務所」を設置して大阪自彊館に現地対策本部を置き、大阪支部の田村満子さんを中心に近畿ブロックの会員がまとまって支援活動をしました。調査には市ではなく社会福祉士の独自の視点で作成した調査票を用いるなど、専門職団体としての災害救援活動のノウハウを作る礎となったと思います。この活動は4月で終了しましたが、本会としては「兵庫社会福祉士会復興本部」を設置して、救援活動を引き続き行うこととしました。

8月19日室谷仮設住宅で、佐々木勝一会員のほかPSW、臨床心理士、保健師のチームによるアル

# 記念講演

コール依存症の単身者を中心に安否確認や相談活動をする「健康・こころ・福祉相談」を開始しました。本会の活動と位置づけて計30回1997年12月まで続けました。この大震災は、仮設住宅の孤独死に象徴される「貧困」の問題を顕在化したと言えます。

## 【終わりに】

その他、「第11回日本社会福祉士会全国大会」(2003.6)を本会が担当したこと、「近畿ブロック」は日本社会福祉士会の設立当初から各府県が協力して意思疎通を図り、ブロック研究・研修大会を今日まで続けていることなど、まだまだ思い出深いことがあります。

30年の本会の歩みを振り返ってみると、私たちの活動は、行動指針として時代の変遷とともに改訂された「倫理綱領」を遵守し、自らの学習と研さんによってソーシャルワーカーとしての「実力」をつけていくこと、専門職団体としての「社会的発言力」を強めていくことの二点に集約されるかと思えます。これからも是非、後へと繋いでいってください。





# 設立30周年記念座談会

## 「新たな時代のソーシャルワークを考える」



(左より 谷口、土谷、岡田、岡本)

### (登壇者)

兵庫県社会福祉士会 初代会長 岡田 誠

兵庫県社会福祉士会 第2代会長 土谷 長子

兵庫県社会福祉士会 第3代会長 岡本 和久

### (司会)

兵庫県社会福祉士会 第4代会長 谷口 弘

(※肩書は2022年3月の収録時点)

(谷口) 1993年7月に社会福祉士の職能団体として兵庫社会福祉士会(現兵庫県社会福祉士会(以下「本会」という))が設立され、2023年に30周年を迎えます。「すべての人が参加し、各人がその役割、存在を認識し、自己実現を目指していく社会」いう地域共生社会の実現を目指す現在、多様化・複雑化する地域課題や様々な生活課題にどのように寄り添い、対応していくかが福祉の専門職である社会福祉士に問われています。今回、「新たな時代のソーシャルワークを考える」をテーマに、兵庫県に本会が誕生してから今日を迎えるまで、その中心的に関わってこられた歴代3人の会長に、

新たな時代のソーシャルワーカーの役割について語っていただきます。

はじめに、社会福祉士の資格制度が始まり第1回国家試験に合格され、社会福祉士の職能団体である日本社会福祉士会の組織化や本会運営に尽力された初代会長である岡田誠相談役に、本会創設の組織化に取り組みられた経緯や当時の思いをお話しいただきます。

(岡田) まず、日本社会福祉士会は、1983年11月に再建された日本ソーシャルワーカー協会の中に「社会福祉士部会」が1990年4月に結成され、そこから独立して1993年5月に設立されたという経緯を忘れないでほしいと思います。詳しくは、記念誌の「記念講演」の文章をご覧ください。

県下の社会福祉士に呼びかけ、1993年7月に本会は設立されました。当時は、国家試験合格者の名前が公表されていたので、毎年、合格発表の度に入会を呼び掛け、地道に活動を続けてきました。当初は、兵庫県社会福祉協議会におられた岩木久



敏さんと二人三脚で動いていましたが、一番苦勞したのは「事務局」が実質的に無かったことでした。

次第に研修事業や行政からの委託事業が増え、予算を組んで2005年5月に神戸市中央区(春日野道)にマンション一室を事務所兼倉庫として借りて、事務局員1名を配置でき、会議等もできた時は本当に嬉しかったことを思い出します。

**(谷口)** 3代目会長の岡本和久さんは第3回国家試験に合格され、設立当初からの会員であり、長らく理事や副会長として本会の組織運営に関わってこられました。当時や今日までの会の様子を教えてください。

**(岡本)** 入会のきっかけは当時、神戸市中央福祉事務所の上司であった高間満さんから誘われたことでした。私はいろんな方々との出会いの中で様々なことを学びましたが、何よりソーシャルワーカーとしての価値観、倫理など基本となるべきことを学んだことが大きかったと思います。岡田相談役は創設時より会長を17年間務められ、本会の基礎を築かれましたが、当初の会員数は55名。年間予算も50万円からスタートしました。そのような状況だったので、研修などは近畿ブロックと協力しながら開催しました。それが、今日も継続する近畿ブロック研究・研修大会へ繋がっています。

また、会員への情報誌として、現在は「このとり通信」と改称していますが、創刊時は生まれたばかりのイメージで「ひよこ通信」と名付け、発行したのもこの頃です。

会員数が300名となり予算規模も増えてきたのが1999年頃です。ちょうど、社会福祉基礎構造改革と権利擁護が大きく打ち出され、措置から契約という流れとともに、2000年には介護保険制度と成年後見制度が始まり、ソーシャルワークを担う専門職が期待される時代になりました。日本社会福祉士会において「生涯研修センター」が設置されたのも同時期で、社会福祉士として研鑽を積ん



でいくための仕組みといえます。

そして、本会として、また日本社会福祉士会として転機となったのが1995年の阪神・淡路大震災です。これまで経験したことのない都市直下型災害であり、社会福祉士会における災害時の被災者・要援護者支援は兵庫県から始まったのです。この支援経験をもとに2011年の東日本大震災や、以降の自然災害の被災者支援の取組みは、災害時における社会福祉士の役割を明確にしていって考えます。現在、兵庫県から防災と福祉との連携による「個別避難計画策定を進めるための防災研修事業」等が委託されるなど、行政機関や地域住民から多くの期待が寄せられているのはその成果であると考えています。

**(谷口)** 2代目会長の土谷長子さんは、第5回国家試験に合格されています。資格取得された経緯や会に入会された当時の活動や様子などについて、お話しください。

**(土谷)** 私の場合は、障がいを持っている子どもたちの療育に関わっていた経緯から、資格を取ろうと思いました。そして合格した年は阪神・淡路大震災の年でした。

当時大学院生で幼児教育が専門だったことから、被災された保育所や親子のケアをするという支援活動をしました。それがソーシャルワーカーとしての初めての取組みでした。本会での活動はその1年後からでしたが、被災者支援が社会福祉士としてのスタートといっても過言ではありません。



社会福祉士会の入会は顔の見える関係の中で多くの出会いがあり、様々な活動をさせていただきました。中でも、近畿ブロックの活動や日本社会福祉士会との繋がりができたことで、社会福祉士としての私自身の意識が大きく成長したと思います。また、同じ年度に入会した会員同士のつながりも私にとっては大切なものとなっています。

日本社会福祉士会での活動では、生涯研修制度を立ち上げたことが大きな思い出としてあります。現在の3年間の基礎研修課程を作る過程や認定社会福祉士に繋げていくための研修体系の確立にむけて、多くの仲間と試行錯誤を繰り返し、各方面の専門職の方にもアドバイスをもらい作り上げていきました。認定社会福祉士は社会福祉士の上級資格としていくため、それに見合う研修単位科目を考えました。会員のメリットとして認定社会福祉士を目指してほしいと同時に、それにふさわしい研修をできるだけ会員に無理なく履修してもらえるか、膨大な作業、議論を積み重ねていきました。当時は、本当に苦しかった、つらかったというイメージでしかありませんが、現在実際にそれを運用して研修が進められています。本当にできて良かったと実感しています。

そしてまた、本会では生涯研修センターを中心にそれをとても機能的に活用されています。関わってきた者としてこんなに嬉しいことはありません。

**(谷口)** 先程のお話しにも出ましたが、本会の活動の転機として、阪神・淡路大震災にかかる救援活動、支援活動があったと思います。岡田相談役より、当時の様子、そして阪神・淡路大震災での支援活動とソーシャルワーク活動をどのように結びつけられたのかを改めてお話ししたいと思っています。

**(岡田)** 日本社会福祉士会が、組織的な活動を初めて行ったのは阪神・淡路大震災で宝塚市におけ



る救援支援、復興支援活動でした。宝塚市からの要請により、日本社会福祉士会の「宝塚現地事務所」を置き、県内そして全国より訪れる社会福祉士の支援基地となりました。運営は本会自体が被災しているため、大阪社会福祉会が中心となり近畿ブロックの社会福祉士会がそれをバックアップし、行政機関との調整を行う中で、福祉の専門職として被災者の実態調査や仮設住宅入居者の相談支援活動を行いました。これが日本社会福祉士会として組織的な災害時支援のソーシャルワーク活動の始まりだと思っています。

**(谷口)** その後、全国各地で自然災害が多発するようになりましたが、中でも2011年の東日本大震災は阪神・淡路大震災を超える広範囲で、かつ、甚大な被害が及び、多くの方が被災されました。阪神・淡路大震災での支援活動経験により、日本社会福祉士会として組織的な災害時支援活動が行われましたが、岡本さんはいち早く会員として被災地へ赴かれ様々な支援活動に従事されました。その中でソーシャルワーカーとして感じられたこと、考え方が変わったことなどがあったでしょうか。

**(岡本)** 2011年3月に起こった東日本大震災において、日本社会福祉士会はその支援活動を4月初旬から開始しました。私は日本社会福祉士会からの要請により、4月中旬に宮城県南三陸町へ第1陣として入りました。自分の身は自分で守りながら、かつ、食事や準備物は自己完結が求められ、地理的な状況も分からないなか、ソーシャルワー



カーとして一体どのような支援活動ができるのだろうかという始まりでした。

最初の支援活動は、ベイサイドアリーナという巨大なスポーツ施設に設置された避難所における相談窓口での相談業務でした。地域包括支援センターのバックアップを行うという目的で行政からの要請によって設置しましたが、相談窓口には相談に来られる方はあまりありませんでした。土地柄もあるのかもしれませんが、すべてのものを失い、非常に困難な状況のなかで相談窓口に来て、何かを訴えるということができない方が多いのではないかと感じました。このため、こちらから避難者をまわり、直接声掛けをすることにしました。「何かお困りはありますか」との問いかけに、しばらく無言が続き、ほそりと「全部に困っている・・・。」との返答が返ってきたのが今も強烈に印象に残っています。そして、具体的に困りごとを把握しても、私たちにできることは、それを集約して行政職員へ伝えることであり、解決するところまでなかなかつながらないことが大半で、はがゆい思いを感じました。

また、地域の避難所へ出向いての相談活動を行いましたが、「なぜ(地元の)行政職員が来ないのか。」という訴えを耳にしました。行政職員は役場も津波で流されプレハブでの不眠不休で懸命の復旧業務を行っていましたが、こんな時こそ支援に入っている様々な機関や団体が連携して、一体となって支援活動をしていかないと、被災しながら支援している行政や事業所の方々や被災者が取り残されてしまうことを痛感しました。

その後、夏には仮設住宅ができ始める南三陸町と冬には雪が深い、岩手県陸前高田市への仮設住宅への訪問支援へ参加しましたが、災害時の支援には、支援チームを継続的に派遣しつづけるために、組織的な支援がとても重要であることを認識しました。そして、高齢者や障がいのある方など要援護者の方々には、平時から災害に備えること、防災に努めることもソーシャルワーカーの支



援として本当に必要であることを経験しました。そして、本会の活動の一つとして災害時支援を位置づけないといけないと強く思いました。

(谷口) 災害時の支援経験を通して、ソーシャルワーカーの役割や要援護者へのかかわり方などの相談援助者としての知見が変わったという話がありましたが、ソーシャルワーク専門職のグローバル定義の見直しが2014年に国際的に行われました。そして、この定義の見直しを受け、社会福祉士の倫理綱領の見直しも行われました。土谷さんは日本社会福祉士会で倫理綱領や行動規範の見直し等に関わられていました。グローバル定義と倫理綱領の見直しの背景、内容等をお話していただきたいと思います。

(土谷) 2014年にIFSM(国際ソーシャルワーカー連盟)の総会で採択されたソーシャルワークのグローバル定義は、「ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問である。」としています。2001年に採択された「ソーシャルワークの定義」が見直されたものですが、その特徴として、「多様性の尊重」「西洋中心主義・近代主義への批判」「マクロな社会変革の強調」が挙げられます。ここでは詳しく説明しませんが、関心のある方は「社会福祉専門職団体協議会(社専協)国際委員会の「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義と解説」等





をお読みください。そして、日本社会福祉士会ではこの定義の採択を受け、それまでの倫理綱領や行動規範を見直すことになりました。倫理綱領や行動規範は、私たち社会福祉士がソーシャルワークを実践していく上においてその基本となるものです。倫理綱領は、専門職として理解しておくべきものですので、是非、新しい倫理綱領を学ぶ研修などへご参加いただきたいと思います。

**(谷口)** 現在岡本さんは行政で仕事をされ、ヤングケアラー支援に関わっておられます。今回のソーシャルワークのグローバル定義の改定との関係も含め、2018年3月に「社会福祉審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会」から出された「ソーシャルワーク専門職である社会福祉士に求められる役割等について」の意味について、どの様に捉えられておられますか。

また、児童虐待の問題を発端として「子ども家庭福祉」を専門とする資格の創設が検討されています。引きこもりや、閉じこもりなど、対人援助が難しいケースも顕在化してきました。加えて、新型コロナウイルスの感染予防対策として様々な活動制限や制約は新たなストレスとして特に、社会的に弱い立場の人には厳しい状況となっているのではないかと思います。

さらに、教育機関ではスクールソーシャルワーカーが各市町で積極的な配置がすすめられていますが、それらとの関連も含め、「新たな時代のソーシャルワーク」についてお話してください。

**(岡本)** 2018年に「ソーシャルワークの専門職である社会福祉士に求められる役割」が示されたことにより、実習指導要領の改正があり、2021年度の大学生からは新しいカリキュラムに沿った形で、実習内容も、また時間も大幅に増え、演習等が予定されています。また、近年、教育分野においてソーシャルワークが拡大してきています。スクールソーシャルワーカーが多くの小・中学校に配置されるようになったのはその一つの傾向です。その背景は、「地域共生社会」というキーワードです。制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域とともに創っていく社会を指しています。私たちソーシャルワーカーは、地域の問題を地域住民と一体となり一緒に解決し、またその問題を抱えている個人を支える仕組みや社会資源を開発していく役割が期待されています。学校現場には様々な課題が山積しています。新型コロナウイルスの影響により学習環境も変わるなか、児童・生徒の家庭内の問題、たとえば虐待や貧困に加え、ヤングケアラーといわれる介護の問題も取り上げられるようになりました。これらの課題に対しては、学校現場だけでは解決できず、教育と福祉との連携のもと、多職種が連携して対応しなければなりません。また、地域の課題として地域の人々を巻き込み、インフォーマルな力を醸成し、地域の福祉力を高めるためには、コミュニティソーシャルワークの実践が我々に求め





られる時代となっています。そして、自殺防止対策、成年後見の利用促進、障がい者の地域移行・地域定着支援、社会的な孤立者や排除された方々への支援、生活困窮者支援、災害時の支援、多文化共生・外国人への生活支援など、その支援の領域は多岐にわたります。また、職能団体としては、これから社会福祉士を目指そうとする学生や転職を希望される方への支援、大学教育へのアプローチなどもあります。これらの期待に応えるためには、私たち自身の資質を高めるための自己研鑽が必要です。生涯研修制度を充実し、スーパービジョン体制を確立し、認定社会福祉士を増やしていく取り組みが重要だと思います。本会が新しい時代に応える社会福祉士を養成することで、行政機関や地域住民からの信頼が得られることに繋がると考えます。それが本会に求められ、期待されていると思います。

**(谷口)** これから重要になるキーワードを提示していただきました。また、現在抱えている地域課題を整理していただきました。先ほど土谷さんから、社会福祉士の倫理綱領の見直しや行動規範についてお話を伺いましたが、社会福祉士の役割、使命の一つである「権利擁護」の視点、そして2019年度に「社会福祉士養成課程における教育内容等の見直し」があったことを踏まえ、新たな時代のソーシャルワークについて、お考えをお聞かせください。

**(土谷)** これからは専門的知識を有し、倫理観を持ったソーシャルワーカーをいかに育てていくかということが教育現場でも非常に重要となると考えています。ソーシャルワークは課題を抱えた人に寄り添い、問題を一緒に考え解決を図っていくものですが、勉強したからできるものではありません。クライアントとの信頼関係を構築する中で、様々な課題を整理し、エンパワメントすることも求められます。そのためには大学教育にお

ける演習や、福祉現場における実習が重要となってくるわけですが、コロナ禍で対面授業が制限され、対人援助職の育成にも非常に不利な状況が続いています。コロナ禍が急速に収束するとは考えられません。養成校の課題として、コロナ禍であってもいかに実習指導や訓練をしていく体制を整えていかななくてはなりません。

また、現在の学生の傾向として、対人援助職として大切な「傾聴」ができない、ということがあります。自分の言いたいことは言えるが、人の言っていることが聞けない。そんな人が多くなっているように感じます。

ある保育所の話ですが、所長や主任が、若い保育士に強く言えない。強く指導するとハラスメントといわれると嘆いておられました。確かに権利擁護という視点は大切です。しかしそれをはき違えている実態もあります。そのために研修は有効ですが、なかなか自ら進んで研修を受けようとする人が少ない。研修に参加すると、研修の中身だけでなく、その研修に参加した人とも知り合うことができ、繋がりが生まれます。そういう仲間を作ることができるのも社会福祉士会の研修の大切な要素の一つです。少し話がずれましたが、本会の研修、そして生涯研修制度を積極的に活用してほしいと思います。皆さんが必要とする研修システムは今後ともさらにより良いものとなるようにしていくべきだと思います。

**(谷口)** 最後に岡田相談役から、社会福祉士の誕





生、その組織化、そして社会福祉士の活動の変遷に深く関わってこられたことを通して、「新たな時代のソーシャルワーク」に、今後どのような姿が求められるのか。そして新しく社会福祉士の資格を取り、これから活動される方々に求められる姿勢についてお話してください。

(岡田) 岡本さん、土谷さんからこれまで30年の時代の変遷と社会福祉士について、十分にお話しいただいたので、特に目新しいことはありませんが、社会の変化によって組織も変化しなくてはなりません。

社会福祉士は名称独占であり、業務独占でないこともあって、職能団体である社会福祉士会に入会することに魅力を感じない人も多いと思います。しかし、ソーシャルワークを実践していくためには常に自己研鑽が必要であり、そのためには最新の情報が得られ、同じ思いを持つ仲間と出会えること、また仲間づくりができる本会の役割は大きいと思います。さらに、専門職として倫理綱領を遵守し、倫理的責任を果たすという意識を持つことも本会に入っているからこそだと思います。

す。時代とともに組織も変化しますが、変えてはいけない普遍的な理念というか原理原則があり、すべての社会福祉士はそのことも常に自覚し、それぞれの活動を推進していただきたい。

あと、本会には公益社団法人化という目標もありますが、これからのみなさんに十分に論議する中で進めていただければと思います。今後、本会がより社会的な信用を高めて、県民から頼りにされる職能団体となっていくことを祈っています。

(谷口) 皆さんのお話にもありましたように、社会福祉士会は、常に地域の人々と共に歩んでいます。時代は日々変化しますが、その中でも社会福祉士(ソーシャルワーカー)の活動の肝とするものが倫理綱領です。社会福祉士は常にそれを大切に、守っていくことが求められています。

本日は歴代の3人の会長に、これからの「新たな時代のソーシャルワークについて」語っていただきました。皆さん、ありがとうございました。

収録日 2022年3月8日

場所 兵庫県福祉センター





# 特別寄稿



ばあとなあ兵庫  
前運営委員長

隼住 剛

## 権利擁護センターばあとなあ兵庫の歩み

兵庫県社会福祉士会（以下本会）が設立30周年を迎えたことを会員の皆様と共に喜びたいと思います。

私が20年前に入会した当時は、成年後見人養成研修は、日本社会福祉士会が東京で開催する研修に本会から年に数名しか受講する事が出来ませんでした。全国でも社会福祉士の後見人が足りない中、2006年にこの養成研修は、手を挙げた都道府県士会が支部委託研修として主催する事となりました。全国でも数か所しか受託を検討して居ない中で、本会は積極的に開催に臨む事となりました。前年にモデル研修を主催した大阪士会と日本福祉士会との合同説明会大阪に出席し、いよいよ本会が主催する研修がスタートしました。開催経験の無いまま蓋を開けると募集定員を大幅に超え、京都市会15名を含む65名の受講生を受入れる事になりました。現在の県福祉センターは未だ建て替わる前で、現会長の岡本和久氏に神戸市立総合福祉センターを優先的に押さえて頂き、研修会場をキープ出来たことを思い出します。その様な甲斐もあって「ばあとなあ兵庫」の会員数は今年で489名となり、全国でも4番目に多い名簿登録者数となって居ます。

家庭裁判所や各市の後見センターからの後見人等候補者の推薦依頼に対応する事が主な役割ですが、初めての会員が安心して受任して頂けるように、ばあとなあ運営委員会は県内の各エリアにおいて顔の見える名簿登録者研修会など開催して居ります。

2016年の「成年後見制度の利用促進に関する法律」により、全国どの地域に

住んでいても成年後見制度の必要な人が、この制度を利用できる様に体制整備が進められて来ました。1期5年が経過し、2期目は、専門職団体は地域における協議会等に積極的に参画することや、地域連携ネットワークにおける相談対応や権利擁護支援チームによる支援活動などにおいて、本人の特性等に合わせながら、専門性を生かした積極的な役割を果たすことが期待されています。

権利擁護支援を役割とする社会福祉士が今後とも大きな役割を果たせる様に、本会の益々の発展を願っています。







救護施設こうせいみなと  
施設長

前嶋 弘

## 生涯研修制度と兵庫県における実践 ～これまでとこれから～

本稿では、日本社会福祉士会（以下、本稿において「本会」とします。）の生涯研修制度をその創設から概観し、その形成と兵庫県での取り組みが与えた影響との関係を振り返ります。

1994年、本会は「社会福祉士会生涯研修特別委員会（仲村優一委員長）」を設置して生涯研修体系の研究協議を始めました。この時、まだ本会は任意団体でした。社団法人格を得た1996年に設けられた「生涯研修制度化検討委員会（宮本節子委員長）」が、「特別委員会」の報告を引き継いで生涯研修制度に関する「基本構想案」をまとめました。これが1998年の第6回全国大会総会で「生涯研修制度基本構想」として承認され、翌1999年に生涯研修制度が創設されました。これにあわせて本会は、生涯研修センターを設置しました。

その後、生涯研修センターは日本社会福祉士会が都道府県社会福祉士会を会員とする組織変更（それまでは個人の社会福祉士が会員でした）を行ったことにより、会員（都道府県社会福祉士会）に属する社会福祉士に対して直接研修を提供する他、生涯研修制度の情報提供と修了認定を行う組織となって現在に至っています。

兵庫県の社会福祉士にとって、阪神・淡路大震災は大変大きな出来事でした。この時、私たちが本会とともに被災地で行った救援活動は、本会にもさまざまな影響を与えました。前述「特別委員会」での協議もそのひとつでした。

「特別委員会」は、常に「社会福祉士とは何か」を土台に協議を行っていました。そのような中、1995年に阪神・淡路大震災の被災地で救援活動を行った社会福祉士から“社会福祉士には、相談援助の専門職として生活を支えるジェネリックな力量が必要である”という声が多く挙がりました。この声が「特別委員会」で受け止められ、「基本構想案」に引き継がれて「社会福祉士の共通基盤（いわゆる“6領域”）」の原型になりました。日本社会福祉士会の生涯研修制度がこの6領域を骨格としているのはご承知のとおりです。こうして振り返ると、私たちがこの兵庫県で行った活動が生涯研修制度の方向性に大きく関係したことが改めて伺えます。

兵庫県社会福祉士会は、当時から積極的に研修を開発・提供し成果を上げ続けている全国でも有数の都道府県士会です。みなさまの活動に心から敬意を表します。今後も、先駆的で充実した活動が続けられることを期待しています。  
(元 公益社団法人日本社会福祉士会理事/生涯研修センター企画・運営委員長)

# 特別寄稿



神戸女子大学  
健康福祉学部 社会福祉学科  
教授

佐々木 勝一

## 阪神・淡路大震災における 兵庫県社会福祉士会の被災者支援活動

1995(平成7)年1月17日の早朝に発生した阪神・淡路大震災は、大都市を直撃した地震としては関東大震災以来で、その被害は人口密集地帯特有の家屋倒壊、火災による死傷者が大多数発生しました。その後の東日本大震災では、津波による原発事故を代表にして被害が拡大しましたが、阪神では個々の人たちが生活する家屋が崩壊したのが特徴です。

数日後に、私は長田の街を歩いて、ビルや立派な家屋の多くは残り、古い木造住宅が倒壊、燃え尽きていたことが今も思い出されます。まさしく「住環境の格差」が生死を分けたと言えます。そして、その要因が貧富格差による住居の耐震性の格差でもありました。しかし、単に貧富による格差だけではない、社会の絆の存在の有無にも気づきました。

当時、救護施設に勤務していた私は、日々、精神障害で生活保護受給者の方たちの生活支援に追われていました。利用者の多くの方たちは、慎ましく懸命に日々の生活をされ、施設を退所して生活保護を受給しつつ、昼間は救護施設に通所する、現在の障害者総合支援法の介護・訓練給付の先鞭とも言えます。当然のように、安普請のアパート生活者である利用者は殆ど全壊したアパートでの居住不能となり、その後の地域型仮設、一般仮設、そして公営住宅などへの転居をその後繰り返し、その被災者支援に関わりました。そんな折、1995年8月頃に、施設の利用者支援も目途が立った頃、西区の知人である保健師から、神戸市内に最期に建設された西区の大規模仮設住宅には、誰からの支援も受けられず、流されるままに住居を決めている人たちが多くいました。西神南の室谷地区にできた工場設置予定地に総計約1,700戸の仮設住宅であり、要保護の方が多く、それまでの抽選に外れ各地から来た住民相互には、個々の交流も殆どなく、孤立する人たちも多いので、訪問支援ができないかとの依頼でした。早速、信頼する垂水病院の先輩PSWのT氏に相談すると月1回の訪問活動を開始する事の協力を得ました。ただ、すぐに現地でSWとPSWがいきなり訪問活動を行っても、「怪しい人!」と思われるので、住民の方たちが来やすい場となる工夫が必要と感じ、当時、県立看護大学学長をされていた南裕子先生に相談をすると、快く看護大学の教員を派遣していただけることになり、「健康相談・生活相談(ほほえみ会)」という活動を開始しました。

当初は、やはり来場していただける方は少数でしたが、回を重ねると、女性を中心に徐々に人数が増えてきました。最終的には、その後作られた自治会の協力もいただき、数十名の方たちが来場されるようになりました。特に、看護師の医療相談は順番待ちが出るほど好評でしたが、残念ながら、SW、PSWへの相談は少なかったです。それなら、こちらから訪問して行こうと数回目からは、要保護リストにある住宅訪問を開始しました。丁度、その頃から仮設住宅での「孤独死」が聞かれ始め、室谷地区でも数名の「孤独死」者がありました。その大半が、中高年以上の単身男性でした。その方たちへ、戸別訪問このような事は、現在も続いています。約5年間のほほえみ会の活動では、多くの社会福祉士の方からの支援をいただき、本当に感謝いたします。中には、東京から参加していただいた会員もおられました。

あれから28年が経過し、災害時の支援については、検証も進みました。しかし、私は、社会福祉の基本は人との関りを積極的に求めることだと思います。今後も、社会福祉士の社会的な使命を完遂されることを心から期待しています。

今では、当時の被災状況を伝える建物等は殆ど目にする事は無くなりましたが、個々の人々の経験は消えるものではありません。







事務局長  
西野 佳名子

## 社会福祉士を支える

社会福祉士は、1986年度の第1回国家試験で180人誕生しました。以来、生活課題を抱える人々を支え、その生きづらさの解消に関わるソーシャルワーク専門職として、27万人超の合格者が全国にいます。国家試験の合格率は30%弱なので、かなりの難関と言えるでしょう。

社会福祉士は、クライアントへの直接支援にとどまらず、地域の支援システムや制度施策の最適値を模索します。重層的支援体制整備が言われるようになった今日、行政組織や多様な非営利組織との関わりはもとより、学校関係者・司法関係者・警察組織など社会福祉士の連携先は年々拡がりをみせています。

また、社会福祉士は「連絡・調整のプロ」として、多職種による支援チームの中でも重要な立場を持っています。その職責を全うするため社会福祉士は職能団体を組織し、47都道府県に1つずつの社会福祉士会があるわけです。

兵庫県社会福祉士会は少しずつ事業を拡大してきました。クライアントの権利擁護、福祉事業所のサービス、自治体が繰り出す福祉事業、どれをとっても社会福祉士の専門性を活かして質の向上に関わってきたことが評価されて、公益性の高い事業を継続拡大しています。

人生の30歳とはどのような時期でしょう。保護者から独立し仕事や家庭を切り盛りし、人生を切り開く主人公を自認する時期ではないでしょうか。私たち兵庫県社会福祉士会は設立より30年を経過し、組織としての言動に責任を持ち、社会福祉士らしさをどのように表現するかを考え始めたと感じています。

エネルギーや食糧など人が生きることの根幹に関わる産業構造の変化は、世界規模の人口移動を加速するでしょう。社会の大きな変化は、今までの経験値では対処できないような複雑な生活課題を生み出すことになるでしょう。そのような時代にもソーシャルワークは人々の生活課題を直視し、社会福祉士は人々の生きづらさの解消に向き合い続けます。

社会福祉士会は、社会福祉士個人の専門性向上を応援し、社会福祉士の職域拡大につなぎ、社会福祉士が担うソーシャルワークの社会的認知度を上げるのが使命です。

力のある社会福祉士が関わる人・組織・事業を輝かせるように、兵庫県社会福祉士会は頑張る社会福祉士を支えます。



理事（会計担当）  
薄木 公平

## 非営利組織の経営（ミッションと成果）～会計の視点から～

『良いことは継続してナンボである』

兵庫県社会福祉士会（以下「本会」という）が30周年を迎え、社会福祉士及び本会へ求められる「社会的期待」は大きくなる一方です。本会のミッション（達成すべき目標）は、社会福祉士制度を発展させ、社会福祉士の地位と能力向上を通して、国民福祉の向上のための組織であるということです。それが本会の定款第3条（目的）に具体化されています。

マネジメントで有名なピーター・F.ドラッカー（Peter Ferdinand Drucker）は、著書である“非営利組織の経営”で次のように述べています「非営利組織が常に考えるべきは成果である。非営利組織と企業の最大の違いは、多様なステークホルダーのすべてを満足させなければならない。資源は成果があがるところに投入し、貢献という見地から自らの目標を設定しなければならない」。

会計は、本会の資金管理・運用・投下を通じて、前述した目的等を達成させるための手段です。数字というのは、誰しもにとって見やすくわかりやすいものです。会計は、ともすると“数字”でしか物事を判断しないという批判を受けますが、裏を返すと“数字”という明確な指標に基づき、本会の成果と目的の達成度合いを測り、資源投下先を客観的かつ根拠をもって選定することのできる方法であると考えています。

理事会活動・委員会活動・研修・施設見学etc...これらは手段であり、本会の活動目的等ではありません。しかし、組織活動を長く続けていると、手段と目的が、混在しないしは逆転してしまうことがあります。数字では表れにくい成果を求める非営利法人は、このことに気を付けなければなりません。本会にミッションがあり、「目的＝事業＝会計」この3つが並列に繋がって、はじめて“成果”があげられると思います。もちろんそこには情熱というスパイスが必要ですが。

この30年間で社会変容と技術革新等が起こっていますが、本質的に本会のミッションは変わっていません。そのために本会は“継続していかなければならない”のです。しかも、多様なステークホルダーのために成果を出し続けながらです。

次の30年に向けて、私たち社会福祉士、社会福祉士会の存在意義は何かを見つめなおしつつ、この30周年を会員の皆様と共に迎えることができたことをうれしく思います。



# 30年のあゆみ

年度		1993 (平成5) 年度	1994 (平成6) 年度	1995 (平成7) 年度
総 会	日時	兵庫県支部設立総会 7月24日(土)	第2回総会 5月21日(土)	第3回書面総会7月 9月2日(土)復興支援会議
	会場	たちばな職員研修センター	神戸市立生活学習センター	県立のじぎく会館
	講演	秋山 智久 (大阪市立大学教授) 「人間の哀しさと美しさ」 —望ましい社会福祉実践—	杉本 敏夫 (岡山県立大学助教授) 「老人保健計画と社会福 祉士」	徳永 恭子 (神戸新聞阪神総局) 「震災報道と社会福祉」 —新聞はライフライン—
本会の 主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「事務局だより」の発行</li> <li>・定例会(月1回)の開催</li> <li>・国家試験受験対策講座の開催</li> <li>・近畿ブロック研修会に参加</li> <li>・「ひよこ通信」の発行</li> <li>・広報、調査研究、研修、相談各委員会設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員名簿の作成</li> <li>・第2回近畿ブロック研修会を担当</li> <li>・セミナー「スウェーデンの障害者福祉」開催</li> <li>・阪神・淡路大震災による被災状況のアンケートの実施</li> <li>・本部・救援活動に参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事会を大震災復興本部に位置づけ</li> <li>・社会福祉専門職救済活動連絡会への参加</li> <li>・被災会員へ義援金の配布</li> <li>・阪神大震災復興支援会議の開催</li> </ul>	
決算額	271,159円	674,804円	791,420円	
会員数	55名	62名	120名	
会長・ 事務局体制	会長 岡田 誠 事務局長 芝 拓哉 事務局次長 岩木 久敏 連絡先として私書箱を置く	会長 岡田 誠 事務局長 岩木 久敏 事務局次長 芝 拓哉 事務局 事務局長宅	会長 岡田 誠 事務局長 岩木 久敏 事務局次長 芝 拓哉 事務局 事務局長宅	
国家試験・兵庫 県合格者数 (全国合格率)	第5回 42名 (23.8%)	第6回 40名 (22.3%)	第7回 67名 (26.5%)	
全国大会 近畿ブロック	第1回 東京都 八王子市 第1回 大阪社会福祉士会	第2回 静岡県 熱海市 第2回 兵庫社会福祉士会	第3回 長野県 諏訪市 第3回 京都社会福祉士会	
社会福祉・ 社会保障の 動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障将来像委員会第一次報告(社福審)</li> <li>・障害者対策に関する新長期計画策定(平成5~14年度)</li> <li>・高齢社会福祉ビジョン懇談会発足</li> <li>・福祉用具の研究開発及び普及に関する法律制定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・21世紀福祉ビジョン策定</li> <li>・社会保障将来像委員会第二次報告(社福審)</li> <li>・エンゼルプランの策定</li> <li>・ハートビル法制定</li> <li>・新ゴールドプランの策定(平成7~11年度)</li> <li>・日本介護福祉士会設立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈阪神・淡路大震災〉</li> <li>・児童に関する権利条約批准</li> <li>・育児休業法改正(介護休業制度創設、育児・介護休業法に改称)</li> <li>・精神保健法改正(精神障害者保健福祉手帳の創設、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に改称)</li> <li>・障害者プランナーノーマライゼーション七か年戦略の策定(平成8~14年度)</li> <li>・高齢社会対策基本法制定</li> </ul>	



# 30年のあゆみ

年度		1996 (平成8) 年度	1997 (平成9) 年度	1998 (平成10) 年度
総 会	日時	第4回総会 7月6日(土)	設立第5回記念大会 5月24日(土)	第6回総会 5月30日(土)
	会場	神戸市生活学習センター	湊川神社楠公会館	神戸市生活学習センター
	講演	生村 吾郎 (生村神経科医院長) 「近代精神医療の成立と展開—どうして福祉は遅れたのか—」	松原 一郎 (関西大学教授) 「これからの社会福祉—社会福祉改革の流れ—」	岡田 藤太郎 (大阪地域福祉サービス研究所長) 「社会福祉士に望むこと」
本会の主な活動		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究誌の発行準備(大震災記録集の編集会議の開催)</li> <li>・施設見学会の実施</li> <li>・貯蓄相談センター介護相談事業開始</li> <li>・仮設住宅援助活動(ほえみの会)開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習会の開催</li> <li>・介護支援専門員実務研修受講資格試験準備講習会開催</li> <li>・第2回社会福祉セミナー開催(於:赤穂ハイツ)</li> <li>・研究誌「兵庫社会福祉士」創刊号(震災復興と社会福祉士)発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立候補制による役員改選</li> <li>・ホームページの開設</li> <li>・メーリングリストの開設</li> <li>・ふれあい交流会(新任者研修・ワークショップ)の開催</li> <li>・介護支援専門員模擬試験など介護福祉士会と共催実施</li> </ul>
決算額		794,815円	1,782,577円	2,241,026円
会員数		150名	180名	220名
会長・事務局体制		会長 岡田 誠 事務局長 芝 拓哉 事務局次長 岩木 久敏 事務局 事務局次長宅	会長 岡田 誠 事務局長 岩木 久敏 事務局次長 芝 拓哉 事務局 事務局長宅	会長 岡田 誠 事務局長 岩木 久敏 事務局次長 芝 拓哉 事務局 事務局長宅
国家試験・兵庫県合格者数(全国合格率)		第8回 74名 (30.0%)	第9回 119名 (29.4%)	第10回 130名 (27.6%)
全国大会 近畿ブロック		第4回 大阪府 大阪市 第4回 滋賀県社会福祉士会	第5回 北海道 札幌市 第5回 和歌山県社会福祉士会	第6回 福岡県 春日市 第6回 奈良県社会福祉士会
社会保障・社会福祉の動向		<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢社会対策要綱</li> <li>・らい予防法の廃止に関する法律制定</li> <li>・社団法人日本社会福祉士会が誕生</li> <li>・日本社会福祉士会「暮らしの相談センター」の介護相談事業開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈消費税率5%に引き上げ〉</li> <li>・社会保障構造改革</li> <li>・介護保険法制定</li> <li>・精神保健福祉士法制定</li> <li>・日本社会福祉士会「社会福祉士資格制定10周年記念シンポジウム」開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定非営利活動促進法制定</li> <li>・「社会福祉基礎構造改革について(中間まとめ)」発表</li> <li>・日本社会福祉士会国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)に正式加盟</li> <li>・介護支援専門員実務研修受講試験始まる</li> </ul>



# 30年のあゆみ

年度		1999 (平成11) 年度	2000 (平成12) 年度	2001 (平成13) 年度
総 会	日時	第7回総会 5月29日(土)	第8回総会 5月27日(土)	第9回総会 5月26日(土)
	会場	神戸市勤労会館	神戸市男女共同参画センター	神戸市たちはな職員研修センター
	講演	北野 誠一 (桃山学院大学教授) 「社会福祉基礎構造改革と 権利擁護」	上野谷 加代子 (桃山学院大学教授) 「福祉改革と社会福祉士」	西脇 創一 (在宅介護ネットワーク 代表) 「憲法を処遇に生かそう」
本会の 主な活動		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジメント研究委員会、権利擁護研究委員会設置</li> <li>・但馬ブロック設立</li> <li>・ほほえみの会「活動報告集」の作成</li> <li>・ひよこ感謝の集いの開催</li> <li>・福祉情報マップの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿ブロック研修会開催準備のため「ひよこサポータークラブ」を結成</li> <li>・近畿ブロック研修会を担当</li> <li>・東播ブロック設立</li> <li>・2003年全国大会に立候補</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンネットワーク小委員会設置</li> <li>・東播ブロックに「ばあとなあ兵庫(準備会)」事務所を開設</li> <li>・第3回社会福祉セミナー開催(於:但馬長寿の里)</li> </ul>
決算額		3,596,335円	6,496,113円	5,655,627円
会員数		268名	354名	437名
会長・ 事務局体制		会長 岡田 誠 事務局次長 吉田 誠一 事務局員 芹澤 京 事務局 福祉人材センター内	会長 岡田 誠 事務局次長 吉田 誠一 事務局員 吉田 邦子 事務局 福祉人材センター内	会長 岡田 誠 事務局次長 吉田 誠一 事務局員 吉田 邦子 事務局 福祉人材センター内
国家試験・兵庫 県合格者数 (全国合格率)		第11回 193名 (29.5%)	第12回 271名 (29.0%)	第13回 290名 (26.5%)
全国大会 近畿ブロック		第7回 愛知県 名古屋市 第7回 大阪社会福祉士会	第8回 宮城県 仙台市 第8回 兵庫社会福祉士会	第9回 広島県 広島市 第9回 京都社会福祉士会
社会 保障・ 社会 福祉の 動向		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方分権一括法</li> <li>・新エンゼルプランの策定(平成12~16年度)</li> <li>・「精神薄弱」を「知的障害」に</li> <li>・ゴールドプラン21の策定(平成12~16年度)</li> <li>・日本社会福祉士会「生涯研修センター」設置</li> <li>・成年後見センター「ばあとなあ」創設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉基礎構造改革(社会福祉事業法等の改正、社会福祉法に改称)</li> <li>・成年後見制度の創設</li> <li>・児童虐待防止法施行</li> <li>・介護保険法施行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚生労働省発足</li> <li>・社会保障改革大綱</li> <li>・配偶者からの暴力の防止・被害者の保護に関する法律制定</li> <li>・障害者等の欠格事由見直し法制定</li> <li>・新しい高齢社会対策大綱</li> <li>・日本社会福祉士会連名で「9.11テロに対する声明」を出す</li> </ul>



# 30年のあゆみ

年度		2002 (平成14) 年度	2003 (平成15) 年度	2004 (平成16) 年度
総 会	日時	第10回総会 6月15日(土)	第11回総会 5月17日(土)	第12回総会 5月22日(土)
	会場	神戸市たちばな職員研修センター	神戸市男女共同参画センター	神戸市男女共同参画センター
	講演	上田 晴男 (PASネット代表) 「支援費制度と権利擁護の課題」	藤井 美和 (関西学院大学助教授) 「人が生きること」	関本 雅子 (関本クリニック医院長) 「今、求められる医療と福祉の連携」=ターミナルケアを通して=
本会の主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「国家試験統一模擬試験」を神戸市社協(市民福祉大学)と共催</li> <li>・「暮らしの相談センター」介護相談事業を終了</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の改編(総務委員会、パソコンネットワーク委員会の設置、ばあとなあ兵庫の独立など)</li> <li>・「第11回全国大会」を担当し、成功裡に終える</li> <li>・臨時総会で『倉庫兼作業所』借上げを承認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹波ブロック設立</li> <li>・ばあとなあ兵庫設立</li> <li>・国家試験対策委員会設置</li> <li>・「国家試験対策講座」を兵庫精神保健福祉士会と共催</li> <li>・台風23号の被災地(但馬、淡路地区)に救援活動</li> </ul>	
決算額	6,355,028 円	7,363,268 円	7,661,085 円	
会員数	535 名	643 名	756 名	
会長・事務局体制	会長 岡田 誠 事務局次長 吉田 誠一 事務局員 (不在) 事務局 福祉人材センター内	会長 岡田 誠 事務局次長 吉田 誠一 事務局員 倉内 康子 事務局 福祉人材センター内	会長 岡田 誠 事務局次長 吉田 誠一 事務局員 河野 芳雄 事務局 福祉人材センター内	
国家試験・兵庫県合格者数(全国合格率)	第14回 367名 (29.5%)	第15回 451名 (31.4%)	第16回 580名 (28.5%)	
全国大会 近畿ブロック	第10回 千葉県 千葉市 第10回 滋賀県社会福祉士会	第11回 兵庫県 神戸市 第11回 和歌山県社会福祉士会	第12回 新潟県 南魚沼市 第12回 奈良県社会福祉士会	
社会保障・社会福祉の動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームレス自立支援特別措置法制定</li> <li>・少子化対策プラスワンの策定</li> <li>・新しい障害者基本計画の策定(平成15~24年度)</li> <li>・新障害者プランの策定(平成15~19年度)</li> <li>・「精神分裂病」を「統合失調症」に名称変更(日本精神神経学会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化社会対策基本法制定</li> <li>・次世代育成支援対策推進法制定</li> <li>・新障害者プランの策定</li> <li>・障害者支援費制度の施行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈新潟中越地震など自然災害が多発〉</li> <li>・「痴呆に代わる名称を検討会」により「認知症」へ</li> <li>・少子化社会対策大綱の策定</li> <li>・子ども・子育て応援プランの策定(平成17~21年度)</li> <li>・発達障害者支援法制定</li> </ul>	



# 30年のあゆみ

年度		2005 (平成17) 年度	2006 (平成18) 年度	2007 (平成19) 年度
総会	日時	第13回総会 5月21日(土)	第14回総会 5月21日(日)	第15回総会 5月27日(日)
	会場	神戸市男女共同参画センター	神戸市男女共同参画センター	神戸市男女共同参画センター
	講演	池田 恵利子 (いけだ後見支援ネット) 「地域包括システムにおける 権利擁護の視点」	鈴木 勉 (佛教大学教授) 「社会福祉政策の動向と ソーシャルワーカーの課題」	辻 寛 (前兵庫県社会福祉協議 会会長) 「社会福祉士への期待」 (急遽中止。委員会・地区 ブロックの紹介)
本会の 主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>春日野道に「倉庫兼作業所」借り上げ</li> <li>地域包括支援センター支援委員会、ホームレス支援委員会設置</li> <li>阪神ブロック設立</li> <li>臨時総会で「支部の社団法人化の方針」を承認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>神戸ブロック設立</li> <li>「春日野作業所」解約し、「三宮事務所」借り上げ</li> <li>「在宅高齢者虐待対応専門職チーム」の組織化</li> <li>「あなたを育てる対人援助の本」出版</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「福祉なんでも相談」を月1回実施</li> <li>「ひよこゼミナール」開講</li> <li>「地域包括支援センター関連三職種連絡会」へ参画</li> <li>西はりま地区ブロック設立</li> <li>高齢者虐待対応委員会、地域包括支援センター支援委員会設置</li> </ul>	
決算額	12,130,395円	17,690,244円	20,336,073円	
会員数	762名	884名	960名	
会長・ 事務局体制	会長 岡田 誠 事務局次長 吉田 誠一 事務局員 河野 芳雄 事務局 県福祉センター福祉人材センター内	会長 岡田 誠 事務局次長 吉田 誠一 事務局員 河野 芳雄 中屋ゆかり 事務局 県福祉センター分室 三宮事務所	会長 岡田 誠 事務局次長 吉田 誠一 事務局員 河野 芳雄 中屋ゆかり 事務局 県福祉センター分室 三宮事務所	
国家試験・ 兵庫県合格者数 (全国合格率)	第17回 551名 (29.8%)	第18回 632名 (28.0%)	第19回 616名 (27.4%)	
全国大会 近畿ブロック	第13回 香川県 高松市 第13回 大阪社会福祉士会	第14回 埼玉県 さいたま市 第14回 兵庫社会福祉士会	第15回 三重県 志摩市 第15回 京都社会福祉士会	
社会保障・ 社会福祉の 動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害者自立支援法制定</li> <li>介護保険法等の改正(予防重視システムへの転換、食費居住費の自己負担、地域密着型サービスの創設等)</li> <li>高齢者虐待防止法制定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈障害者の権利に関する条約採択(国連)・自殺対策基本法制定</li> <li>認定こども園法制定</li> <li>バリアフリー新法制定(ハートビル法と交通バリアフリー法を統合)「新しい少子化対策について」策定</li> <li>「地域包括支援センター」設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉士及び介護福祉士法改正(定義規定の見直し、介護福祉士の資格取得方法の一元化)</li> <li>更生保護法成立</li> <li>障害者重点施策5カ年計画の策定(平成20~24年度)</li> </ul>	







# 30年のあゆみ

年度		2010 (平成22) 年度		2011 (平成23) 年度	
総 会	日時	第2回総会 6月12日(土)	第3回総会 3月21日(月・祝)	第4回総会 6月11日(土)	第5回総会 3月20日(火・祝)
	会場	三宮研修センター	兵庫県福祉センター	兵庫県福祉センター	兵庫県福祉センター
	講演	竹中 ナミ (プロップ・ステーション理事長) 「チャレンジが拓くユニバーサル社会」	フォーラム (高橋他) 「新カリキュラムとこれからの実習現場について考える」	小西 すす (武庫川女子大学准教授) 「しあわせダイエットでこころも体もいきいきと」	フォーラム (水上他) 「新カリキュラムとこれからの実習現場について考えるII」
本会の主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国試対策委員会「合格祝賀会」開催</li> <li>・県下3か所で「社会福祉士による街かど無料相談会・活動展示会」開催</li> <li>・事務所を兵庫県福祉センターに移転</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災への支援(義援金の送金、災害派遣の派遣、登録)</li> <li>・「兵庫県リハビリテーションケア研究大会」を主催</li> <li>・「JR西日本 相談センター川西」開設</li> <li>・三宮事務所を閉鎖</li> <li>・「組織のあり方検討会」設置</li> <li>・独立型社会福祉士支援委員会設置</li> </ul>		
決算額	32,532,901円		47,357,311円		
会員数	1,172名		1,232名		
会長・事務局体制	会長 土谷 長子 事務局 兵庫県福祉センター 事務局次長 中屋ゆかり 事務局員 中村智穂美 事務局員 宮安 正子		会長 土谷 長子 事務局 兵庫県福祉センター 事務局次長 中屋ゆかり 事務局員 中村智穂美 事務局員 宮安 正子		
国家試験・兵庫県合格者数(全国合格率)	第22回 584名 (27.5%)		第23回 604名 (28.1%)		
全国大会 近畿ブロック	第18回 秋田県 秋田市 第18回 奈良県社会福祉士会		第19回 京都府 京都市 第19回 大阪社会福祉士会		
社会福祉・社会保障の動向	〈日本年金機構発足〉 ・地域主権戦略大綱 ・「子ども・子育てビジョン」制定 ・子ども手当で創設 ・「子ども・子育て新システムの基本制度案要綱」決定 ・児童扶養手当法改正(支給対象に父子家庭を追加) ・障害者自立支援法等の改正(障害保健福祉施策見直しまでのつなぎ法)		〈東日本大震災〉 ・「社会保障・税一体改革成案」 ・障害者虐待防止法制定 ・障害者基本法改正(地域社会における共生等、障害を理由とする差別の禁止) ・地域主権改革一括法(1次・2次)交付 ・介護保険法等の改正(定期巡回・随時対応型訪問介護看護等の創設等)		



# 30年のあゆみ

年度		2012(平成24)年度		2013(平成25)年度	
総 会	日時	第6回総会 6月9日(土)	第7回総会 3月24日(日)	20周年記念第8回 総会 6月8日(土)	第9回総会 3月23日(日)
	会場	兵庫県福祉センター	兵庫県福祉センター	兵庫県福祉センター	兵庫県福祉センター
	講演	松本 一生 (松本診療所) 「『支援する』とい うこと、『連携する』と いうこと」	上田 智香 (宋神経科クリニッ ク) 「他者の援助、自分 の援助～ケアとセル フケアについて～」	松崎 喜良 (神戸女子大教授) 「増加する低所得 者の問題に社会福 祉士はどう立ち向 かうべきか」	武田 建 (関西学院大学名 誉教授) 「バイステックを超 えて:ソーシャルワ ークにおける積極的ア プローチを求めて」
本 会 の 主 な 活 動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独立型社会福祉士支援委員会設置</li> <li>・日本社会福祉士会の連合体体制への移行に伴う定款、規則の変更</li> <li>・「コミュニティ支援アドバイザー設置事業」及び「若年性認知症就労・雇用サポート事業」を受託</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「福祉相談センター ここねっと兵庫」に愛称変更</li> <li>・「生涯研修センター」の設置</li> <li>・会員校の優秀な卒業生を表彰する「会長表彰規程」の設置</li> <li>・「兵庫県福祉生活保護受給者居住支援事業」の受託</li> <li>・「ひよこ通信」を「こうのとりの通信」にリニューアル</li> <li>・市民向広報誌「兵庫県社会福祉士会」を発行</li> </ul>		
決算額	47,721,386円		48,195,870円		
会員数	1,299名		1,350名		
会長・ 事務局体制	会長 土谷 長子 事務局 兵庫県福祉センター 事務局次長 中屋ゆかり 事務局員 中村智穂美 事務局員 北野和香子		会長 土谷 長子 事務局 兵庫県福祉センター 事務局長 木場 弘 事務次長 黒瀬 吉史 事務局員 中村智穂美 事務局員 北野和香子		
国家試験・ 兵庫県合格者数 (全国合格率)	第24回 589名 (26.3%)		第25回 339名 (18.8%)		
全国大会 近畿ブロック	第20回 岡山県 岡山市 第20回 兵庫県社会福祉士会		第21回 岩手県 盛岡市 第21回 京都社会福祉士会		
社会福祉・ 社会保障の 動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会保障・税一体改革大綱」策定</li> <li>・社会保障制度改革推進法制定</li> <li>・民法改正(親権停止制度の創設)</li> <li>・児童手当の復活</li> <li>・子ども・子育て支援法制定</li> <li>・障害者総合支援法制定</li> <li>・「認知症施策推進5か年計画」(オレンジプラン)の策定</li> <li>・日本社会福祉士会 新たな生涯研修制度(基礎研修・認証研修)になる</li> </ul>		<年金額マイナス改定> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障制度改革プログラム法成立</li> <li>・生活困窮者自立支援法成立</li> <li>・子ども・子育て会議の設置</li> <li>・待機児童解消加速化プランの策定</li> <li>・子どもの貧困対策の推進に関する法律制定</li> <li>・障害者差別解消法制定</li> <li>・第3次障害者基本計画の策定(平成25~29年度)</li> <li>・精神保健福祉法改正(保護者制度の廃止等)</li> </ul>		



# 30年のあゆみ

年度		2014 (平成26) 年度		2015 (平成27) 年度	
総 会	日時	第10回総会 6月28日(土)	第11回総会 3月21日(土)	第12回総会 6月27日(土)	第13回総会 3月19日(土)
	会場	兵庫県福祉センター	兵庫県福祉センター	兵庫県福祉センター	兵庫県福祉センター
	講演	記念シンポジウム (梅木・谷口・増山) 「生活困窮者自立 支援事業のあらまし と社会福祉士の役 割」	畠山 卓朗 (早稲田大学教授) 「より良い支援の 実現のために～支 援の基本である 『視点』・『納得の 過程』を中心に～」	田村 満子 (元日本社会福祉 士会副会長) 「社会福祉士が担 う今日的なソーシャ ルワークについて」	記念イベント 平川愛子 「美しいウォーキ ングで健康づくり ～社会福祉士の正 しい歩き方!？」
本 会 の 主 な 活 動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊岡市で「受験対策直前講座」を初めて実施</li> <li>・「退院支援チーム」が地域移行支援委員会として再編</li> <li>・集中豪雨災害の支援として広島社会福祉士会、丹波市へ義援金を送る。</li> <li>・「社会福祉士会発展5カ年計画」策定に取り組む</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームレス支援委員会を生活困窮者支援委員会に、ケアマネジメント研究委員会をソーシャルワーク研究委員会に改称</li> <li>・「ソーシャルワーカー関係5団体代表者会議」の開催</li> <li>・近畿ブロック賞「会長賞」を制定</li> </ul>		
決算額	57,323,248円		61,479,623円		
会員数	1,338名		1,337名		
会長・ 事務局体制	会長 岡本 和久 事務局 県福祉センター 事務局長 西野佳名子 事務局次長 黒瀬 吉史 事務局員 中村智穂美 事務局員 北野和香子 他 2名		会長 岡本 和久 事務局 県福祉センター 事務局長 西野佳名子 事務局次長 谷口 智昭 事務局員 中村智穂美 事務局員 北野和香子 他 3名		
国家試験・ 兵庫県合格者数 (全国合格率)	第26回 553名 (27.5%)		第27回 538名 (27.0%)		
全国大会 近畿ブロック	第22回 鹿児島県 鹿児島市 第22回 滋賀県社会福祉士会		第23回 石川県 金沢市 第23回 和歌山県社会福祉士会		
社会福祉・ 社会保障の 動向	〈消費税5%から8%に〉 ・まち・ひと・しごと創生法制定 ・生活保護法の改正(就労自立支援金の創設) ・母子及び寡婦福祉法改正(改称、父子家庭を含むひとり親家庭への支援強化) ・障害者権利条約の批准 ・医療介護総合確保推進法成立 ・介護保険法改正(地域包括ケアシステムの構築、費用負担の公平化)		〈マイナンバー制度施行〉 ・まち・ひとごと・しごと基本方針1015 ・少子化社会対策大綱(第3次)の策定 ・「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて(新オレンジプラン)～」の策定 ・障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針の策定 ・難病の患者に対する医療等に関する法律の施行		



# 30年のあゆみ

年度		2016 (平成28) 年度		2017 (平成29) 年度	
総 会	日時	第14回総会 6月25日(土)	第15回総会 3月25日(土)	第16回総会 6月24日(土)	第17回総会 3月24日(土)
	会場	兵庫県福祉センター	兵庫県福祉センター	兵庫県福祉センター	兵庫県福祉センター
	講演	中塚 久美子 (朝日新聞大阪本 社 記者) 「こどもの貧困の現 実～いま社会福祉 士に期待すること～」	筒井 孝子 (兵庫県立大学 教授) 「地域包括システ ム構築と社会福祉 士への期待」	副島 賢和 (昭和大学大学院 准教授) 「こころの声が言葉 になる～院内学級 の子どもたちが教えて くれた大切なこと～」	徳丸 ゆき子 (NPO法人CPAO 代表) 「こどもの貧困と 虐待について」
本 会 の 主 な 活 動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会福祉士会発展5カ年計画2020」に基づき「組織力向上戦略会議」を設置</li> <li>・「基礎研修運営プロジェクトチーム」を立ち上げ、生涯研修制度の充実を図る</li> <li>・災害支援委員会を設置し「近畿ブロック災害部会」と連携して災害支援体制を構築</li> <li>・県より『障害者虐待対応力向上研修』を受託、高齢者・障害者虐待対応委員会に改称</li> <li>・県障害福祉課内の「障害者差別解消相談センター」に相談員を派遣</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「法人賛助会員制度」の創設</li> <li>・専用キャラクター「兵之助くん」に決定</li> <li>・新規入会者に対するイベント「はじめの一步」を企画</li> <li>・広報誌をリニューアル「Pocket」を発行</li> <li>・県下の社会福祉士養成校の推薦による「優秀実習施設」の表彰制度を始める</li> <li>・認証研修「滞日外国人ソーシャルワーク研修」の開催</li> </ul>		
決算額	73,193,758円		66,239,374円		
会員数	1,396名		1,459名		
会長・ 事務局体制	会長 岡本 和久 事務局 県福祉センター 事務局長 西野佳名子 事務局次長 谷口 智昭 事務局員 中村智穂美 事務局員 北野和香子 他5名		会長 岡本 和久 事務局 県福祉センター 事務局長 西野佳名子 事務局員 中村智穂美 事務局員 北野和香子 事務局員 胡中 智礼 他4名		
国家試験・ 兵庫県合格者数 (全国合格率)	第28回 502名 (27.2%)		第29回 536名 (25.8%)		
全国大会 近畿ブロック	第24回 愛媛県 松山市 第24回 奈良県社会福祉士会		第25回 福島県 郡山市 第25回 大阪社会福祉士会		
社会福祉・ 社会保障の 動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『我が事・丸ごと』地域共生社会実現本部の設置(厚生労働省)</li> <li>・児童福祉法改正(原理の明確化、児童相談所の体制強化等)</li> <li>・児童虐待防止法改正(親子関係再構築支援等)</li> <li>・母子保健法改正(母子健康包括支援センターの設置)</li> <li>・障害者総合支援法改正(自立支援給付・障害児通所支援の充実等)</li> <li>・発達障害者支援法改正(法の目的の改正、基本理念の創設等)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法改正(地域共生社会の実現に向けた理念の明確化、地域福祉計画の充実等)</li> <li>・児童福祉法改正(被虐待児童の保護者指導への司法関与、家裁による一時保護の審査等)</li> <li>・児童虐待防止法改正(接見禁止命令の範囲拡大等)</li> <li>・障害者総合支援法改正(共生型サービスの創設)</li> <li>・介護保険法改正(介護医療院、共生型サービスの創設等)</li> </ul>		



# 30年のあゆみ

年度		2018 (平成30) 年度		2019 (平成31・令和元) 年度	
総 会	日時	第18回総会 6月23日(土)	第19回総会 3月23日(土)	第20回総会 6月22日(土)	第21回総会 3月22日(日)
	会場	兵庫県福祉センター	兵庫県福祉センター	兵庫県民会館	兵庫県福祉センター
	講演	山崎 亮 (コミュニティデザイナー、studio-L代表) 「コミュニティデザインとソーシャルアクション～社会福祉士に期待すること～」	津曲 共和 (兵庫県高齢政策課 課長) 「従事者の権利擁護・ハラスメント対策について」	丹野 智文 (おれんじドア代表) 「支え合って生きるということ～社会福祉士ともに『みんなが暮らしやすい』を考える～」	新型コロナウイルスの感染拡大のため、中止
本会の主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「防災と福祉連携モデル事業」、「医療的ケア児等コーディネーター養成研修等事業」受託</li> <li>・「こどもの権利擁護に関する研究プロジェクトチーム」設置</li> <li>・「住宅確保要配慮者居住支援事業」開始</li> <li>・認証研修「スクールソーシャルワーカー研修」、「障害者地域生活支援研修」実施</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「災害支援活動者養成研修」を近畿ブロック災害部会と共同開催</li> <li>・「ソーシャルワークアカデミー in 兵庫」開催</li> <li>・「発達障がい児・者と家族の支援について学ぶ研修」、「生活困窮者の『入口』と『出口』を支えて～就労支援を考える」を委員会開催</li> <li>・年度末、コロナ禍のため諸行事中止</li> </ul>		
決算額	76,772,124円		82,455,160円		
会員数	1,556名		1,648名		
会長・事務局体制	会長 岡本 和久 事務局 県福祉センター 事務局長 西野佳名子 事務局員 中村智穂美 事務局員 北野和香子 事務局員 胡中 智礼 他4名		会長 岡本 和久 事務局 県福祉センター 事務局長 西野佳名子 事務局員 中村智穂美 事務局員 北野和香子 事務局員 胡中 智礼 他4名		
国家試験・兵庫県合格者数(全国合格率)	第30回 558名 (30.2%)		第31回 546名 (29.9%)		
全国大会 近畿ブロック	第26回 山口県 山口市 第26回 兵庫県社会福祉士会		第27回 茨城県 つくば市 第27回 京都社会福祉士会		
社会福祉・社会保障の動向	〈働き方改革関係法律の成立〉 〈2040年を展望した社会保障・働き方改革本部の設置〉 ・生活困窮者自立支援法改正(包括的支援体制、子供の学習支援事業、居住支援の強化) ・生活保護法改正(進学準備給付金制度創設) ・児童虐待防止対策体制強化プランの決定 ・第4次障害者基本計画の策定(平成30～令和4年度)		〈消費税8%から10%へ引き上げ〉 〈全世代型社会保障検討会議の設置〉 ・年金生活者支援給付金制度の開始 ・児童虐待防止対策の強化を図るための児童福祉法等の一部を改正する法律の成立(児童相談所の体制強化等) ・幼児教育・保育の無償化の開始 ・障害者の雇用の促進等に関する法律の一部を改正する法律の成立(障害者活躍の場の拡大の措置等) ・認知症施策推進大綱の決定		



# 30年のあゆみ

年度		2020 (令和2) 年度		2021 (令和3) 年度	
総 会	日時	第22回総会 6月27日(土)	第23回総会 3月27日(土)	第24回総会 6月26日(土)	第25回総会 3月26日(土)
	会場	兵庫県福祉センター	兵庫県福祉センター オンライン開催	兵庫県福祉センター オンライン開催	兵庫県福祉センター オンライン開催
	講演	—	岡田 誠(相談役) 「ソーシャルワーカーとしてつないでいくこと～「社会福祉士会」の歩みから～」	—	前嶋弘・土谷長子 (本会会員) 「社会福祉士の倫理綱領、社会福祉士の行動規範について」
本会の主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策のため「緊急事態宣言を踏まえた活動方針」及び「集合形式による研修及び会議等開催におけるガイドライン」を策定</li> <li>・各委員会は諸計画を主にオンラインにより実施</li> <li>・相談業務経験交流会「何でも話そう座談会」の開催</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中で、各委員会は可能な限り「ハイブリット方式」により諸計画を実施した。</li> <li>・兵庫県精神保健福祉士会との合同学習会「なぜ、精神科医療現場等で虐待が起こるのか～神出病院の虐待事案から考える～」を開催</li> <li>・ソーシャルワーク関係5団体合同研修「ヤングケアラーへの支援とは」を開催</li> <li>・「防災と福祉の連携促進シンポジウム」を兵庫県と共催</li> </ul>		
決算額	73,800,608円		82,529,913円		
会員数	1,701名		1,688名		
会長・事務局体制	会長 谷口 弘 事務局 県福祉センター 事務局長 西野佳名子 事務局員 中村智穂美 事務局員 北野和香子 事務局員 胡中 智礼 他4名		会長 谷口 弘 事務局 県福祉センター 事務局長 西野佳名子 事務局員 中村智穂美 事務局員 北野和香子 事務局員 胡中 智礼 他4名		
国家試験・兵庫県合格者数(全国合格率)	第32回 535名 (29.3%)		第33回 467名 (29.3%)		
全国大会 近畿ブロック	第28回 高知県 高知市(コロナ禍で中止) 第28回 滋賀県社会福祉士会(中止)		第29回 山形県(Webによる開催) 第29回 和歌山県社会福祉士会(オンライン)		
社会福祉・社会保障の動向	〈新型コロナウイルスの流行〉 ・新型コロナウイルス感染症緊急経済対策の実施 ・地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律の成立(包括的な支援体制の整備など) ・少子化社会対策大綱(第4次) ・介護保険法改正(認知症に関する施策の総合的な推進など) ・社会福祉法一部改正(重層的支援体制整備事業)		〈新型コロナウイルスの感染拡大〉 〈デジタル庁の発足〉 ・全世代対応型の社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律の成立(全ての世代の安心を構築するための給付と負担の見直しなど) ・新子育て安心プラン ・障害者差別解消法改正(国・地方公共団体の連携協力の責務の追加など)		



# 30年のあゆみ

年度		2022 (令和4) 年度		2023 (令和5) 年度	
総 会	日時	第26回総会 6月25日(土)	第27回総会 3月25日(土)	第28回総会 6月24日(土)	第29回総会 3月23日(土)
	会場	兵庫県福祉センター ハイブリッド開催	兵庫県福祉センター ハイブリッド開催	兵庫県福祉センター ハイブリッド開催	
	講演	立木 茂雄 (同志社大学教授) 「社会福祉士としての 避難支援の在り方～ 避難行動要支援者を 平時から災害時をシーム レスで支えるソシヤル ワーク～」	津久井 進 (兵庫県弁護士会 前会長・日本弁護 士連合会災害復興 支援委員会委員) 災害ケースマネジ メント～災害復興 における法実務と ソシヤルワーク との連携	牧里 每治 (関西学院大学名 誉教授) 包括的支援体制の 構築とソシヤル ワーク～社会福祉 士へ期待すること～	
本 会 の 主 な 活 動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新型コロナウイルス感染症拡大状況を踏まえた活動方針」を策定</li> <li>・「ヤングケアラー・若者ケア相談窓口運営事業(兵庫県)」を受託</li> <li>・「ソシヤルワーカーデー」をオンデマンド配信</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務所を5階から3階へ移転</li> <li>・30周年記念事業</li> </ul>		
決算額	127,250,087円		119,284,000円(当初予算)		
会員数	1,724名		1,750名(2023年4月末現在)		
会 長 ・ 事 務 局 体 制	会 長 岡本 和久 事務局 県福祉センター 事務局長 西野佳名子 事務局次長 中山 貴之 事務局員 中村智穂美 事務局員 北野和香子 事務局員 胡中 智礼 他8名		会 長 岡本 和久 事務局 県福祉センター 事務局長 西野佳名子 事務局次長 中山 貴之 事務局員 中村智穂美 事務局員 北野和香子 事務局員 胡中 智礼 他8名		
国 家 試 験 ・ 兵 庫 県 合 格 者 数 (全 国 合 格 率)	第34回 504名 (31.1%)		第35回 733名 (44.2%)		
全 国 大 会 近 畿 ブ ロ ッ ク	第30回 東京都(ハイブリッド開催) 第30回 奈良県社会福祉士会(オンライン)		第31回 大分県 別府市 (後日オンデマンド配信) 第31回 大阪社会福祉士会		
社 会 福 祉 ・ 社 会 保 障 の 動 向	〈新型コロナウイルス感染の拡大状況が続く〉 ・「こども基本法」及び「子ども家庭庁設置法」の成立 ・障害者情報アクセスビリティ・コミュニケーション施策推進法の成立 ・改正児童福祉法成立(20歳まで自立支援)		〈新型コロナウイルス・第2類から第5類へ〉 ・子ども家庭庁設置		



# 30年のあゆみ

## 兵庫県社会福祉士会 (30年のあゆみ)



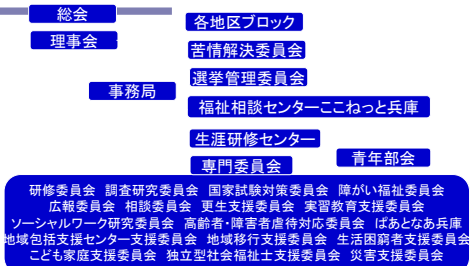
## ○公益社団法人 日本社会福祉士会

- 「社会福祉士」の職能団体
- 1987年5月「社会福祉士及び介護福祉士法」公布
- 1989年3月 第1回社会福祉士国家試験実施
- 1993年1月 任意団体として発足
- 1994年12月 全都道府県に支部を設置
- 1996年4月 社団法人日本社会福祉士会の設立
- 2012年4月 連合体組織に移行
- 2014年4月 公益社団法人に移行
- 会員数 44,205名(2022年5月末)
- 登録者 270,403人(2022年5月末)

## ○一般社団法人 兵庫県社会福祉士会

- 社団法人日本社会福祉士会の兵庫県支部として平成5年7月に発足
- 平成21年4月1日一般社団法人化
- 会員数 1,800名(2022年12月末)
- 全国でも有数の大規模支部(東京、埼玉、神奈川、大阪、北海道、福岡など)

## ○兵庫県社会福祉士会の組織



## ○専門委員会(17委員会)

- 兵庫県には、それぞれの分野や領域により専門委員会が組織され、現在17の専門委員会があります。
- 専門委員会では、会員同士が情報交換を行うとともに、各種研修や支援活動を展開しています。
- 専門委員会を通じて自己研鑽できるとともに仲間づくりにつながっています。

## ○地区ブロック活動(7地区ブロック)

- 新入会員対象の企画(入会説明会、歓迎会など)
- 地区ブロック総会(年1回)
- 研修会の企画(学習会・事例検討等)
- 交流活動(集い場、懇親会)
- まちかど相談会の実施(年1回)
- 自主ゼミ(国家試験対策講座)
- 通信、メーリングリスト、Facebook

## ○地区ブロック



## 兵庫県社会福祉士会のあゆみ(1)

- 1989年 2月 第11回社会福祉士国家試験
- 1993年 7月 兵庫県社会福祉士会発足(会員数55名)
- 1994年 1月 機関紙「ひよこ通信」第1号発行(年4回)
- 1994年 7月 第2回近畿ブロック研修大会(神戸市生活学習センター)
- 1995年 1月 阪神・淡路大震災(宝塚市、神戸市西区で被災者支援活動)
- 1995年 4月 復興本部設置(神戸市西区の阪神地区で被災者支援活動)
- 1996年 2月 第1回兵庫県社会福祉セミナー開催(ユニピアさきやま)
- 1998年 3月 研究誌「兵庫県社会福祉士」創刊(震災復興と社会福祉士)
- 1999年12月 会員数300名記念(ひよこ感謝の集い)
- 2003年 6月 第11回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会(兵庫大会・ポートピアホテル)・設立10周年
- 2004年 8月 権利擁護センター「ばあとなあ兵庫」設立
- 2005年 5月 春日野作業所(事務局)を借上
- 2006年 2月 第14回近畿ブロック研究・研修(兵庫大会)



# 30年のあゆみ

## 兵庫県社会福祉士会のあゆみ(2)

- 2007年4月 会員機関誌「ひよこ通信」第50号発行(年4回)
- 2007年7月 「在宅高齢者虐待対応専門職チーム」発足
- 2007年12月 会員数1,000名
- 2008年6月 設立15周年記念総会・三宮事務所上(事務局移転)
- 2009年4月 一般社団法人化(会員数1,128名)  
名称を「兵庫県社会福祉士会」に改称
- 2010年10月 福祉相談センター「ここねっと兵庫」開設
- 2011年1月 兵庫県福祉センター内に事務局移転
- 2011年4月～東日本大震災の支援活動  
(宮城県南三陸町・岩手県大槌町・陸前高田市等)
- 2011年5月～JR西日本相談センター事業への協力
- 2012年3月 第18回兵庫県総合リハビリテーションケア研究大会(神戸市)
- 2012年4月 日本社会福祉士会連合体(会員数1,300名)
- 2012年4月 新課程での基礎研修開始

## 兵庫県社会福祉士会のあゆみ(3)

- 2013年2月 第20回近畿ブロック研究・研修(兵庫大会)
- 2013年6月 設立20周年記念総会(会員数1,400名)  
兵庫県から感謝状を授与される  
「ひよこ通信」から「こうのとり通信」へ改称
- 2014年4月～兵庫県「高齢者虐待対応力向上研修事業」受託
- 2014年11月 丹波市水害へ支援活動
- 2015年7月 兵庫県内ソーシャルワーク関連5団体共催  
「ソーシャルワーカーデー」開催
- 2016年4月 「兵庫県社会福祉士会2020・第1期計画」策定
- 2016年4月～兵庫県「障害者虐待対応力向上研修事業」受託
- 2016年4月～兵庫県「障害者差別解消相談センター相談員派遣事業」受託
- 2016年7月 熊本地震へ支援活動
- 2016年12月 会員数1,500名
- 2017年3月 専用キャラクター「兵之助くん」誕生

## 兵庫県社会福祉士会のあゆみ(4)

- 2018年2月 第26回近畿ブロック研究・研修(兵庫大会)
- 2017年4月～兵庫県「地域包括支援センター職員向け困難事例対応力向上研修」事業受託
- 2018年4月～兵庫県「防災と福祉の連携促進事業」受託  
「医療的ケア児等コーディネーター養成研修事業」受託
- 2018年9月 西日本豪雨災害(岡山県)へ支援活動
- 2018年12月 会員数1,600名
- 2018年6月 設立25周年記念総会(会員数1,650名)
- 2019年4月 近畿ブロック共催 パリアフリー展に出展
- 2019年10月 「こうのとり通信」(100号)
- 2019年12月 会員数1,700名
- 2020年2月～新型コロナウイルス感染拡大を受け、  
研修体制・委員会活動の大幅な見直し

## 兵庫県社会福祉士会のあゆみ(5)

- 2020年5月～Zoomを使用したオンラインでの研修・委員会開催
- 2020年6月～兵庫県「住宅確保要配慮者居住支援法人」指定
- 2020年10月～兵庫県「新型コロナウイルス感染症対応ネットワーク(介護)整備事業」(緊急雇用)受託
- 2021年4月 「兵庫県社会福祉士会2025・第2期計画」策定
- 2022年4月～兵庫県「ヤングケアラー・若者ケアラー相談窓口事業」受託
- 2022年12月 会員数1,800名
- 2023年2月 第24回兵庫県総合リハビリテーションケア研究大会(神戸市)
- 2023年6月 設立30周年記念総会(記念式典・祝賀会)

## ○近畿ブロック研究・研修大会

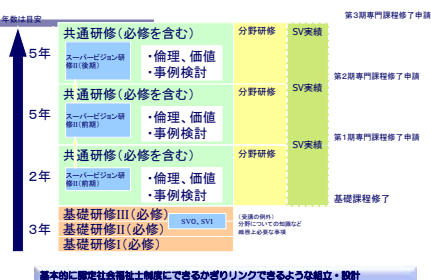


記念講演やシンポジウム、実践報告、分科会などで構成。近畿地区の他の会員さんとの交流の場となっています。

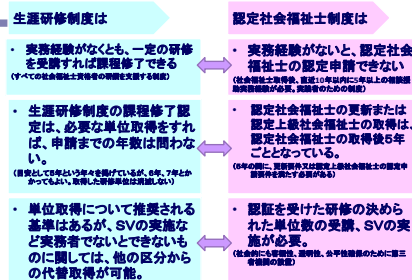
## ○災害支援活動 (東日本大震災、熊本地震への支援活動)



## 生涯研修制度の研修体系

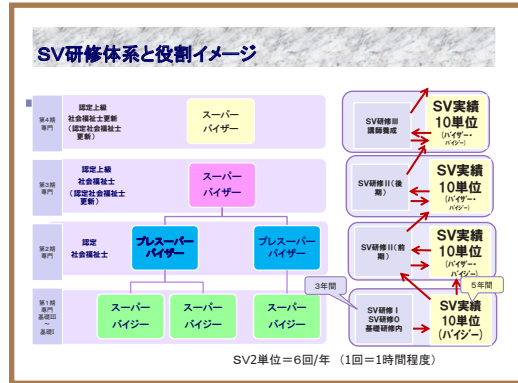
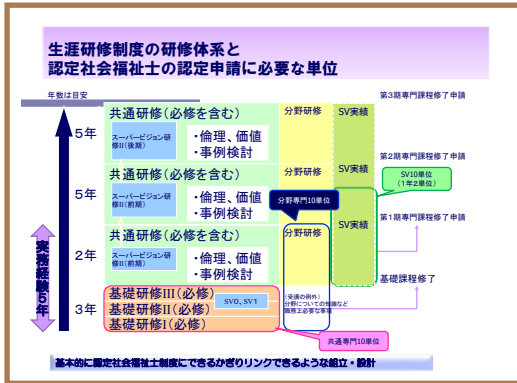


## 生涯研修制度と認定社会福祉士制度の相違





# 30年のあゆみ



## 会員機関紙(こうのとりの通信)

年間4回発行

- ▶ 春号...4月
- ▶ 夏号...7月
- ▶ 秋号...10月
- ▶ 新春号...1月

- 特集
- 行事報告
- 委員会だより
- ブロックインフォメーション
- 研修情報
- お知らせ
- 事務局情報

など

その他、同封物もあり

## ホームページ

- 研修情報の確認
- 申込書のダウンロード
- 基礎研修の情報
- お知らせ
- 発行物の閲覧
- 会員専用ページ など

## 専用キャラクター

【キャラクターの説明(作者より)】

兵庫なので、ヒョウ(兵)をモチーフにし、右手を広げて5(庫)を表しています。

社会福祉士なので戦士をイメージ。ベルトに社会福祉士のマークを入れ、ヒョウ柄の模様の1つがハートです。強さを持つヒョウでありながらハートを持つ愛らしく社会福祉士をイメージしたキャラクターです。



## 役員一覧

氏名	役職	任期
岡田 誠	会長	1993年～2009年
	相談役	2010年～2023年
福田 和臣	副会長	1993年～2003年
折田 忠温	副会長	1993年～2005年
岩木 久敏	理事	1993年～2006年
芝 拓哉	理事	1993年～1997年
	理事	2004年～2005年
	監事	2014年～2019年
喜田 みのり	理事	1993年～1999年
興津 亜希子	理事	1993年～2003年
高間 満	理事	1993年～1999年
永岡 典子	理事	1993年～1997年
岡本 和久	理事	1993年～2000年
	理事	2003年～2005年
	副会長	2006年～2011年
	理事	2012年～2013年
	会長	2014年～2019年
	会長	2022年～2023年
津田 耕一	理事	1993年～1997年
増山 陽子	理事	1993年～2003年
	理事	2012年～2017年
鳥居 登美子	理事	1993年～1995年
小西 加保留	理事	1995年～1999年
中川 純子	理事	1995年～1997年
山谷 美知子	理事	1993年～1994年
仲 経敬	理事	1993年～1994年
永井 正一	監事	1993年～1999年
白井 俊二	監事	1993年～1998年
正心 徹	理事	1998年～2002年
井土 睦雄	理事	1998年～2013年
葉賀 裕	理事	1998年～2001年
増田 陽子	理事	1998年～1999年
多々納 妙子	理事	1998年～2001年
瀬戸 昭	監事	1999年～2003年
谷田 芳浩	理事	2000年～2013年
	監事	2014年～2015年
橋本 幸蔵	理事	2000年～2006年
橋本 喜代美	理事	2000年～2001年
	理事	2008年～2009年

氏名	役職	任期
杓原 和生	理事	2000年～2001年
土谷 長子	監事	2000年～2005年
	理事	2006年～2009年
	会長	2010年～2013年
	理事	2014年～2019年
	監事	2020年～2023年
前嶋 弘	理事	2001年～2003年
	監事	2004年～2005年
	理事	2006年～2007年
	監事	2008年～2013年
西池 匡	理事	2002年～2007年
	理事	2012年～2021年
田中 朋子	理事	2002年～2003年
	監事	2006年～2007年
山田 和子	理事	2002年～2003年
重野 妙実	理事	2002年～2003年
	副会長	2004年～2011年
伊藤 彰	理事	2004年～2005年
	理事	2014年～2015年
笹倉 雅子	理事	2004年～2007年
荻本 文人	理事	2004年～2007年
中川 和子	理事	2004年～2009年
福田 崇徳	理事	2004年～2015年
上田 晴男	理事	2006年～2009年
中山 貴之	理事	2007年～2011年
	副会長	2011年～2021年
土屋 博子	理事	2007年～2011年
	監事	2012年～2013年
吉廣 貞美	監事	2006年～2009年
泉 房穂	理事	2008年～2009年
藤原 広巳	理事	2008年～2009年
三木 一子	理事	2008年～2011年
薄木 公平	理事	2010年～2013年
	理事	2016年～2023年
唐津 史朗	監事	2010年～2011年
谷口 弘	理事	2010年～2011年
	副会長	2012年～2019年
	会長	2020年～2021年
森 祥孝	理事	2010年～2011年

## 役員一覧

氏名	役職	任期
石丸 直樹	理事	2010年～2013年
中野 謙	理事	2010年～2011年
古家 英敬	理事	2010年～2011年
	理事	2022年～2023年
伊地知 正治	理事	2012年～2015年
	監事	2016年～2019年
黒瀬 吉史	理事	2012年～2013年
荒木 澄玲	理事	2012年～2013年
坂井 宏文	理事	2012年～2013年
宮崎 正行	理事	2014年～2021年
山下 雅夫	理事	2014年～2021年
西川 圭一郎	理事	2014年～2019年
尾崎 剛志	理事	2014年～2015年
伊東 圭一	理事	2016年～2019年
	副会長	2020年～2023年
奥住 剛	理事	2016年～2021年
中原 克子	理事	2016年～2023年
福本 和資	理事	2014年～2021年
塩尻 点	理事	2014年～2019年
	監事	2020年～2023年
杉原 一信	理事	2014年～2015年
槌谷 顕祐	理事	2016年～2019年
岡 真奈美	理事	2014年～2021年
溝田 弘美	理事	2018年～2023年
近藤 健太	理事	2020年～2023年
榎本 昌起	理事	2020年～2021年
	副会長	2021年～2023年
西垣 和仁	理事	2020年～2023年
岸 剛健	理事	2020年～2023年
中川 優一	理事	2020年～2021年
段 真奈美	理事	2022年～2023年
福井 良江	理事	2022年～2023年
米田 直人	理事	2022年～2023年
寺田 順一	理事	2022年～2023年
下中 智晃	理事	2022年～2023年
岩西 太一	理事	2022年～2023年
内藤 篤志	理事	2022年～2023年

事務局	
西野 佳名子	(2014年～現在)
中山 貴之	(2022年～現在)
中村 智穂美	(2009年～現在)
北野 和香子	(2012年～現在)
胡中 智礼	(2016年～現在)
笹岡 久美	(2013年～現在)
萩原 美千絵	(2014年～現在)
加戸 陽子	(2019年～現在)
一番合戦 桂子	(2020年～現在)
小坂 知博	(2021年～現在)
真利 敦子	(2021年～現在)

元事務局員（一年以上在職）	
芝 拓哉	(1993年～1998年)
岩木 久敏	(1993年～1998年)
吉田 誠一	(1999年～2009年)
芹澤 京	(1999年)
吉田 邦子	(2000年～2001年)
倉内 康子	(2003年)
河野 芳雄	(2004年～2007年)
中屋 ゆかり	(2006年～2013年)
竹内 早苗	(2008年)
宮安 正子	(2009年～2011年)
木場 弘	(2013年)
黒瀬 吉史	(2013年～2014年)
岸本 裕子	(2014年～2016年)
若林 知子	(2014年～2016年)
谷口 智昭	(2015年～2017年)
井上 一三	(2017年～2019年)
本多 武史	(2017年～2020年)



# 写真で振り返る



1994年7月近畿ブロック大会



2005年春日野事務所



2006年三宮事務所  
(永原ビル)



2008年2月近畿ブロック大会  
(懇親会)



2008年2月近畿ブロック大会



2008年2月近畿ブロック大会 (懇親会)



2014年6月第10回総会



2015年3月基礎研修1期生修了式



2015年7月SWD



2015年10月第15回兵庫社会福祉セミナー (丹波)



2016年9月施設見学 (べてるの家)



# 写真で振り返る



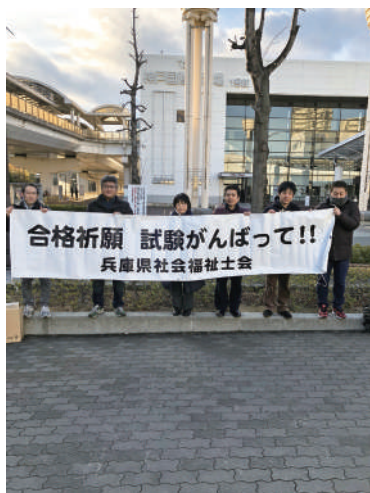
2017年12月忘年会



2017年12月忘年会



2017年12月忘年会



2018年2月国家試験受験日



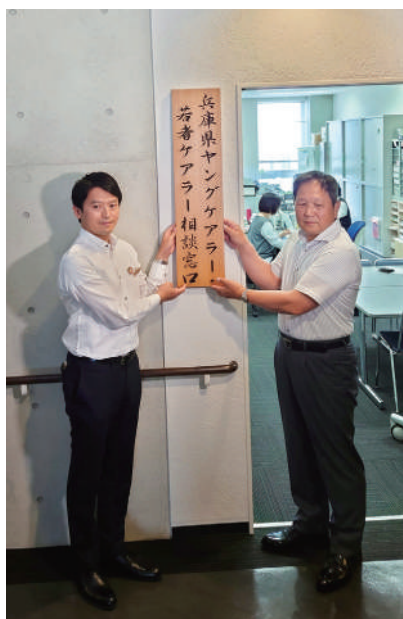
2018年7月SWD



2018年10月マインドフルネス研修(丹波)



2019年4月バリアフリー展



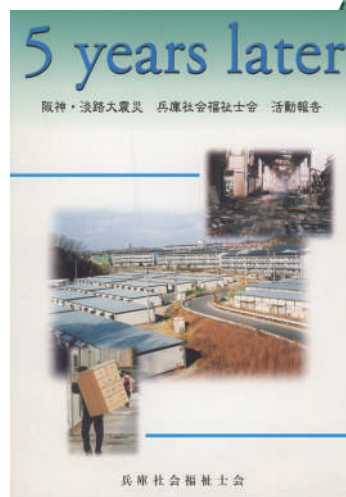
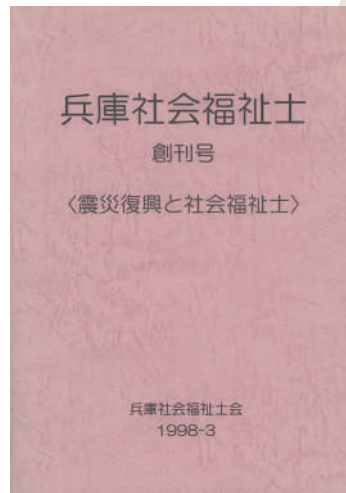
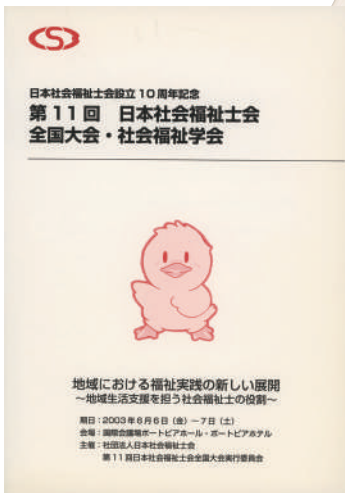
2022年6月ヤングケアラー・若者ケアラー相談窓口



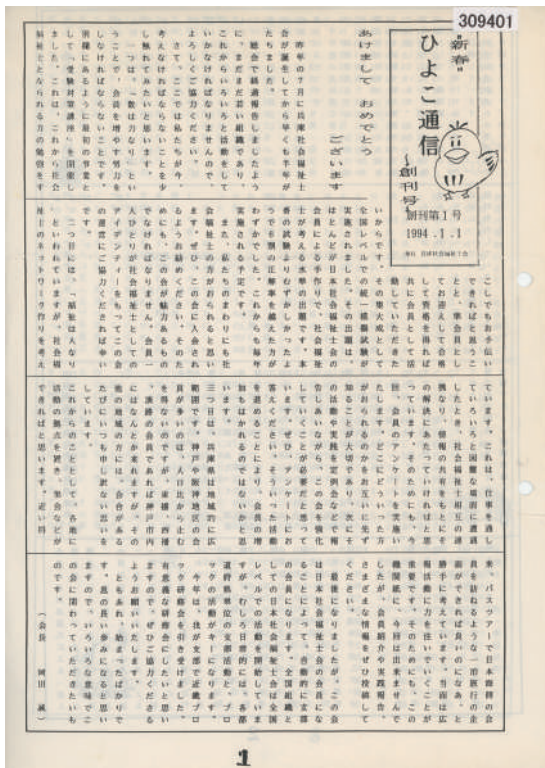
2023年3月(兵庫県福祉センター5F・事務局)



# 発行物で振り返る



# ひよこ通信のバックナンバー



1994年1月1日 ひよこ通信一創刊号一



1999年11月15日 一第20号一



2007年4月10日 一第50号一



2010年1月15日 一第61号一



# このとり通信のバックナンバー

Hyogo Association of Certified Social Workers  
http://www.hacsw.or.jp/

## このとり通信 2013 夏号

発行日：2013年7月10日 編集：広報委員会 第75号

### 「ひよこ」が「このとり」になりました。

会長 土谷 長子

兵庫県社会福祉士会は設立20周年を迎えるにあたって、これまで機関誌として発行してきた「ひよこ通信」の名称を変更することにし、新たな名称で再出発しました。10月15日(月)は名が変更された「このとり」の名称を正式に採用いたしました。この「このとり」は長年親しまれてきた「ひよこ」の名称を継承しつつ、新たな名称で再出発することになりました。この「このとり」は長年親しまれてきた「ひよこ」の名称を継承しつつ、新たな名称で再出発することになりました。この「このとり」は長年親しまれてきた「ひよこ」の名称を継承しつつ、新たな名称で再出発することになりました。

### 事務局長就任の挨拶

一般社団法人兵庫県社会福祉士会事務局長 委員長 本場 弘

本年4月4日から兵庫県社会福祉士会事務局長として勤務いたしました。事務局長を3年任期で定年まで勤め、3月まで、担任法人兵庫県立労働福祉センターに勤務し、兵庫県社会福祉士会とこれまでに繋がりがございましたが、今後は、職力ですが、当会が掲げている生涯学習推進の事業を進める中において、職能団体として社会福祉士の資質と社会的地位の向上のために、事務局として一層とらえたいと考えておりますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

### このとり通信に変わりました!

広報委員会 委員長 中山 貴之

「ひよこ通信」は、この夏号から「このとり通信」と名称を変更いたしました。また、紙面もリニューアルし、委員会情報、プロダクション情報、事務局情報に特化し、コンパクトにいたしました。事務局の業務については、次年度一週目以内を目処に、ホームページにて掲載いたします。今後の研修参加の参考にしていただけたらと考えております。

そして、研修行事の開催予定については、原則として同様のスケジュールですが、3ヶ月毎の年4回発行というペースですので、情報発信に遅れが生じます。このとり通信発行の際には、最新の研修行事に関する情報は、兵庫県社会福祉士会のホームページ、メールマガジンにて随時お知らせいたします。スポーツや文化情報を得るために、メンバーリストへの参加をお勧めいたします。基本情報については、ウェブアクセスが容易な方法にいたします。ホームページの更新も、委員からの情報をお知らせいたします。

編集・広報委員会では、皆様からの、問い合わせのご感想・ご意見をお待ちしております。皆様からいただいたご感想・ご意見はこちらのメールアドレスに送ってください。

sgdashy@hacsw.or.jpまでお問い合わせください。

今後とも「このとり通信」をよろしくお願いいたします。

2013年7月10日 第75号  
—このとり通信へ名称変更—

Hyogo Association of Certified Social Workers  
http://www.hacsw.or.jp/

## このとり通信 No.92 秋号

発行日：2017年10月10日 編集：広報委員会 第92号

### 役員改選のお知らせについて

一般社団法人兵庫県社会福祉士会 会長 岡本 和久

秋の候、平達は当会の運営に御支援・御協力を賜り誠に有難うございます。役員改選につきましては、一般社団法人兵庫県社会福祉士会役員選出に関する規則(以下「役員選出に関する規則」といいます)第2条により西暦偶数年に、その年の通常総会において行うこととなっております。

そのため、一般社団法人兵庫県社会福祉士会役員選出に関する規則(以下「役員選出に関する規則」といいます)並びに役員選出に関する規則にあり、次のとおり、選挙管理委員会を公表し、選挙管理委員会を設置した上で、選挙の公示、役員候補者の公募、役員候補者名簿の公示などを経て、2018年6月の通常総会において役員改選を実施する予定です。

役員改選につきましては、今後、役員選出に関する規則並びに役員選出に関する規則による手順を踏んで選出を行ってまいりたいと考えておりますので、今後とも、何れも御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 兵庫県社会福祉士会 専用キャラクターの名前が決定しました!!

魅力ある会づくりの一環として、本会より青春を尊びて感じられる、明るく、親しみのある専用キャラクターを募集し、そのキャラクターを本会の専用キャラクターとして決定しました。そして、2017年6月1日～2017年7月31日の期間でキャラクターの名前を募集したところ、会員8名より17点の応募がありました。選挙及びキャラクター作成による投票により最多票を得た黒川静次さんの右記作品を、本会専用キャラクターの名前として決定しました。今後、本会のウェブページをはじめ、様々な広報媒体で活躍していく予定です。よろしくお願い致します。

【名前の由来】  
黒川静次さんをお借りしていただいた名前をそのままにさせていただきます。

### 目次

- お知らせ…………… 1
- 選挙管理委員の公募について… 2～3
- 特集 第25回 全国大会報告 … 4～7
- お知らせ…………… 7
- メールマガジンは…………… 8
- プロックインフォメーション … 9～10
- 委員会だより…………… 11～13
- 事務局再編…………… 15
- 事務局情報…………… 16

2017年10月10日 第92号・兵之助誕生—

Hyogo Association of Certified Social Workers  
http://www.hacsw.or.jp/

## このとり通信 No.100 秋号

発行日：2019年10月10日 編集：広報委員会 第100号

### 日本社会福祉士会 理事就任あいさつ

理事 中山 貴之

2019年6月の日本社会福祉士会第32回通常総会において、理事ならびに学会運営委員長に就任いたしました中山でございます。

私は学会運営委員長として、全国大会における日本社会福祉士会連合会研究誌「社会福祉」の発行を担当することになりました。

私は社会福祉士という専門職ですが、「専門職」は、高度な専門知識と技術を持つことが必要です。国家試験に合格して、登録された上で専門知識・技術を身につけることができます。私たちは社会福祉士としての責任と誇りを持って「研修」を受講します。ただ、それは知識・技術をインプットするだけでは不十分です。インプットした知識・技術を実践に活かす。その実践を実践報告・実践研究としてアウトプットする必要があります。そのことで、私たちソーシャルワーカー専門職である社会福祉士の質向上のみならず、専門性への評価が高まるよう社会福祉士の見え方と理解の促進を図ることができると考えております。理念ながら、全国大会における実践報告・実践研究の役割が年々減少してきております。みなさまがご関心なのは宜々承知しておりますが、簡潔な文章・投稿をお願いします。

まずは、任期の2年間、「社会福祉士の発展・推進」をテーマに「ソーシャルワーク専門職のグローバル化」をテーマに「日本社会福祉士会連合会」を常任顧問として、ソーシャルワーク専門職である社会福祉士の質向上、地位向上、そして専門職の職能団体である社会福祉士の発展のために奮闘身して尽くしますので、何れも御支援・御協力をさせていただきます。

### 兵庫県社会福祉士会 副会長就任あいさつ

副会長 伊東 圭一

この度、兵庫県社会福祉士会の副会長に就任いたしました伊東圭一でございます。これまでの私自身の社会福祉士としての活動は、2009年より高齢者・障害者虐待対応委員会に参加し、2016年より理事として活動しております。仕事では地域包括支援センターの社会福祉士として10年勤務し、今年度からは特別養護老人ホームの施設長として勤務しています。社会福祉士は、まだまだ専門職として社会的認知ができていないと、日常の業務の中で感じることがあります。その一因は、社会福祉士が担う分野の範囲が広く、社会で生活する、すべての人の福祉に関与していることが求められるからだと思います。また職能が広いだけでなく、そのひとつひとつの分野において専門性が高く、一筋縄ではいかないことが多いためにも思います。そのような、社会福祉士の専門性を突き詰めるべく、本会では、広範囲な分野にわたり委員会が設置されています。選挙すると、研修委員会、調査研究委員会、国家試験対策委員会、広報委員会、選挙管理委員会、ソーシャルワーク研究委員会、高齢者・障害者虐待対応委員会、あひま全国協議会、地域包括支援センター女性委員会、ことごとく支援委員会、実習教育支援委員会、障がい福祉委員会、更生支援委員会、社会福祉士支援委員会、生活困窮者支援委員会、災害支援委員会、これだけの委員会が、様々な事業や活動により社会に貢献し、会員に還元するべく、取り組んでいます。

今後、ますます多様化する社会に対応するべく、会の機能向上が求められると考えます。私自身、まだまだ未熟ではございますが、社会福祉士の地位向上と、本会のさらなる発展に向け取り組めますので、何れもよろしくお願い申し上げます。

2019年10月10日 第100号—

Hyogo Association of Certified Social Workers  
http://www.hacsw.or.jp/

## このとり通信 No.114 春号

発行日：2023年4月10日 編集：広報委員会 第114号

### お知らせ

#### 事務局移転のお知らせ

2023年4月1日より、業務の拡大に伴い、事務局を兵庫県福祉センターの3階に移転いたしましたのでお知らせいたします。

なお、入居する建物、電話番号は変更ありません。

- 移転先所在地：神戸市中央区坂口2丁目1-1 兵庫県福祉センター3階
- 事務局電話番号：078-265-1330 Fax：078-265-1340
- 新事務局での業務開始日：2023年4月3日(月)より

### 研修管理システム「manaable (マナブル)」を導入いたします。

このとり通信夏号掲載分の本会開催研修より、研修管理システム「manaable (マナブル)」を導入いたします。

上記システムに会員の登録に際していただき、申込・参加費支払いをWeb上で行っていただくこととなります。

また、参加費支払い方法は、従来の銀行振込に加え、クレジットカード支払、コンビニでの支払が可能となります。

登録・申し込み・参加費支払い方法などについては「このとり通信夏号」でお知らせいたします。

2023年4月10日 第114号・事務局移転—







《兵庫社会福祉士会の歌》

# あなた色に染めて・・・

作詞・作曲 井土睦雄  
編曲 福原圭子

こんにちは はじめまして どうぞよろしく ひとからひとへ あな  
たのこえを やさしくつなぐ いつま でも あなたとともに のこしたいも  
の それはただ みんなのこえで くらしあうまち このまちでそだ  
ちあなたといきる - このまちをすてきなあなたいろにそめて  
できるからきつときみなら できるからきつときみと ラララララ ララ  
ラララ ラララララ ラララ ラララ できるから -

(1995年作成)

## 編集後記

30年記念誌を最後まで手にして頂き誠にありがとうございました。

ご寄稿いただいた皆様には厚く御礼申し上げます。また、本誌には載せられておらず、お言葉を頂戴しなかった方々も数多くおられます。

これから進むべき40年・50年記念の節目にむけて、またぜひ皆様のお言葉を届けて頂ければ幸いです。

社会改革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと開放を促進する、実践に基づいた専門職として、社会福祉士皆様のご活躍をお祈りしております。

(近藤 健太)

岡田相談役、岡本会長、土谷監事、谷口前会長、近藤理事を中心に、会員皆さんで作  
り上げた30周年記念誌を手にとって読んでいただければ嬉しいです。

ご協力いただいた多くの方々に感謝申し上げます。編集に携わることができて幸せ  
でした。

(中屋 ゆかり)



一般社団法人 兵庫県社会福祉士会  
30周年記念誌

発行日 2023年6月24日

編集・発行所

一般社団法人 兵庫県社会福祉士会

〒651-0062 神戸市中央区坂口通2-1-1  
兵庫県福祉センター 3F

電話 078-265-1330

印刷所 小野高速印刷株式会社





